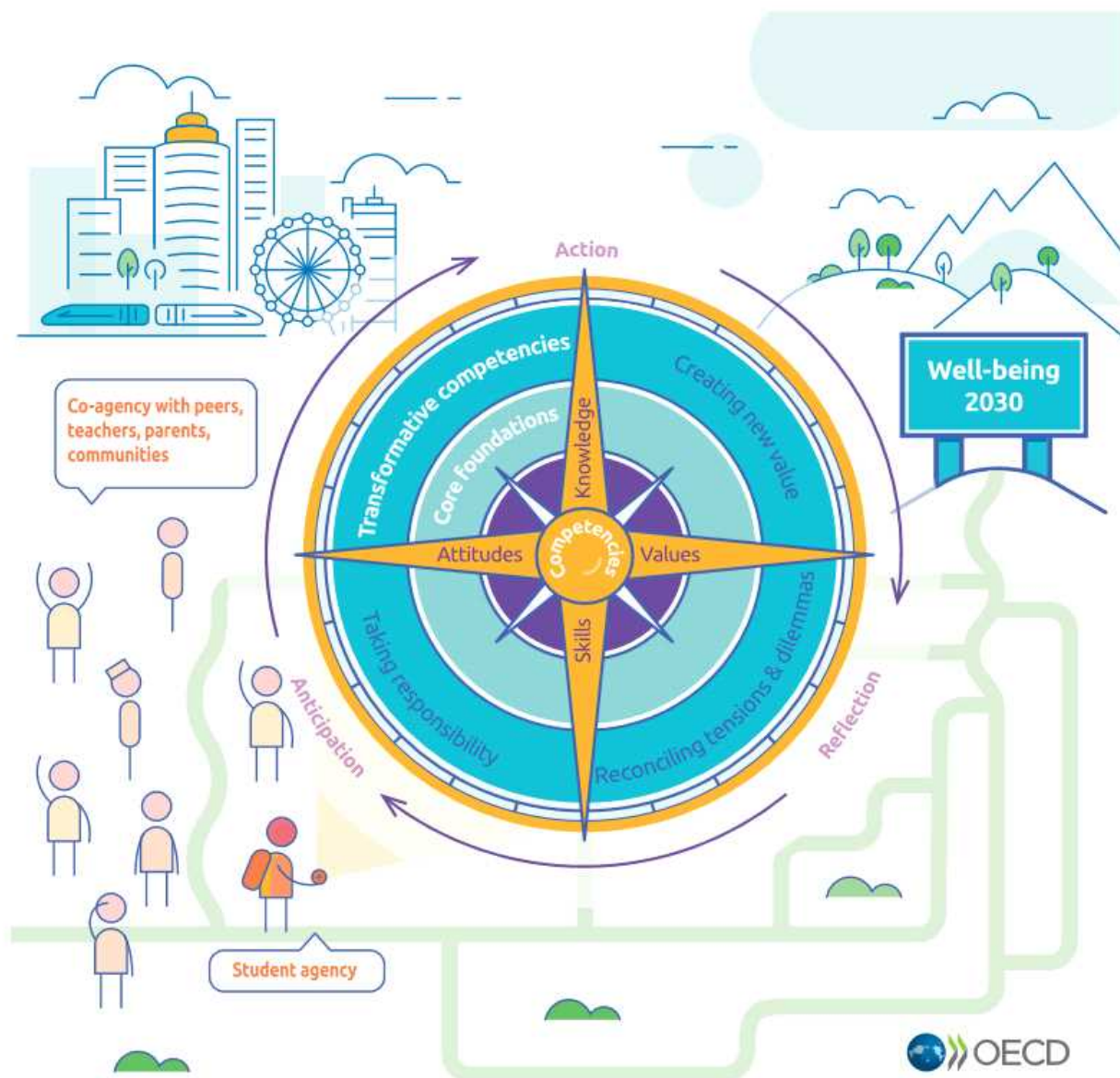




Global Science Course Workbook

The OECD Learning Compass 2030



「問い」を見出し、育み
新たな「問い」を創る

GS本

熊本県立宇土中学校・宇土高等学校
令和6年度（2024年度）版

はじめに *****

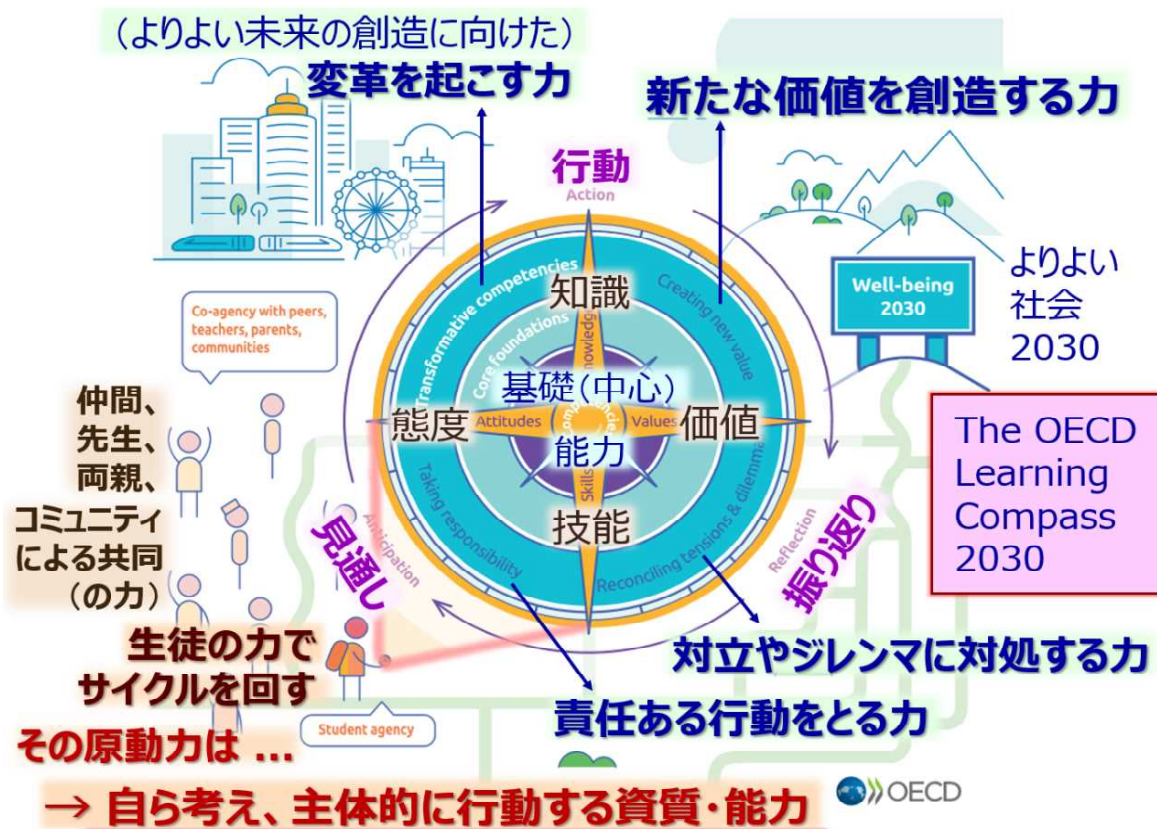
君たちが将来生きていく社会が、誰にとっても幸せを感じることができる世の中であることは、人類にとって重要な課題です。OECDは、君たち若い人たちが将来“よりよい社会”をつくるために必要な力を身につけるための学びの枠組み『ラーニング・コンパス2030』を策定しました。

表紙の図は、それを表したもので、生徒には『自ら考え、主体的に行動する資質・能力』という意味のエージェンシー（変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力）を求め、それが「見通し」「行動」「振り返り」の「AARサイクル」を動かす原動力となり、それによって「よりよい社会を実現」するとしています。

その『自ら考え、主体的に行動する資質・能力』を君たちが養い培っていくことは、以前行われていた教師から半ば一方的に教えるという授業では、十分に達成できません。そして「自ら考え、主体的な行動」につながる新たな学びの形が求められる中で「課題研究」が取り組まれるようになりました。2022年に導入された新しい教育課程の下で、現在、日本の全ての高校生が『探究活動』に取り組んでいます。

『探究』のキーワードは「問い」であり、『探究活動』は、「問いを見出し」「問いを育み」「新たな問いを創る」ことです。それは、自分の知らない自分に気づき、自分を深め、自分の未来を切り拓いていくことなのです。あなたの「Well-being」とともに、社会の「Well-being」そして人類の「Well-being」に貢献する一員として、どのような課題と向き合いますか。まず、自分自身と対峙するところから始めましょう。将来、誇りにできる自分であるために...

The OECD Learning Compass 2030



The OECD Learning Compass 2030 とは？

OECD* が策定した、よりよい社会を実現するために求められる学びの羅針盤（枠組み）。よりよい未来の創造に向けた... “Transformative Competencies”（変革を起こす力）や “Creating new value”（新たな価値を創造する力）、“Reconciling tensions and dilemmas”（対立やジレンマに対処する力）、“Taking responsibility”（責任ある行動をとる力）を子どもたちへの育成を目指す資質・能力として定義し、それらを育む学習過程として “Anticipation”（見通し）、“Action”（行動）、“Reflection”（振り返り）から成る「AARサイクル」を示した。そしてそのサイクルを回していく原動力として、「自ら考え、主体的に行動する資質・能力」という意味の “Student agency” を位置づけている。

*OECD（Organization for Economic Cooperation and Development 経済協力開発機構）

1961年発足、本部はパリ。日本は1964年に加盟、現加盟は36ヵ国。

加盟国の高度経済成長と生活水準の向上、発展途上国への援助と世界貿易の拡大を目的とする。主に先進国で組織されているため “先進国クラブ” と呼ばれている。

【GS本(ワークブック)に記入する時に、守ってもらいたいこと】

調査・研究の記録の際は、ボールペンなど修正ができないもので記入すること。

鉛筆やシャープペンシルを使用しないのは、データの改ざん(研究不正)や記録消失を防ぐためであり、大学等における研究や世界の研究機関で行われている。

Profile （研究テーマとリサーチクエスションは確定したら記入）

2 年	組	号	氏名	3 年	組	号
班：		班員：				
研究テーマ：						
リサーチクエスション：						

「問い」を見出し、育み、新たな「問い」を創る

GS本 ～ Global Science Course Workbook ～

= 目次 =

ロジック・ループリック（評価基準）	p. 4
令和6年度（2024年度）GS課題研究 探究活動プロセス	p. 6
令和6年度（2024年度）2学年 GS課題研究 年間活動計画	p. 7
GS課題研究 オリエンテーション（r.6.5.17）	p. 8
1. 未来社会を見据える 2. 現代と未来の狭間で	
2. 希望の未来社会を実現するために 3. 探究活動の先にあるもの	
GS課題研究 テーマ設定ガイダンス（r.6.5.24）	p. 12
1. 課題研究の特徴 2. 課題研究のステップ	
3. 研究テーマを設定する 4. 課題研究で留意するポイント	
5. 研究倫理の尊重	
SDGs 17目標	p. 24
1 研究テーマ（課題）設定	
(1) 課題・研究テーマを知ろう	p. 26
(2) 学術分野を知ろう	p. 30
選択した研究テーマについて（自己紹介・グループワーク）	p. 32
2 研究テーマへの知識・理解を深める	
(1) キーワードの抜き出し	p. 38
～スクラップブック作成、文献リストの記入	
(2) キーワードの抽出・グループ化	p. 43
(3) 班別協議	p. 46
(4) ブレインストーミングでキーワードを整理する	p. 47
(5) キーワードマッピングの内容を文章に表す	p. 48
(6) 研究テーマの案	p. 48
(7) 先行研究・先行事例の検証	p. 49
3 研究計画書を作成する	
(1) リサーチクエスション（探究の問い）を導こう	p. 50
(2) 仮説を立てよう	p. 52
(3) 現段階での『（仮）研究テーマ』と『（仮）リサーチクエスション』	p. 54
(4) リサーチクエスションの設定	p. 56
研究計画書の作成 【発表シート】、振り返り（総括・反省）	p. 58

4	ポスターを作成し、発表する	
(1)	ポスターの作成の手順（ポスターのレイアウト p.61）	p. 60
(2)	文章の作成（気をつけるべき表現 一覧 p.64）	p. 62
(3)	ポスターの発表	p. 66
(4)	中間発表会（ポスター発表）の評価	p. 67
	振り返りシート（中間発表会・ポスター発表）	p. 68
5	プレゼンテーションの技法	
(1)	プレゼンテーションとは何か	p. 70
(2)	プレゼンテーションの基本構造	p. 71
(3)	見やすいスライドにするために	p. 72
(4)	発表の準備：「要点メモ」の作成と練習	p. 73
(5)	プレゼンの話し方（⇒練習のポイント）（Power Point 構成シート）	p. 76
(6)	最終発表会（パワーポイントによる発表）の評価	p. 77
(7)	スパープレゼンテーション（研究成果発表会）発表班 選考会	p. 78
	振り返りシート（中間発表会・Power Point プレゼン）	p. 79
	課題研究を振り返って（1年間の取り組みの総括・反省）	
6	集団討論に挑む	
	大学入試における討論テーマ（宇土高の先輩が受験したもの）	p. 82
(1)	集団討論の一般的な流れ	p. 85
(2)	集団討論で心がけるべきこと	p. 85
(3)	発言の仕方	p. 87
(4)	日頃から心がけて欲しいこと	p. 90
	3年集団討論 評価票・記録用紙	
<i>Appendix</i>	アンケート調査の手順	p. 96
	小論文に取り組む 《表記のルール》《小論文の出題例》	p. 98
	SDGs 169 target	p.108
	GS課題研究テーマ一覧（過年度研究テーマ一覧）	p.117
	地域資料一覧	p.126
	宇土市のまちづくり	p.127
	インタビュー等 記録欄	p.128
	お礼状（例）	p.131
	自由記録（メモ）欄（4 ページ）	p.132
	参考文献・引用文献	p.136

ロジック・ルーブリック（評価基準）

【ロジック・ルーブリック】（LOGIC・ガイドブック より）

（内容）課題研究の目標の達成度を評価するための評価基準
（評価の観点と尺度を段階に分けて示したもの）

（構成）6つの観点（L・O・G・I・C + W）とそれぞれ5段階の尺度で構成

“LOGIC”『Think Logically, Objectively and Globally. Be Innovative and Creative.』
～論理的に、客観的に、グローバルに思考せよ。その思考は革新的であれ、創造的であれ～

	Logically (論理性)	Objectively (客観性)	Globally (グローバル)	Innovative (革新性)	Creative (創造性)	Well-Being (ウェルビーイング)
5	説明の論理性 研究をアカデミ ックライティング の手法で説明 できる	研究の客観性 第三者が課題 研究論文集か ら客観的に研 究証明できる	国際発表 英語で課題研 究の成果を発 表することができる	構造の変化 研究結果から 従来の枠組・ 構造を変える ことができる	概念の創造 研究結果から 新しい概念を 見出すことが できる	探究と公共 探究を人類・ 社会の幸せを 願って進める ことができる
4	説明の対照性 対照実験とし てコントロール の設定ができ る	研究の正当性 統制群とコン トロールの違 いを統計的に 証明できる	国内発表 研究の成果を 学校外で発表 することができ る	疑問の変化 研究結果・考 察から手法や 条件の再設定 ができる	価値の創造 研究内容及 び研究結果に 価値を見出す ことができる	探究と公生 探究を学校や 地域をよくす るために進め ることができる
3	説明の一貫性 研究の仮説・ 目的と手法、 結果、考察に 一貫性がある	研究の再現性 実験手法から 再現性の高い 結果を示すこ とができる	同世代発表 研究の成果を 様々な高校生 に発表するこ とができる	仮説の変化 研究結果の考 察から研究の 仮説を再設定 できる	思考の創造 研究結果の考 察から新たな 研究を見出す ことができる	探究と展望 探究を個人の 希望と展望を 持って進める ことができる
2	説明の確実性 説明の根拠と なるデータを示 すことができ る	研究の妥当性 確立した科学 的手法を用い た実験・研究 ができる	グローバルの一步 研究の概要 Abstractを英語 でも説明するこ とができる	知識の変化 研究内容と教 科書等学習内 容の関連がで きる	知識の創造 研究内容から 教科書等学 習内容の知識 ができる	探究と個人 探究を個人の 興味や関心に 基づき進める ことができる
1	説明の一般性 科学的論文形 式IMRADに 沿ったレポート ができる	情報の正確性 参考文献の出 典を明らかに したレポート ができる	視野の広がり 自分の興味・視 野を未知の世 界で拓くレポ ートができる	感覚の変化 自分の認識・ 感覚を変える レポートがで きる	未知の創造 自分の既知と 未知の区別が あるレポート ができる	探究と意義 探究を外的刺 激や責任・義 務感で進める ことができる

知識・技能 【探究】	思考・判断・表現 【探究】	主体性【探究】
------------	---------------	---------

※主体性：主体的に学習に取り組む態度

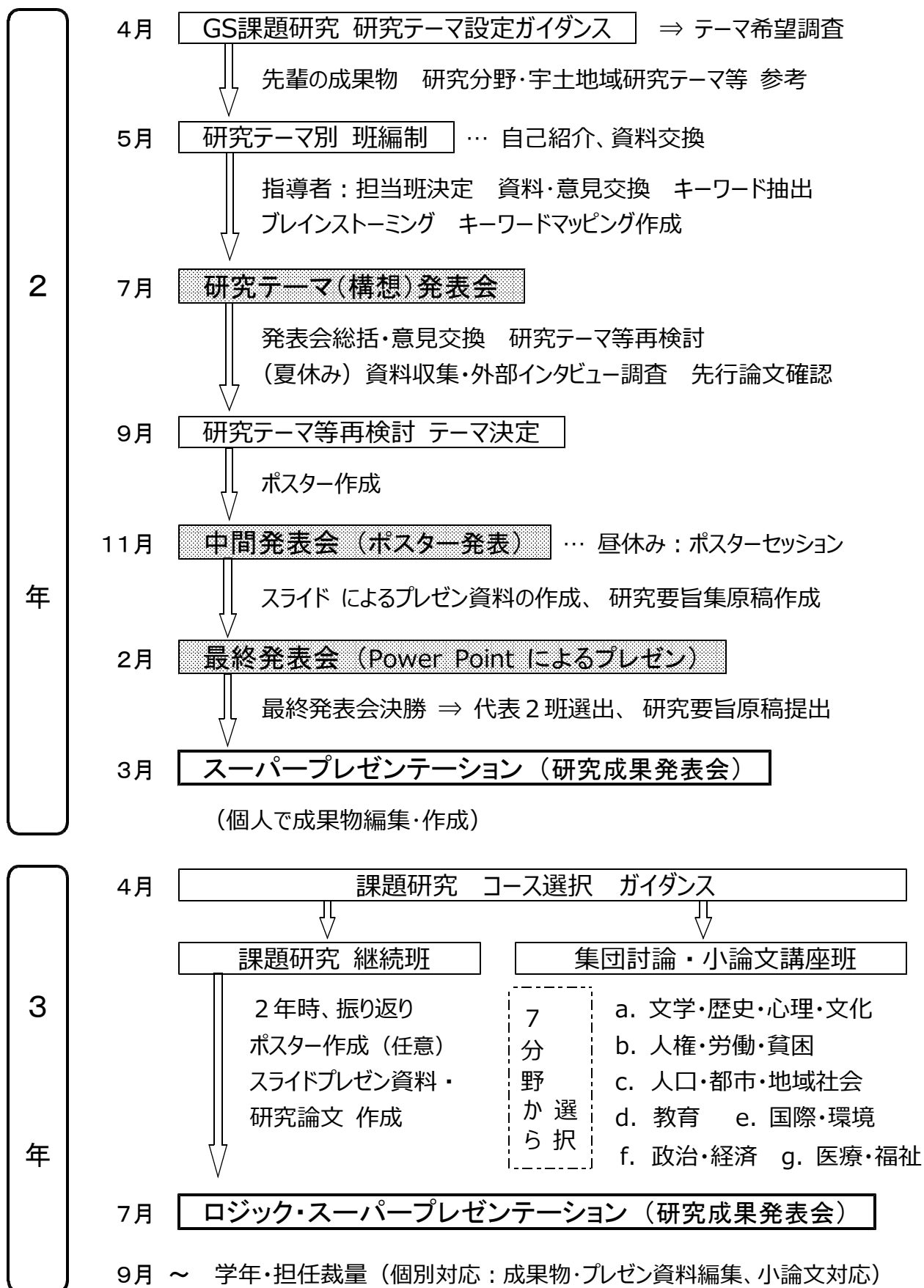
【ロジック・ルーブリック - GS版】 ※ Logically（論理性）、Objectively（客観性）を一部変更

	Logically (論理性)	Objectively (客観性)	Globally (グローバル)	Innovative (革新性)	Creative (創造性)	Well-Being (ウェルビーイング)
5	説明の論理性 研究をアカデミックライティングの手法で説明できる	研究の客観性 第三者が課題研究論文集から客観的に研究証明できる	国際発表 英語で課題研究の成果を発表することができる	構造の変化 研究結果から従来の枠組・構造を変えることができる	概念の創造 研究結果から新しい概念を見出すことができる	探究と公共 探究を人類・社会の幸せを願って進めることができる
4	説明の対照性 研究成果を検証し、妥当性を論理的に説明することができる	研究の正当性 研究結果を対象データを用いて比較し、証明できる	国内発表 研究の成果を学校外で発表することができる	疑問の変化 研究結果・考察から手法や条件の再設定ができる	価値の創造 研究内容及び研究結果に価値を見出すことができる	探究と公生 探究を学校や地域をよくするために進めることができる
3	説明の一貫性 研究の仮説・目的と手法、結果、考察に一貫性がある	研究の再現性 研究(データ)から再現性を客観的に示すことができる	同世代発表 研究の成果を様々な高校生に発表することができる	仮説の変化 研究結果の考察から研究の仮説を再設定できる	思考の創造 研究結果の考察から新たな研究を見出すことができる	探究と展望 探究を個人の希望と展望を持って進めることができる
2	説明の確実性 説明の根拠となるデータを示すことができる	研究の妥当性 確立した科学的手法を用いた実験・研究ができる	グローバルの一步 研究の概要Abstractを英語でも説明することができる	知識の変化 研究内容と教科書等学習内容の関連ができる	知識の創造 研究内容から教科書等学習内容の知識ができる	探究と個人 探究を個人の興味や関心に基づき進めることができる
1	説明の一般性 科学的論文形式IMRADに沿ったレポートができる	情報の正確性 参考文献の出典を明らかにしたレポートができる	視野の広がり 自分の興味・視野を未知の世界で拓くレポートができる	感覚の変化 自分の認識・感覚を変えるレポートができる	未知の創造 自分の既知と未知の区別があるレポートができる	探究と意義 探究を外的刺激や責任・義務感で進めることができる

《何を学び、どのような力を高めるのか》

- Logically**（論理性）：アカデミックライティング・要約力
(学術的文章を書く技術, データや文章を要約する)
- Objectively**（客観性）：データサイエンス・統計学
(様々な領域の手法を用いて有意義なデータを引き出す)
- Globally**（グローバル）：グローバル・ローカル
(地球的規模, 一定の地方・地域=限られた特有のモノ・状態)
- Innovative**（革新性）：サイエンスマインド・リテラシー
(科学の心・精神, 読み書きの能力=適切に理解・解釈・活用する)
- Creative**（創造性）：エンジニアリング・アート
(科学技術の応用による物品生産の技術, この世の創造物と巡らす思考)
- Well-Being**（ウェルビーイング）：ウェルビーイング（関係性や価値観による持続可能な幸せ）
(外発的動機から内発的動機へ, 個人の興味・関心を希望・展望へ, 個人から学校や地域, 社会, 人類をよい状態することの実現を追求する)

令和6～7年度（2024～2025年度）GS課題研究 探究活動プロセス



令和6年度（2024年度）2学年 GS課題研究 年間指導計画

令和6年4月4日

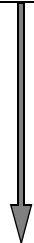
回	月 日	曜	校時	内容	場所	担当	備 考
第1学期							
*	4月12日	金	*	新年度オリエンテーション・ポスターセッション			
1	4月19日	金	5・6限	GS課題研究テーマ設定ガイダンス・希望調査	体育館/各教室	西本・担任	中学3年合同
*	4月26日	金	*	PTA総会			
*	5月3日	金	*	憲法記念日			
*	5月10日	金	*	体育祭競技リハ、設営準備			
2	5月17日	金	5・6限	GS課題研究ガイダンス・班編制	体育館/各教室	西本・担任	
3	5月24日	金	5・6限	研究テーマ担当者（先生方の担当）決定 研究テーマ検討（資料交換、キーワード抽出）	各教室	担当者	
*	5月31日	金	*	↓ 高校総体、高校総合文化祭			
4	6月7日	金	5・6限	研究テーマ検討（キーワード抽出、ブレインストーミング）	各教室	担当者	
5	6月14日	金	5・6限	研究テーマ・研究計画書 検討（中学3年と分野別意見交換会）	各教室	担当者	
6	6月21日	金	5・6限	研究テーマ・研究計画書 検討（テーマ決定・研究計画書 完成）	各教室	担当者	
*	6月28日	金	5・6限	↓ 第1学期 考査（実力テスト）			
7	7月5日	金	5・6限	GS課題研究テーマ（構想）発表会（3～4グループ分散）	各教室	西本・担当者	中3・参加予定
*	7月19日	金	*	午前授業（1・2・3・4）			
8	7月23日	火	終日	UTO well-Being 探究 Award 2024	熊本城ホール		
9	7月26日	金	*	夏休み活動計画立案 設定した 研究テーマによる探究活動			
第2学期							
10	9月6日	金	5・6限	↓ テーマ（構想）発表会総括・反省、テーマ再検討、研究手法検討	各教室	担当者	
11	9月13日	金	5・6限	夏休み取組・収集資料等総括 テーマ最終決定 ポスター作成 開始	各教室	担当者	
12	9月20日	金	5・6限	ポスター作成	各教室	担当者	
13	9月27日	金	5・6限	ポスター作成	各教室	担当者	
*	10月4日	金		文化祭			
14	10月8日	火	5・6限	ロジックプログラムⅡ（大学・研究機関等 出張講義）	各教室	担当者	16講座
15	10月11日	金	5・6限	ポスター作成	各教室	担当者	
*	10月18日	金		第2学期 考査（実力テスト）			
16	10月25日	金	5・6限	ポスター作成	各教室	担当者	
*	11月1日	金	*	UTO探究週間			
17	11月8日	金	5・6限	↓ 中間発表会リハーサル（ポスターはB4版で印刷）	各教室	担当者	
18	11月15日	金	5・6限	中間発表会（ポスター発表、ポスターセッション）	体育館/各教室	西本・担当者	SS合同
19	11月22日	金	5・6限	中間発表会 振り返りワークショップ プレゼン資料（パワーポイント）・研究要旨 作成	各教室	担当者	
20	11月29日	金	5・6限	プレゼン作成・研究要旨 作成	各教室	担当者	
*	12月6日	金	*	修学旅行			
21	12月13日	金	5・6限	プレゼン作成・研究要旨 作成	各教室	担当者	
22	12月20日	金	5・6限	プレゼン作成・研究要旨 作成	各教室	担当者	
第3学期							
23	1月10日	金	5・6限	プレゼン作成・研究要旨 作成	各教室	西本・担当者	
*	1月17日	金	*	3限授業			
24	1月24日	金	5・6限	プレゼン作成・研究要旨（提出）	各教室	西本・担当者	
*	1月31日	金	*	↓ 第3学期 考査			
25	2月7日	金	5・6限	最終発表会リハーサル	各教室	西本・担当者	
26	2月14日	金	5・6限	最終発表会（パワーポイントによるプレゼンテーション）	各教室	西本・担当者	4会場分割
27	2月21日	金	5・6限	最終発表会決勝・成果発表会代表班選出	総合教室1・2	西本・担当者	
*	2月28日	金	*	卒業式予行・同窓会入会式			
*	3月7日	金	*	高校入試（後期選抜）採点			
28	3月14日	金	5・6限	最終発表会振り返り・アンケート	各教室	担当者	
29	3月19日	水	終日	SSH研究成果発表会	宇土市民会館		2組発表
*	3月21日	金	*	3限授業			

令和6年5月17日（金）

1. 未来社会を見据える

(1) 君たちが生きる将来の社会

『Society 5.0』という未来社会

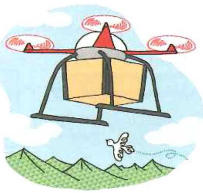


Society 1.0 ⇒ 狩猟社会
Society 2.0 ⇒ 農耕社会
Society 3.0 ⇒ 工業社会
Society 4.0 ⇒ 情報社会
Society 5.0 ⇒ 超スマート社会

未来：先端技術の進歩によって、大きく変化する社会

《予想される変化》

(これまでの社会) 地域の課題や高齢者のニーズ等に十分対応できない



(これからの社会)
イノベーションにより
様々なニーズに
対応できる社会

(これまでの社会) 年齢や障がいなどによる労働や行動範囲の制約



(これからの社会)
ロボットや自動走行車
などの技術で、人々の
可能性が広がる社会

(これまでの社会) 知識・情報の共有、連携が不十分



(これからの社会)
IoT ですべての人と
モノがつながり、新たな
価値が生まれる社会

(これまでの社会) 必要な情報の検索・分析が負担
リテラシー（活用能力）が必要



(これからの社会)
A I により、必要な
情報が必要な時に
提供される社会

(2) A I は、どこまで未来の人間から仕事を奪うのか？

2016年、野村総合研究所、英・スタンフォード大学の共同研究

⇒ 日本国内601種類の職業の代替確率を試算

(結果) 10～20年後、日本の労働人口の49%が
AIやロボットに代替される可能性

① AIで代替の可能性が高い職業

医療事務員 受付係 ホテルの客室係
新聞配達員 宝くじの販売員 警備員
銀行の窓口係 スーパーの店員
鉄道、路線バスやタクシーの運転手
(自動運転技術の進展によって可能に)

⇒ イレギュラーな要素が少ない、定型的な業務

② AIに代替されにくい職業

アナウンサー コピーライター 外科医
医療ソーシャルワーカー 雑誌編集者
マーケティング・リサーチャー ファッション
デザイナー インテリアデザイナー
アロマセラピスト フラワーデザイナー

⇒ 高い「創造性」、臨機応変な対応が必要

教師 看護師 獣医師 介護職 など
イレギュラーな要素が多い業務は、AIや
ロボットに代替されにくいと指摘

(3) A I と協調して、自分を仕事で生かす

A I ・人工知能にないものは...

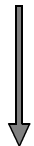
「思いつき」「閃き」「直感」「臨機応変」
仕事の中で培われる「勘」
肌と肌が触れあう「心地よさ」「笑顔」

⇒ A I に仕事を奪われてしまう... という心配より
人間だからこそできる仕事は何！ と考えよう

2. 現代と未来の狭間で

(1) 現代から将来の社会を見つめる

将来の予測が困難になっている



私たちを取りまく環境が変化
(ビジネス環境や市場、組織、個人など)
将来の予測が困難になっている状況

「VUCA (ブーカ)」という (造語)

Volatility	(ヴォラリティ・変動性)
Uncertainty	(アンサートウニティ・不確実性)
Complexity	(コンプレクシティ・複雑性)
Ambiguity	(アムビグ्यूティ・曖昧性)

という、4つの単語の頭文字

(2) 将来の社会「VUCA (ブーカ)」

① 「Volatility : 変動性」

「これからどのような変化が起こっていくのが」が
予測不可能な、**変動が激しい状態**

例) 「スマートフォン」や「SNS」の急速な普及
それに伴うビジネスやマーケティング手法の変化
コロナ禍における経済活動のあり方、など

② 「Uncertainty : 不確実性」

不確実なことが多く、「この先、私たちを取りまく
環境が、どう変化していくのか」がわからない状態

例) 「地球温暖化による気候変動」

「新型コロナウイルス感染症」による経済への影響
「ロシアのウクライナ侵攻」による国際秩序の影響

③ 「Complexity : 複雑性」

**さまざまな要素・要因が複雑に絡み合っていて、
単純な解決策を導き出すのが難しい状態**

例) 国によって差がある「キャッシュレス化」の浸透度
アフガニスタンにおけるイスラム勢力の支配
ミャンマーにおける軍事政権と民主化勢力の争い
原油価格の上昇や半導体不足の克服、など

④ 「Ambiguity : 曖昧性」

「どうしたら、この問題を解決できるのか」
「本当にこの方法で解決できるのか」

絶対的な解決方法が見つからない曖昧な状態

例) 地方創生事業における観光投資と雇用創出
大企業同士の合併、資本提携、共同経営、など

(3) 「VUCA (ブーカ)」で不可欠な思考法

◆ 「OODA ループ」 変化に柔軟かつ
迅速な対応が可能



Observe : 観察 (生データを収集)

↓ データを基に
Orient : 状況判断 (現状把握・理解)

↓ (具体的な方針、
Decide : 意思決定 (アクションプラン)

↑
Act : 実行 (決定したことを、迅速に実行)

(4) 「**VUCA**(ブーカ)」の時代を生き抜くために
求められる4つのスキル(能力)

- ① : **意思決定 と 迅速な対応力**
⇒ 迅速で的確な判断と速やかな行動
- ② : 状況の変化に柔軟に対応する **臨機応変力**
⇒ リスク(危険度)の把握・軽減策の検討
- ③ : 多様性を受け入れる **コミュニケーション力**
⇒ 心理的安全性の担保
- ④ : 最もよい答えを導き出す **問題解決力**
⇒ 問題の本質の見極め

※4つのスキル（能力）は、
未来社会のリーダーに求められる資質

(5) 「**VUCA**(ブーカ)」をより深刻にしているもの

➡ **分断** … 未来の課題の本質

(コロナ禍で深刻化したグローバルリスク)

社会的結束の低下、生活危機、経済の長期停滞
感染症拡大、ワクチン供給格差、医療崩壊
精神的健康の悪化、
国家間の紛争、難民・避難民の移動・流入管理
デジタル格差、サイバーセキュリティ対策の失敗
気候変動対策の失敗、維持容器賞、水の争奪

Sustainable Brands Japan 2022.1.17

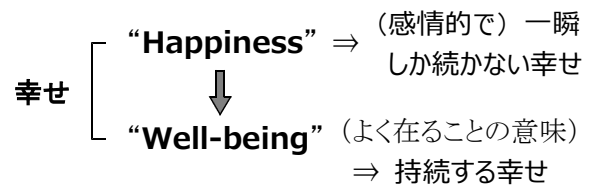
3. 希望の未来社会を実現するために

(1) 「VUCA(ブーカ)」克服の手がかり

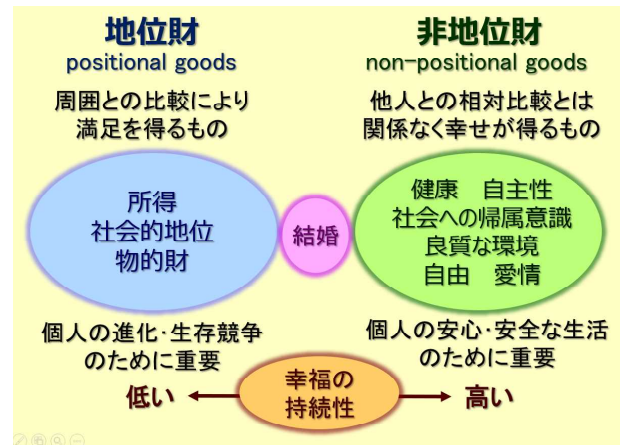
※ **分断** … 未来の課題の本質
↓
課題克服のためのビジョン（見通し）

意志共鳴型社会 の実現

⇒ 全ての人が“**幸せ**”を実感できる社会



(2) 幸せ (= 良い在り方、生き方) の実現



ダニエル・ネトル 『目からウロコの幸福学』より

(3)「分断」を乗り越え、持続的な幸せのために

⇒ すぐに他人と比べる = 幸福度が下がる

⇒ 関係性や価値観による持続可能な幸せ

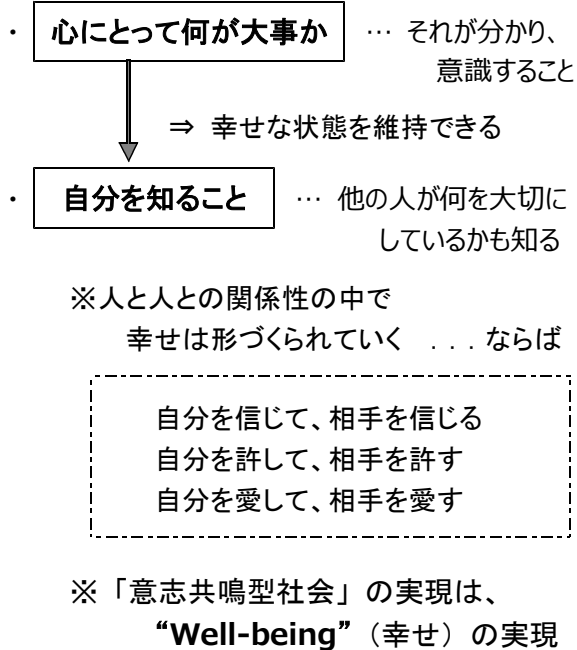
※幸せを構成する4つの因子

- ①「やってみよう！（自己実現と成長の因子）」
- ②「ありがとう！（つながりと感謝の因子）」
- ③「なんとかなる！（前向きと楽観の因子）」
- ④「あなたらしく！（独立とマイ・ペースの因子）」

※特に「なんとかなる！」因子は重要
⇒ これは“自分を信じること”因子
自分が信じられなければ、社会は変えられない

※高校生にとっての“**Well-being**”とは？
 ... 君たち高校生だけが追求できる

(4) 人が豊かに生きるために



4. 課題研究の先にあるもの

(1) 新時代に対応した高等学校教育のあり方 (文部科学省 r2.7.17)

⇒ 生徒は、変化の激しい社会にあって、
高校卒業後も様々な判断を
求められる機会に直面することになる

高校生の段階で…

- ① 自らの将来について、真剣に考え
- ② それに必要な情報を取捨選択・集積・分析し
- ③ 熟慮の上に、責任を持った判断をする過程を経験することが重要

(2) 課題研究で目指すもの

『非認知能力』の育成

(得点や偏差値など数値化できない能力)

忍耐力 協調性 意欲 自己抑制
情熱 社会性 敬意 思いやり
自尊心 主体性 自律性 協働性
楽観性 郷土愛 誇り 自信 など

「社会を形成する力」につながる

(幸福な社会の実現に寄与する生き方・在り方)

⇒ 自ら考え、主体的に行動する資質・能力

(3) 「人間の強み」を考えよう

1. 現実世界に合わせた意味づけをする
2. 板挟みや想定外の事態に向き合う
3. 責任を持って、役割を遂行する

自分の経験を基にした興味・関心で

職業を考える ……だけではなく！！

社会の一員としての自分に気づき、
将来と向き合う

……社会にアンテナを張り、
取り組むべき課題を見出そう

(4) 未来社会を生き抜くために、 身につけなければならない力とは

The OECD Learning Compass 2030

(表紙見返し 参照)

⇒ よりよい社会を実現するために求められる
学びの枠組み “学びの羅針盤”

(5) 「大人」と「子ども」の境界

日々過ごしている時間について、主に…

自分のため、自分の将来のために
時間を使っている ……「子ども」

自分以外の人ため、地域や社会のために
時間を使っている ……「大人」

いつか、誰にも“変わる時”が来る

自分は、誰のために、何のために、
自らの才能、適性、能力を活かすのか

課題研究は、「未来社会への探究」とともに
「自分自身の探究」
「自分の将来の生き方・在り方の探究」

課題研究とは何か ～今、社会と向き合う～

【はじめに】

■ある大学の入学式の学長祝辞

現代社会に生きる あなたたちには、
今を生きる子どもたち、そして
これから生まれるであろう子どもたちに、
この先、どれだけ時代が過ぎても
この“地球”は、
『ずっと、大丈夫だよ 心配はないよ』
『必ず、君の“夢”は叶うよ』って
伝えられる世の中をつくる責任があります ...

⇒ しかし、現実には、解決が困難な
人類の存続に関わる問題が存在

世界では ...

戦争、テロ事件、国際紛争、軍備競争、
貧困、飢餓、安全な水とトイレ、環境破壊、
など

国内では ...

自然災害と防災、原発事故、少子高齢化、
労働力不足と外国人労働者、待機児童、
格差社会、限界集落、介護・孤独死、など

■国連 SDGs（持続可能な開発目標）

- 1 貧困をなくそう、飢餓をゼロに
- 2 ジェンダー（社会的・心理的性別）平等の実現
- 3 安全な水とトイレを世界中に
- 4 平和と公正をすべての人に

... など、17の目標 を設定

（SDGs : p.24・25、Appendix 参照）

解決すべき問題は ... 、
人の生き方、人と人の関係の中で生じる

解決に困難がともなう問題

「人類の存続に関わるような問題」であっても
あきらめるわけにはいかない！！



一人ひとりが 『賢い市民』 となって
問題に向き合い、
一歩ずつ解決していくしかない

まず、信頼できる知識を、
共有できる形で積み上げよう

■文部科学省の示す「研究活動」の定義

1. 先人たちが行った研究の諸業績をふまえた
うえで、
（社会・学術の諸問題から
自分が取り組むべき課題を見出し）
2. 客観的なデータをもとにしつつ、
3. **自分自身の考察で新たな知見を創造、
探究し**
4. 他者と共有することで、課題解決に貢献
すること

1 課題研究の特徴

① 自分自身で『問い』を立てる

社会・学術課題の中から自ら研究テーマを決めて、
「問い」となるリサーチクエスションを立てる

⇒ 意義あるリサーチクエスションを立てるためには、
その課題の先行研究・事例から深く理解しな
ければならない。

② 答えの用意されていない『問い』に挑む

大学で行う研究や社会に出た後に取り組む課題
は、日頃の授業や実験とは違い、ほとんど答えを用意
されていない。

⇒ 課題研究を通じて体得した知識や技法は、未
来の社会を切り拓く力となる。

③ 社会や学術への貢献を考える

1) 社会貢献

日頃、私たちは新聞やテレビ、インターネットに流れるニュースや記事を通して、社会に存在する課題を知ることができる。

例えば、以下のような課題を指摘されれば、その存在に気付くだろう。

(世界の課題)

人口爆発、水不足・水戦争、食糧不足
テロ活動、宗教対立、経済格差・危機
領土問題、地域紛争、戦争、民族対立、
政治対立、難民、疾病、人種差別、など

(日本の課題)

少子高齢化、社会保障（財源や人材）、
財政赤字、地域間格差、安全保障、
憲法問題、公文書偽造、不安定な景気、
雇用形態による格差、子どもの貧困、
教育格差、自然災害への対策・復興、など

⇒ これらの課題を解決するのは誰？

... 社会を構成している私たち一人ひとり

日頃何気なく生活している地域社会にも、目を向けると必ず問題が存在し、その解決を必要としている人々がいる。

⇒ 社会に貢献できる研究にするために

社会における課題を自分が解決すべき「課題」として捉え、その実態を知る必要がある。

その課題は今どのような状況なのか？
原因は何か？ 今までどのような取り組みが
なされてきたのか？ 等々...

先行研究や取り組みをもとに調べたうえで、自ら取り組むリサーチクエスションを立て、その答えを探究しよう。

《社会貢献につながるリサーチクエスション》

a) 問題解決に向けた提言（自治体などに）

〇〇市において、外国人を中心に観光客数が増えているにもかかわらず、宿泊客数が伸び悩んでいるのはなぜか。

⇒ リサーチクエスションの答えによって、伸び悩む宿泊客への対策を立てることができるかもしれない。

b) 近い将来の予想を立てる

〇〇市において、なぜ財政赤字が年々増加しているのか。

⇒ 年々進む財政赤字の原因を解明することで、その対策を立てられるとともに、対策を講じてこなかった場合の財政赤字の予想額を算出し、市民生活における影響を予想することができる。

c) （はっきり現れていないような）地域の課題について、社会に広く認識してもらう

〇〇地域で20××年に発生した大規模な地震によって建設された仮設住宅において、高齢者の健康が損なわれ、孤独死が増えている現状について、地域が元々抱えていた医療・福祉事業の格差がどのような形で影響を与えているか。

⇒ 今後、持続的に必要とされる自然災害への対策と、以前から問題視されていた医療・福祉事業との関係を示すことで、医療・福祉事業のどの部分に集中的に取り組むべきかを示すことができる。

2) 学術への貢献

具体的には、

① 既存の理論では説明のつかなかった現象を説明する新しい理論の構築

- ② 既存の理論の改善
- ③ 未だに定められていない値の特定や未知の現象の発見
- ④ 生じている現象を新たな概念を与え存在を明らかにする、などがある。

⇒ 宇土高校の先輩方が『凸レンズの研究』において、副実像の存在とそれが現れる位置の公式を導いた取り組みは、学術への貢献であった。

《課題研究で使われる用語》

① リサーチクエスション (Research Question)

⇒ 研究全体で何を明らかにしたいのかを示す「問い」

(昨年の研究事例)

- ・ 児童虐待防止法や児童相談所など、子どもを虐待から守ろうという法律や施設がある中で、児童虐待の件数が増え続けているのはなぜか。

② 仮説

⇒ 設定したリサーチクエスションに対する「答え」の予想

(仮説を立てる理由)

1. これまで自分が得た研究テーマに対する知識や理論を整理し、論を構築できる
2. どのような調査・実験を行うべきかの見通しを立てられる

(上のリサーチクエスションに対する“仮説”)

- ・ 法律の施行により社会の虐待に対する理解が深まり、今まで虐待と認知されなかったものが虐待と認知された。

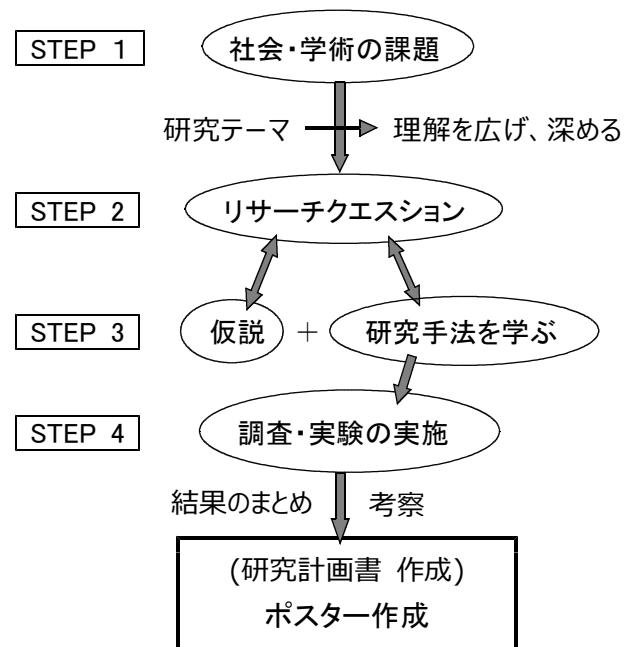
③ 研究手法

⇒ リサーチクエスションの答えを導き出す手法

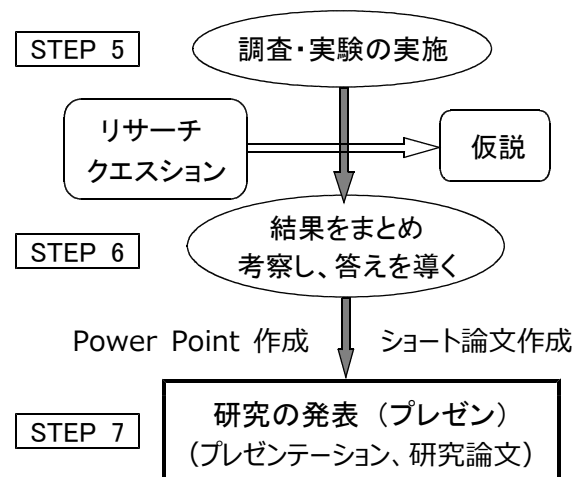
1. 文献調査 (論文、書籍、新聞 など)
2. アンケート調査
3. インタビュー調査
4. 参与調査
(組織やグループの一員として参加しデータを収集)
5. 実験

2 課題研究のステップ

(1) 中間目標：ポスターの作成



(2) 最終目標：研究の発表 (プレゼン)



p.15 は別ファイルを挿入

3 研究テーマを設定する（見いだす）

（1）疑問を持つことが、何よりも重要

～疑問を持ちながら情報に触れる～

（例えば...）

これからはグローバル化の時代である。
時代を切り拓くグローバル人材の育成・確保が
日本全体の課題となっている。



... 文章を読み、映像を見て、データを検討し、アンケート結果を分析し、実験結果を整理して

本当にそうなのか？ なぜ、そうなのか？
もう少し、詳しく知りたい！！ ... など

疑問を持つことから、テーマが導かれる

（2）身近にある情報源の活用方法を学ぶ

⇒「情報収集能力」を身につけよう！！

1. 自分が知りたい情報にたどり着く力
2. より正確な情報を集める力

① 新聞

（利点）

図書館で、昔の資料を閲覧できる
地域の課題について、情報を集めやすい

（留意点）

特定のテーマを体系的に学ぶには不適
同じトピックでも、新聞社によって書き方が
異なる、比較が必要

② インターネットニュース

（利点）

最新の情報を得ることができる
知りたい情報に、比較的容易にアクセスできる

（留意点）

一定期間の公開後は消えてしまうことがある
匿名性の高い情報は、研究用の文献として
適さない

③ TVのニュース

（利点）

時間さえあれば、比較的楽に情報が得られる
予期しなかった情報に触れられる可能性

（留意点）

その情報に、再アクセスすることが難しい
時間が短いと、踏み込んだ情報を得ることは
できない

④ ドキュメンタリー映像

（利点）

特定のテーマについて、深く掘り下げて取材さ
れていることが多い

（留意点）

一方的な視点から取材した映像の場合は、
偏った情報しか得ることができない

⑤ 本・雑誌

(利点)

特定のテーマについて、体系的に学ぶことが可能
身近に手に入りやすい

(留意点)

引用・参考文献等を含まない本や雑誌は、
信ぴょう性に欠ける場合がある

⑥ 先輩の論文

(利点)

実行可能性の高い研究に触れることができる
理解しやすく書かれていることが多い
その研究を指導していた先生に話を聞くことができる

(留意点)

間違いが含まれていたり、考察が十分に行われていない可能性がある

⑦ 有識者の講演

(利点)

質疑応答などを通して、知りたい情報をその場で得ることができる
予期していなかった興味を引き出されることがある

(留意点)

講演者の個人的見解を含んでいる場合がある

⑧ 学術書・学術論文

(利点)

あるテーマについて専門的な知識を得ることができる
最先端の研究について知ることができる

(留意点)

内容が高度で利用しづらいものもある

(3) 研究テーマへの知識・理解を深める

① キーワードを抜き出す

(キーワードとは?)

1. 内容を説明するのに必要な語句
2. 意味が分からない語句
3. 重要な語句

② 漠然としたキーワードを具体的に理解する

(例えば...)

「貧困」とは「貧困状態」とは、どのような状態なのか

所得の不足に加えて、教育・保健衛生水準の低さ、政治的立場の弱さなどから、自己を実現する自由が著しく制限され、社会的に孤立した状態。

人間らしく生きるために必要最低限の生活水準に達していない状態を絶対的貧困、地域社会の大多数より貧しい状態を相対的貧困という。

コトバンク デジタル大辞泉

<https://kotobank.jp/dictionary/daijisen>

⇒「貧困」という言葉(テーマ)について
...すべてを探究することはできない

どの地域の、どのような状態の人たちに、
どのような面からアプローチし、
その課題への解決に貢献したいのか

そうでなければ、曖昧なマジックワード満載の
具体性のない研究になってしまう

マジックワード (Magic Word)

“あたかも魔法のように思うように動かすことができる” という意味。幅広い意味を持つので逆に意味が曖昧で、聞こえは良いが具体的に何を意味するのか分からない言葉をいう。使う側の意思によって便利に扱うことができ、よくスローガンや標語で使われるが、具体性がないため議論や研究を空転させてしまうことが多い。

③ 気になったキーワードについてまとめる

1. 辞書やインターネットで調べて見る
2. 自分自身で、仮に定義する

1. (例えば) 「国の発展」というワード

⇒ 何をもって国の発展と定義するのか
先行研究などを参考に、自分たちで
決めなければならない事例

「本研究において我々は〇〇の定義をもとに、
『国の発展』を「□□」の量の変化 と定義し
た(△△、2010)」 など

2. (例えば) 「空き家」というワード

⇒ 法や政令・省令などで、複数の定義が定
められている場合に、どのように捉え、新
たに定義を決めなければならない事例

a. 空家等対策の推進に関する特別措置法

(平成26年11月27日 法律第127号)

建築物又はこれに附属する工作物であつて、
居住その他の使用がなされていないことが常態で
あるもの 及び その敷地「立木その他の土地に
定着するものを含む」をいう。

b. 空家等に関する施策を総合的かつ計画的に 実施するための基本的な指針

(平成27年2月26日付け総務省・国土交通省
告示第1号)

具体的には電気・ガス・水道の使用状況 及び
それらが使用可能な状態にあるか否か。常態で
あるかどうかの基準は、概ね1年間とする。

⇒ 地域の現状を踏まえつつ、より具体的に
定義が定められている法や政令・省令
を用いる方が研究しやすい。

4 課題研究で留意すべきポイント

- ① リサーチクエスションが明確で、主体的
に取り組めるものとする
- ② 取り組む課題研究の意義を、先行研究
や事例から見出す
- ③ さまざまな研究資源を効果的に活かす
- ④ 文章の中の“マジックワード”は、言葉
の言い換え(リフレーズ)で対処する

① リサーチクエスションを明確にする

⇒ 課題設定の力(=『問い』をたてる力)を
身につける

※ リサーチクエスションが曖昧であったり、知識が
不足した状態で立てたものであった場合は、研
究を進める上で大きな壁になる

(昨年のリサーチクエスションの事例)

- ・ 〇〇地域の過疎化の現状と課題

漠然とした課題設定では、調べ
学習で終わってしまうことが多い

- ・ 私の出身である〇〇町が限られた予算
でできる過疎化対策とは何か
- ・ 若者が住み続ける〇〇町と、離れていく
〇〇町の違いは何か

⇒ 検索サイトでは到底答えが見つからない、
さらに自分事として捉えられる問いを、自
分自身で立てることが求められる

※ リサーチクエスションは、自ら興味を持ち、1年
わたって主体的に取り組めるものにしなければな
らない。自らの取り組む姿勢と課題意識を強く
持って欲しい。

② 取り組む課題研究の意義を、先行研究や事例から見出す

⇒ そもそも、課題研究とは...

1. 先人たちの研究の諸業績をふまえた上で
2. 自分が取り組むべき課題を見出すこと

※ 研究テーマに関して、これまでの成果を確認し、現在の状況を知る必要がある



その状況にどのような変化（貢献）をもたらすことが期待できるか（ここに研究の意義がある）

③ さまざまな研究資源を効果的に活かす

⇒ 研究資源... 施設、設備、インターネット、図書館、参考資料、等
(人材、資金も含まれる)

※ 学習や部活動・課外活動等との両立の実現
⇒ 隙間時間の活用と研究手法の工夫が必要
(班員で協力して考察・討論、記録を行う)

④ 文章の中の“マジックワード”は、言葉の言い換え（リフレーズ）で対処する

⇒ マジックワード... 聞こえは良いが抽象的で何を意味するのか分からない言葉

子どもたちの未来のために、1人1人が
自分らしく生き、自ら考え行動し、
コミュニケーション能力を高められる
教育が提供されるべきです



「自分らしく...」、
「自ら考え...」とは？
「行動...」どのような行動？
「コミュニケーション能力」とは
どのような能力なのか？

自宅で食事できない子どもたちのために
子ども食堂は生まれました。これからは、
社会全体で子育てをして、地域で安全を
確保し、子どもたちを見守る必要があります

「社会全体で子育て...」
とは、どうすることなのか？

「地域で... 子どもを見守る」
誰がどのようにして子どもを
見守るのか？



※ 「社会」「地域」「子育て」「安全」「見守る」
といった言葉を知らない人はいない。使えば、「課
題を共有した」「相互理解した」という気持ちにな
れる。しかし、いざ議論をすると、思考が止まり空
転することが多い。

⇒ ある人の「見守り」は、「管理」「監視」に近
いかもしれない。別の人「見守り」は、「何かあ
ったら受け止める用意は一応しているけれど、放任
主義」かもしれない。「両親が帰るまで、食堂で
勉強を教えよう」なら、より具体的になる。

※ 「安全」も「交通事故にあわないようにすること」
や「犯罪に巻き込まれないこと」とすれば、具体性
が増す。(しかし、ここでも「犯罪」の内容は具体
的ではなく、曖昧なままではある)

⇒ マジックワードは、具体的な言葉に言い換えて行く
ことで、自分の考えが整理でき、議論も深めることが
できる。

君たちが興味があることでも、
研究課題とならないものがある

UFO（未確認飛行物体）、
オカルト、超能力、
UMA（未確認生物）、等

これらは、社会的・学術的な
課題からかけ離れていて、
研究の意義を見出せない



5 研究倫理の尊重

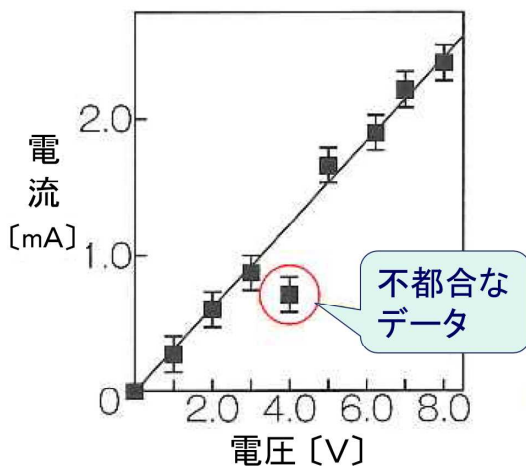
(1) 研究不正行為の禁止

① 改ざん

⇒ 研究資料・機器・過程を変更する操作を行い
データ・研究活動によって得られた結果などを
真正ではないものに加工すること

a) 数値データ（定量的なデータ）の改ざん

実際に得られたデータ

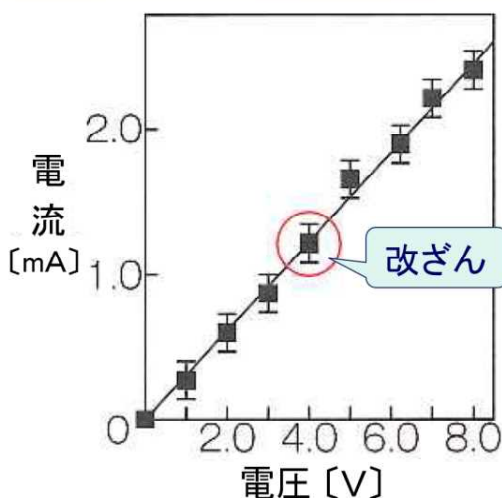


試料1 (ゲルマニウム) の電流－電圧特性



数値データを改ざん

論文に使用されたデータ



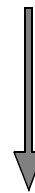
試料1 (ゲルマニウム) の電流－電圧特性

b) 数値以外のデータ（定性的なデータ）の改ざん

Aさん（保育士）へ「待機児童」に関するインタビュー調査

実際に得られた証言

私の勤務する保育所では、この3年間は
保育所入所希望者が定員を超えることはな
く、この地域では待機児童は出ていません。



地域で、待機児童問題が
起こっているという事実が欲しい

論文に使われた証言

私の勤務する保育所では、3年間、入所
希望者が定員を上回っており、この地域では、
慢性的に待機をお願いする児童が出ています。

② 捏造（ねつ造）

⇒ 自らの主張や都合のよいように、存在しない
データや結果などを作り上げること

※ 2014年に発覚したSTAP細胞をめぐる研究不正
事件のみならず、捏造は、報道や犯罪捜査などでも
起こっており、冤罪を引き起こすなど深刻な社会
問題にもつながっている。

旧石器ねつ造事件

2000年発覚。発見された旧石器時代の
ものとされた石器が、後日、研究家が事前に
埋めていた自作自演のものであることが発覚
した事件。翌年、中学・高校の歴史教科
書が修正、書き換えられた。

⇒ 研究成果の改ざん・ねつ造は「詐欺」であ
り、科学を停滞させるという意味で「社会に対
する罪」であることを認識しよう。

③ 盗用（“コピペ”の禁止）

⇒ 他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文または用語を、当該研究者の了解もしくは適切な表示をせずに流用すること

※ パソコンの普及とインターネットの発達によって、さまざまな情報にアクセスできるようになったが、大きな罪悪感もなく盗用してしまう事例は少なくない。いわゆる“コピペ”（コピー・アンド・ペースト）問題で、大学での学位論文でコピペが発覚して学位が剥奪される事例が起こっている。

⇒ 「コピペ」は「カンニング」！！

軽い気持ちが取り返しのつかないことになってしまうことを自覚し、決して行ってはならない。

※ 他の情報源から得られた情報を、自分の課題研究等で使用する場合には、「引用のルール」に従い、細心の注意を払って利用しよう。

(2) 「引用」の方法・ルール

「引用」という行為は、先人たちが
行ってきた研究への敬意を示すこと

① 引用の原則

1. 引用元の明示
2. 引用した部分と本文との明確な区別

② 引用の方法

先行研究、数値データ、図・イラスト等の作成物を引用する場合

1. 執筆者（作成者）名、機関名・組織名、発行年 の明示
2. 文献リストの作成
（読者が引用元にアクセスできるようにする）

3. 論文・ポスター・研究計画書の最後に
引用元情報を引用文献・参考文献として
明示・掲載

（引用元の情報）

著者名、書名・雑誌名、該当ページ、
雑誌の時は号数、出版年など

（ウェブサイトからの引用の時）

アドレス（URL）、アクセスした日付、など

③ 引用の事例

三上 岳彦 先生（東京都立大学名誉教授）の
地球温暖化問題についての文章引用例

地球温暖化のしくみに関して、「温室効果のせいで地球が温暖化する」という誤解が多いのに驚かされる。「温室効果」そのものは、地球の平均気温を約15℃に保ってくれて、生物が生きていく上でなくてはならない大切なものと知るところから始める必要がある。大気中の濃度が、わずか0.04%に過ぎない微量気体の二酸化炭素が、もしゼロ%であったら－18℃という極寒の世界となるところを、温室効果のおかげで15℃という現在の適度な平均気温をもたらしてくれていることを理解することは重要である。

三上岳彦 2019『地球温暖化問題と地理教育』歴史と地理 753号 山川出版社

a) 直接引用：元の文章をそのまま引用

（直接引用する時の留意点）

1. 引用する文から一字一句変えてはいけない。（句読点、記号を含めて）
2. 引用する文章は必要最小限度に抑える。

Case 1. 文の最初に著者名を示し、発行年をカッコ内に示す

三上(2019)は、「地球温暖化のしくみに関して、『温室効果のせいで地球が温暖化する』という誤解が多いのに驚かされる。」と述べている。

⇒ 引用した文章は「 」や“ ”(英文の場合)で括る。

三上(2019)は、高校の授業で学ぶ地球温暖化問題の正しい理解について、次のように述べている。

地球温暖化のしくみに関して、『温室効果のせいで地球が温暖化する』という誤解が多いのに驚かされる。

⇒ 字下げをしたり、字を小さくして直接引用する。

Case 2. 文の区切りの部分にカッコを付け、著者名と発行年を入れる

地球温暖化問題は正しい理解が重要であるが、それについて「地球温暖化のしくみに関して、『温室効果のせいで地球が温暖化する』という誤解が多いのに驚かされる。」と述べている。(三上, 2019)

地球温暖化問題を正しく理解することが重要であるが、それについて、以下のような指摘がなされている。

地球温暖化のしくみに関して、『温室効果のせいで地球が温暖化する』という誤解が多いのに驚かされる。(三上, 2019)

b) 間接引用 : 元の文章を直接使わず、要約して引用

※引用の際の著者名、発行年の記入方法は直接引用と同じ

(間接引用する時の留意点)

1. 引用元の文章の内容を変えてはいけない。
2. 簡潔に必要な部分を要約し、付け足しなどは行わない。

Case 3. 文の最初に著者名を示し、発行年をカッコ内に示す

三上(2019)によると、地球温暖化のしくみに関して、温室効果のせいで地球が温暖化するという誤解が多く、温室効果のおかげで15℃という適度な平均気温をもたらしてくれていることを理解することが重要である。

地球温暖化のしくみに関して、温室効果のせいで地球が温暖化するという誤解が多く、温室効果のおかげで15℃という適度な平均気温をもたらしてくれていることを理解することが重要である。(三上 2019)

④ 引用文献・参考文献の書き方

⇒ 適切な引用方法、引用文献(どちらが欠けても“盗用”となる(=研究不正))

※ 論文・ポスター・研究計画書の最後に引用文献・参考文献(通常、別にまとめる)を明示する必要

a) 日本語の本

1. すべての同一の著者が執筆(編著者無し)

湯浅 誠 (2008) 『反貧困 – 「すべり台」 (著者) (発行年) (書名)

社会からの脱出』 岩波新書 (出版社)

2. 複数の章を異なる著者が書いており、編著者がいる場合。

山本 充 (2013) 「都市農村関係からみた
(著者) (発行年)

農村空間の商品化の意義 田林 明 編
(引用する章のタイトル) (編著者)

『商品化する日本の農村空間』 農林統計出版
(書名) (出版社)

3. 訳本 (日本語の情報を記入した後、カッコ内に訳本の原本の情報を載せる)

マイケル・サンデル 鬼澤 忍 訳 (2010)
(著者) (翻訳者) (訳本発行年)

『これからの「正義」の話をしよう：いまを生き
延びるための哲学』 早川書房
(書名) (出版社)

(Michael Sandel, 2009, Justice: What's the
(著者) (発行年)

Right Thing to Do?, Farrar Straus & Giroux)
(書名) (出版社)

⇒ 本のタイトルは、イタリック (斜字)

※英語の本 (日本語情報がない時) も、
並びは同じ

b) 論文

三上 岳彦 (2019) 「地球温暖化問題と
(著者) (発行年) (論文のタイトル)

地理教育」 山川出版社 歴史と地理
(出版社) (雑誌名)

723 11-18
(号数) (論文のページ)

Eitein,A, 1921, A brief outline of the
(著者) (発行年)

development of the theory of relativity.
(論文のタイトル)

Nature, 106 (2677), 782-784
(雑誌名) (巻号) (論文のページ)

- c) 新聞 (執筆者 (署名入り) が分かれば、最初に記載する)

熊本日日新聞 (2020) 「進む温暖化
(新聞名) (掲載年)

解けゆく氷河』 総合版 3月9日朝刊
(記事タイトル) (地域、掲載日)

d) インターネット上の資料

外務省 (2020) 持続可能な開発目標
(作成者) (掲載年)

(SDGs) 達成に向けて日本が果たす役割
(Webページのタイトル)

2020年3月9日
(アクセスした日付)

[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/2001sdgs_gaiyou.pdf)
pdf/2001sdgs_gaiyou.pdf
(URL)

(収集した文献・資料について)

※ 文献リストを作成し、記録を残すこと

⇒ 研究計画書や論文、文章作成時に必ず
必要となる。

【さいごに】

■ 課題研究に取り組むことの意義

将来の自分がどの組織に属して、
自らの適性、培った能力、そして情熱を
どのようなかたちで発揮するのか・・・

人と人とをつなぎ、
人々の喜びと幸せにつながる行動を、
課題研究を通じて見だして欲しい

課題研究は、
人と人の関係に向き合い、
地域及び社会に向き合い、
自らの心の内と向き合うこと

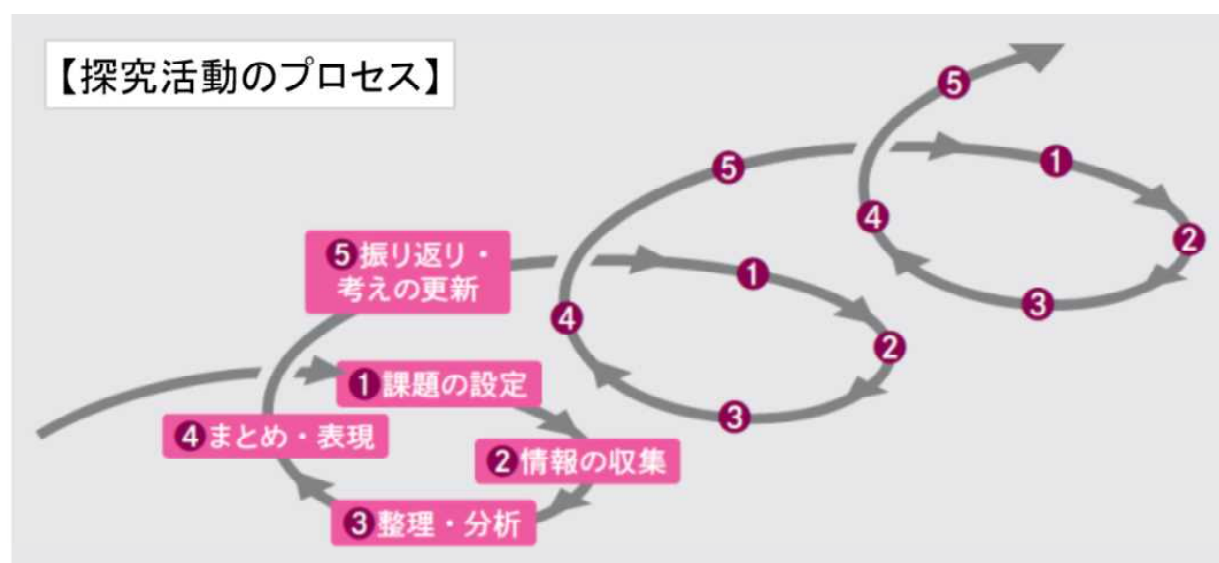
■『探究』の定義（文部科学省・高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編）

『探究』とは、「問題解決的な学習が発展的に繰り返されていく」こと

- ① 日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見つけ、
- ② そこにある具体的な問題について、情報を収集し、
- ③ その情報を整理・分析したり、知識や技能に結びつけたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み、
- ④ 明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見つけ、さらなる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していく ... こととし、
物事の本質を自己とのかかわりで探り見極めようとする一連の知的営みのこと

なお、①～④のプロセスは固定的に捉える必要はない

⇒ 物事の本質を探って見極めようとする時、活動の順序が入れ替わったり、ある活動が重点的に行われたりすることは、当然起こりうる



① 課題の設定	現状と目標とのギャップを捉え、課題意識を持つ、課題点を見いだす。
② 情報の収集	必要な情報を取り出したり、収集したりする。設定された課題に対し、解決プロセスを決定し、必要な情報は何かを考え、情報収集を行う。
③ 整理・分析	問題解決を見通して情報を処理する。多様な手法で収集した情報を構造化・可視化し、多様な視点から分析する。
④ まとめ・表現	結論・主張の伝え方を吟味し、他者に伝えたり、議論したりする。
⑤ 振り返り・ 考えの更新	まとめ、表現したもの（成果）について、グループ・各自で何ができている、何ができいていないかを把握するとともに、その間のプロセスについても検証し、次に向けて新たな課題を生み出す。

SDGs（持続可能な開発目標）とは ～ Sustainable Development Goals ～

2015年9月の国連サミットで採択された「**持続可能な開発のための2030アジェンダ**」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。

持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っている。

■ 17の目標

/ About the Sustainable Development Goals

1. 貧困をなくそう / NO POVERTY



あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

2. 飢餓をゼロに / ZERO HUNGER



飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

3. すべての人に健康と福祉を / GOOD HEALTH AND WELL-BEING



あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

4. 質の高い教育をみんなに / QUALITY EDUCATION



すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

5. ジェンダー平等を実現しよう / GENDER EQUALITY



ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

6. 安全な水とトイレを世界中に / CLEAN WATER AND SANITATION



すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに / AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY



すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

8. 働きがいも経済成長も / DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH



包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE



強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

10. 人や国の不平等をなくそう
/ REDUCED INEQUALITIES



各国内及び各国間の不
平等を是正する

11. 住み続けられるまちづくりを
/ SUSTAINABLE CITIES AND
COMMUNITIES



包摂的で安全かつ強靱(レジ
リエント)で持続可能な都
市及び人間居住を実現する

12. つくる責任 つかう責任
/ RESPONSIBLE PRODUCTION AND
CONSUMPTION



持続可能な生産消費形態
を確保する

13. 気候変動に具体的な対策を
/ CLIMATE ACTION



気候変動及びその影響を
軽減するための緊急対策を
講じる

14. 海の豊かさを守ろう
/ LIFE BELOW WATER



持続可能な開発のために
海洋・海洋資源を保全し、持
続可能な形
で利用する

15. 陸の豊かさを守ろう / LIFE ON LAND



陸域生態系の保護、回
復、持続可能な利用の推
進、持続可能な森林の経
営、砂漠化への対処、なら
びに土地の劣化の阻止・回復
及び生物多様性の損失を阻
止する

16. 平和と公正をすべての人に
/ PEACE, JUSTICE AND STRONG
INSTITUTIONS



持続可能な開発のための
平和で包摂的な社会を促進
し、すべての人々に司法へ
のアクセスを提供し、あらゆる
レベルにおいて効果的で説明
責任のある包摂的な制度
を構築する

17. パートナリーシップで目標を達成しよう
/ PARTNERSHIPS FOR THE GOALS



持続可能な開発のための
実施手段を強化し、グローバ
ル・パートナーシップを活性
化する



“我々は、貧困を終わらせることに成功する最初の世代になり得る。同様に、地球を救う機会を持つ最後の世代になるかもしれない。”

「我々の世界を変革する：持続可能な開発の
ための 2030 アジェンダ」より抜粋

（1）課題・研究テーマを知ろう

研究テーマを決めるために、現在、どのような課題や研究テーマが存在しているかを知ることが重要です。以下は、国際連合が示す **SDGs**（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）や文部科学省の科学技術・学術における分野別の研究開発、スーパーグローバルハイスクールの取り組み一覧から作成した、課題・研究テーマの一覧です。この中から必ず選ばなければならないというわけではありませんが、研究テーマを決める中で参考にしてください。 ※（ ）の群は、本校独自の分類

1（a群）文化・芸術・倫理哲学・生活科学・スポーツ

伝統文化・文化財の保護、歴史的遺産の保護、芸術文化の振興（演劇・映画、音楽等）、生活文化、食物・食文化、被服・服飾文化、デザイン、住居・古民家、インテリア、スポーツ支援、など

2（b群）人権

マイノリティ（社会における少数派）に対する人権（例：LGBT、先住民、外国人、被差別部落等）、人身売買、虐待、体罰、児童労働、男女平等、男女共同参画社会 など

3（c群）貧困・食糧不足

子どもの貧困、教育格差、食糧不足、水不足 など

4（d群）地域社会

過疎化・過密化、都市問題、地域コミュニティの維持、防災・インフラ整備、災害復興、都市計画・交通問題、地元産業の活性化、観光振興、へき地医療・社会保障サービス、若年層の流出による高齢化 など

5（e群）教育

待機児童、いじめ問題、校内暴力・学級崩壊、教育機会の平等、外国人移住者・帰国子女への教育 など

6（f群）医療・衛生・福祉

高齢者介護（人材不足・老老介護）、医療・社会保障サービスの格差、障がい者福祉、バリアフリー、ユニバーサルデザイン化の普及、生活習慣病、ドラッグ問題、精神疾患に対するサポート など

7（g群）政治

談合・収賄等の汚職、公文書偽造問題、政党政治、政権交代、選挙制度 など

8（h群）農林水産業・食糧

農家・林業従事者・漁家の後継者不足、休耕地の増加・活用、森林保全、国産材活用、水産資源保護、水産養殖開発、食料自給率、遺伝子組み換え食品、食料廃棄、食品偽造、異物混入、農薬 など

9（i群）人口

少子高齢化、人口増加・減少、移民・難民問題 など

10（k群）労働

長時間労働、強制労働、過労死、働き方改革、男女雇用機会均等、男女共同参画、児童労働、非正規雇用、労働力不足、世代間格差、 など

11 (L群) 経済・ビジネス

インフレ・デフレ、経済発展、経済恐慌、金融・財政、貿易摩擦、エネルギー問題、資源（レアメタル、レアアース等）、所得格差、経済の空洞化、観光開発 など

12 (m群) 国際関係

戦争・紛争、テロ対策、移民・難民問題、領土問題、発展途上国支援、食料・水不足、貿易摩擦、フェアトレード など

13 (n群) 安全保障

犯罪の防止、テロ対策、ネットセキュリティ（サイバー攻撃、インターネット詐欺、個人情報の保護）、自然災害、インフラ整備、災害前の復興計画立案、戦争・紛争の処理、自衛隊の国際貢献 など

14 (p群) 環境・生態系

公害、ごみ問題、放射能汚染、地球温暖化、気候変動、低炭素型社会、動物保護（ペット犬・猫の殺処分問題）、侵略性外来種 など

15 (r群) ライフサイエンス

生命プログラム再現科学技術、臨床研究・臨床への橋渡し研究、関心的ながん治療等に関する研究、進行・再興感染症克服科学技術、国際競争力を向上させる安全な食料の生産・供給科学技術、生物機能活用による物質生産・環境改善科学技術、世界最高水準のライフサイエンス基盤整備 など

16 (s群) 情報

革新的ハイパフォーマンクス・コンピューティング・インフラの構築、未来社会実現のためのICT基盤技術の研究開発、研究情報基盤の整備 など

17 (t群) 物質・材料・エネルギー・原子力

元素戦略プロジェクト（レアアース・レアメタル等の代替材料開発）、ナノテクノロジーを活用した環境技術開発（太陽光発電、省エネデバイス開発 等）、ナノスケール新物質創製・組織制御研究、原子・分子のようなナノレベルでモノを観る・創る・治す最先端の科学技術、原子力の安全利用、平和利用 など

18 (u群) 宇宙関係

宇宙輸送システム、国際宇宙ステーション(ISS)計画、航空科学技術に係る先端的・基礎的研究の推進、安全保障・防災における宇宙利用、陸域観測技術衛星、宇宙科学・探査、天文学研究 など

19 (w群) 安全・安心に関する科学技術

対人地雷探知・除去技術の研究開発、リスクコミュニケーション、電車・乗用車の自動運転技術開発 など

20 (y群) 宇土地域研究 ※他に、基礎研究など (p.30 学術分野一覧各分野に関する基礎研究)

課題や研究テーマの多くは、複数の分野が互いに関連し合っています。例えば、難民問題は人権に関する課題でもあります。政治・外交（紛争・戦争、難民受け入れ等）や経済（貧困・食糧不足）にも関わり、自然環境に視点が当たることもあるでしょう。さらに、国内問題や地域社会の課題となりうる可能性さえあります。テーマを選ぶ際に、できれば「どのような視点から研究を行うか」についても見通しを持ちましょう。

【参考】 大学で学べる学問一覧

	学部系統	学科系統（分科）	探究概要
文系	文学	日本文学	文学を通して、日本を知る
		心理学	心のメカニズムを科学する
		考古学・文化財学	過去の様々な事象を系統的、総合的にとらえる
		外国文学	文学を通して、その国や地域を知る
		文化学	様々な文化と創造的思考の源を学ぶ
		地理学	自然と歴史と人間生活の関わりを考える
		哲学・倫理・宗教	“人間とその世界”について研究する
		歴史学	各地、各時代の社会を検証して現代の社会に生かす
	語学	外国語学	国際理解のため、外国の言語と文化を学ぶ
		日本語学	正確で幅広い日本語の知識と表現能力の習得をめざす
		言語学	特定の言語の理論、構造と社会的・文化的側面からの研究を目的とする
	法学	法学	社会を豊かに発展させるルールを研究する
		政治学	よりよい生活を求め、政治の動きを明らかにする
	経済・経営・商学	経済学	お金と人間、社会との関係の本質を探る
		経営・商学	経済学の理論を、現実の社会に応用する
		経営情報学	企業経営における「情報の活用」を研究する
	社会学	社会学	人間社会における秩序、仕組みに注目する
		社会福祉学	1人ひとりの幸せ、人類全体の幸せを追求する
		観光学	様々な分野の観点から観光を研究する
		マスコミ学	多様化するマスコミとマスメディアを研究し、その在るべき姿を探る
	国際関係学	国際関係学	国と国が相互理解できる世界を目指す
理系	看護・保健学	看護学	身体の痛みと心の悩みをトータルにケアする
		医療技術	検査とリハビリの面から医療に貢献する
		保健学	社会と環境と“人間の健康”を考える
		体育・健康科学	“運動”を科学的に研究する
	医・歯学	医学	“生命”を治療や予防の観点から追求する
		歯学	歯を通して人々の健康を守る
	薬学	薬学	医学などと協同し、薬の可能性を追求する
	理学	数学	他分野の発展にも貢献する“数”の基礎研究を行う
		物理学	実験を通して、物質の本質と特性を解明する
		化学	物質に起こる変化や反応を研究する
		生物学	ミクロからマクロまで、生命の本質を追究する
		地球科学	自然現象を解明し、地球の未来を守る
		情報科学	コンピュータを利用して情報の活用法を研究する
		総合理学	理学各分野の関連性を見出す

	学部系統	学科系統（分科）	探究概要
理系	工学	機械工学	人間と地球に優しい機会を考える
		電気・電子・通信工学	エネルギーと情報伝達手段の電気に注目する
		情報工学	コンピュータのハード、ソフトを研究する
		建築・土木・環境工学	人間と自然と建物との共生を考える
		応用化学	化学の理論で技術開発を進めていく
		応用物理学	物理学の理論を技術開発に生かす
		資源・エネルギー工学	地球内部の地下資源について研究する
		金属・材料工学	人に、そして環境に優しい材料を研究する
		商船学	海から地球へ、広がる輸送技術を考える
		船舶・海洋工学	船と海で、最新技術を展開する
		航空・宇宙工学	空と宇宙を舞台に、夢の技術を実現する
		経営工学	組織を工学的視点でバックアップする
		生物工学	生命の科学を人間の暮らしに生かす
		工業デザイン	人間と工学との接点をデザインする
	農・水産学	農学	農業の発展をあらゆる面から考える
		森林科学	森林と豊かな人間生活の関係を考える
		農芸化学	農業発展のために、技術と薬品を開発する
		農業工学	農業をシステム・設備面からサポートする
		獣医学	動物の治療と健康を考える
		農業経済学	農業を通じて、消費者の生活向上に貢献する
		水産学	水産資源の有効利用を科学的に追求する
		畜産学	動物を通して人間が得られるものを追求する
文理系	教員養成・教育学	教員養成系	質が高い教育ができる人材の養成をめざす
		教育学	“教育”の在り方を、本質的な部分から探る
		その他の教育学	幅広い知識を身につけ、教員以外の教育者を養成する
	生活科学	生活科学	快適な人間の“生活”をトータルに追求する
		食物・栄養学	栄養バランスの取れた美味しい食を追求する
		被服学	科学と文化の両面から被服を考える
		児童学	環境の変化を踏まえて子どもの成長を支援する
		住居学	よりよい生活のデザインと住環境を提案する
	芸術学	美術・デザイン	「表現したい」という欲求を形にする
		芸術理論	芸術の理論と技術を社会に生かす
		音楽	演奏、教育、歴史から“音楽”にアプローチする
		その他の芸術	美術、音楽以外の芸術的表現を究める
	総合科学	人間科学	“人間”そのものを様々な角度から分析する
		総合科学	一つの事象に、多角的に迫る目を養う
		総合情報学	情報をツールとしてあらゆる範囲の問題を考える

(2) 学術分野を知ろう

君たちが日頃学んでいる授業の多くは、物理や歴史など、その分野の名前が付けられています。大学に入るとさらに細分化され、さまざまな学術分野を学びます。以下にその大まかな分類を示します。

系	分野	分科
人文社会系	人文学	哲学、芸術学、文学、言語学、史学、人文地理学、文化人類学
	社会科学	法学、政治学、経済学、経営学、社会学、心理学、教育学
理工系	数物系科学	数学、天文学、物理学、地球惑星学、プラズマ科学
	化学	基礎化学、複合化学、材料化学
	工学	応用物理学・工学基礎、機械工学、電気電子工学、土木工学、建築学、材料工学、プロセス工学・化学、総合工学
生物系	生物学	基礎生物学、生物科学、人類学
	農林水産学	生活環境農学、農芸化学、森林園科学、水圏応用科学、社会経済農学、農業経済学、農業工学、畜産学、獣医学、境界農学
	医歯薬学	薬学、基礎医学、境界医学、社会医学（衛生学、法医学 など）、内科系臨床医学、外科系臨床医学、歯学、看護学
総合・新領域系	総合領域	情報学、脳神経科学、実験動物学、人間医工学、健康・スポーツ科学、生活科学、科学教育学、科学技術史、文化財科学、地理学
	複合新領域	地域研究、環境学、社会・安全システム科学、資源保全学、ジェンダー

これらの学術分野では、先人たちの業績により理論が構築されて、これらの理論は社会や自然界で生じる現象を説明しています。

例えば、国の経済状況を知るためには、GDP（国内総生産）等の推移に着目しますが、このGDPという概念は経済学の中で発展しました。また、物理学では、ものが落下するメカニズムとその運動法則について理論が構築されています。このような学術分野で構築されている理論を知ることによって研究は深めることができるのです。

また、学術分野を知ることによって、研究の切り口・方向性を決めることができます。

前頁の難民救済に関する課題を経済学的に行うか、政治学的に行うかで、同じテーマでも異なる研究になります。経済学的な観点から研究すると、難民救済による経済的な影響や難民たちの経済的活動等を中心に論じるでしょう。他方、政治学的な観点から研究すると、難民救済を外交問題として捉えることができます。

他にも、放射性物質の活用は「エネルギー供給」という観点から見ると経済学、政治学、社会学の課題ですが、「放射性物質の安全利用や処理」という観点から見ると応用物理学の課題です。

さらに、純粋に学術的な課題も存在します。高校段階では時間的な制約とともに理解が難しいでしょうが、物理学における素粒子や宇宙分野の課題などは、社会的な課題とは直接関係していませんが、学術上は重要なテーマです。

※ 興味・関心のある(A)課題・研究テーマ 又は(B)宇土・宇城地域研究テーマ について 第1希望・第2希望 の 記号 を入力してください

(A) 課題・研究テーマ

分野・主な課題・研究テーマ		1～2
a. 文化・芸術・倫理哲学・生活科学・スポーツ		
a-1	伝統文化・文化財、歴史検証・歴史的遺産の保護	
a-2	芸術文化の歴史・振興（演劇・映画・音楽、など）	
a-3	社会進化論と現代哲学、医療行為・宗教と生命倫理	
a-4	生活科学・文化の歴史・継承（被服・服飾、食文化、住居）	
a-5	スポーツ振興のメリット・デメリット、国家的・地域的意義	
b. 人権・貧困・食糧不足		
b-1	マイノリティ（少数派）に対する人権、同性婚	
b-2	人身売買、児童虐待・体罰、児童労働	
b-3	男女平等、男女共同参画社会、ジェンダー（社会的性差）	
b-4	子どもの貧困、教育格差、無縁社会、派遣切り	
b-5	食糧不足と飼料・バイオエタノール、水戦争・地下水枯渇	
c. 地域社会（宇土・宇城地域以外）		
c-1	過疎化・過密化、都市問題、地域コミュニティ維持	
c-2	防災・インフラ整備、災害復興、都市計画・交通問題	
c-3	地元産業の活性化、観光振興、文化・スポーツ振興	
c-4	へき地医療・社会保障サービス	
c-5	若年層流出による少子高齢化、限界集落再生	
d. 教育		
d-1	待機児童、修学前教育、保護者への子育て教育	
d-2	学力低下、スマホ脳、教育格差、教育機会の均等	
d-3	いじめ問題、校内暴力、学級崩壊、高校・大学中退	
d-4	夜間中学、外国人移住者・帰国子女への教育	
e. 医療・衛生・福祉		
ef-1	高齢者介護、医療・社会保障サービスの格差	
e-2	障がい者福祉、バリアフリー、UD化	
e-3	うつ対策、緩和ケア、ガンの家庭内療養	
e-4	生活習慣病、ドラッグ問題、精神疾患におけるサポート	
f. 政治		
f-1	政治・公務員倫理、談合・収賄等の汚職、公文書管理	
f-2	閣僚人事、閣議決定の是非、政党政治、政権交代	
f-2	選挙制度、首相公選制、議院内閣制と大統領・首長制	
f-4	マスコミの世論操作、マスメディアの役割	
g. 農林水産業・食料		
g-1	農家の後継者不足、休耕地の増加・活用、農業・畜産振興	
g-2	林業従事者の後継不足、森林保全、国産材活用	
g-3	漁家の後継者不足、水産資源保護、水産養殖開発	
g-4	食料自給率、遺伝組み換え食品、食料廃棄	
g-5	安全な食料生産・供給、食品偽造、異物混入、農薬	

分野・主な課題・研究テーマ		1～2
h. 人口		
h-1	少子高齢化、合計特殊出生率低下	
h-2	人口増加・減少、人口移動・流出	
h-3	難民・移民問題、外国人労働者受け入れ問題	
i. 労働		
i-1	長時間労働、強制労働、過労死、働き方改革	
i-2	男女雇用機会均等、男女共同参画社会	
i-3	非正規雇用、労働力不足、世代間格差	
j. 経済・ビジネス		
j-1	インフレ・デフレ、経済発展・経済恐慌、金融・財政	
j-2	所得格差、経済の空洞化、経済のグローバル化	
j-3	物流改革、輸送技術の展開、物流のリスク管理	
j-4	企業経営における情報活用、投資と資産形成	
k. 国際関係・安全保障		
k-1	戦争・大規模紛争、移民・難民問題、領土・国境問題	
k-2	テロ対策、民主化デモへの支援、政情不安・紛争対策	
k-3	自衛隊の国際貢献、途上国支援、貿易摩擦、社会主義国との関係	

(B) 宇土・宇城地域研究テーマ

分野・主な課題・研究テーマ		1～2
L. 宇土地域研究		
L-1	伝統文化、歴史検証、歴史的遺産の保護、 芸術文化の歴史・振興・誘致（演劇・映画・音楽など）	
L-2	人口減少、高齢化、介護・高齢者福祉、シルバー人材登用、 関係人口の創出、空き家対策・活用、移住・定住の拡大	
L-3	若者支援、郷土愛醸成、Uターン対策、婚活支援 子育て支援、子育てサービス、育成・教育環境の充実	
L-4	地震・水害対策、ハザードマップ、緊急避難と防災対策 地域交流、広域連携、コミュニティ活性化、住民自治・政治参加	
L-5	観光資源・観光ルートの開発、交流人口の拡大 地域ブランディング、魅力化発信、SNS活用	
L-6	地場産業活性化、起業支援、企業誘致、官民連携、外国人 労働者、農業・漁業の振興、休耕地活用、農業・漁業法人化	
L-7	国際化推進、交換留学、難民受け入れ、外国人教育	
L-8	宇土中・高校の活性化、地域との関わり、連携のあり方	

※注 (A) 課題・研究テーマ、(B) 宇土地域研究テーマ 全体から
第1・第2希望を入力（A・B それぞれ2つ選択ではない）

組号氏名

【事前記入】あなたが選択した研究テーマについて（班編制時の自己紹介・グループワークに向けて）

選択しようと思う研究テーマ： _____（p.31 から選択）

《研究テーマの設定の視点》

- ⇒ 研究テーマは、できる限り ①自分の「Will」（やりたいという思い）と、
②社会・地域の「Needs」（社会的な必要性）との交点を探り 設定する

2 年 組 号	氏名：	部活動：
① 研究テーマについて、興味・関心を持ったきっかけ、理由 ----- ----- -----		
② 研究テーマの、社会・地域の「Needs」（社会的必要性）について ----- ----- -----		
③ 研究テーマに対する考え・思い、疑問 ----- -----		
④ 将来の夢・目標（研究テーマとの関わりなど） ----- -----		
⑤ 研究テーマに関わる資料、文献、映像、等 -----		

これまでに収集した資料、文献、映像、データなどから、テーマに関するキーワードを抜き出してください
（抜き出した“キーワード”の意味・定義が不明確な時は、辞書やインターネット等で調べよう）

班編制の時に、班員と ①自己紹介 ②研究テーマについてグループワークを行います

【グループワークで討論したい“テーマ”“題材”“キーワード”等を記入しよう】

《グループワークの“テーマ”についての 必要情報など》

班：_____ 研究テーマ：_____

■ メンバーの ①興味関心、②将来の目標、課題研究への考え・思いを知ろう

2 年	組	号	氏名：	部活動：
① 自己紹介				
② 研究テーマへの選択理由、興味関心のきっかけ、社会的な必要性への考え、など				
③ 将来の夢・目標 （課題研究に対する思い）				

2 年	組	号	氏名：	部活動：
① 自己紹介				
② 研究テーマへの選択理由、興味関心のきっかけ、社会的な必要性への考え、など				
③ 将来の夢・目標 （課題研究に対する思い）				

■ メンバーの ①興味関心、②将来の目標、課題研究への考え・思いを知ろう

2 年	組	号	氏名：	部活動：
① 自己紹介				
② 研究テーマへの選択理由、興味関心のきっかけ、社会的な必要性への考え、など				
③ 将来の夢・目標 （課題研究に対する思い）				

2 年	組	号	氏名：	部活動：
① 自己紹介				
② 研究テーマへの選択理由、興味関心のきっかけ、社会的な必要性への考え、など				
③ 将来の夢・目標 （課題研究に対する思い）				

発言者

発言事項など

This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

多様な担い手確保したい

阿蘇草原の野焼き

阿蘇の草原維持に欠かせない野焼きや防火帯作りを支援する、公益財団法人阿蘇グリーンストックの「野焼き支援ボランティア」が今春、活動25年を迎えた。

初年度に110人だった参加者は、近年延べ2500人前後まで増加。これまでに延べ約4万5千人以上のボランティアが、草原を維持する取り組みを支援してきた。派遣先も阿蘇地域にある約170牧野の4割に拡大。約2万2千畝ある牧野の維持に必要不可欠な存在となっている。

阿蘇の草原は堆肥や飼料に使う野草の供給源で、九州を流れる1級河川のうち6本の源でもある。希少な野生動植物を育み、波打つ

ような緑が広がる景観は多くの観光客を魅了している。こうした多面的な機能の維持に貢献してきたボランティアや関係者の四半世紀の努力に敬意を表したい。

だが、牧野組合員の減少や高齢化によって草原維持の担い手不足はさらに進んでいる。ボランティア

社説

アの高齢化も著しい。さまざまな機会を設けて草原の価値と支援の必要性を県内外に伝え、多様な担い手を確保しなければならない。

阿蘇の草原を取りまく環境は1990年代に大きな曲がり角を迎えた。91年の牛肉輸入自由化のありを受け、野焼きの主力を担う畜産農家が急減。過疎化や高齢化

による人手不足も加わり、全域で野焼きの中止を決めた自治体もあった。

関係者らによるシンポジウムで草原の危機が伝えられたことなどが契機となり、99年2月に阿蘇グリーンストックがボランティアの育成事業を開始。同年3月末には旧阿蘇町(現阿蘇市)の牧野で実施された野焼きにボランティアが初参加した。

グリーンストックによると、現在のボランティア登録者は6割が熊本県内在住で、残りは福岡県など全国に散らばっている。村落共同体で管理されていた阿蘇の草原が、全国共通の資産として認識されてきた証しと言えよう。

草原の価値も評価され、阿蘇地域は2013年に国連食糧農業機関の「世界農業遺産」、14年に国

連教育科学文化機関(ユネスコ)の「世界ジオパーク」の称号を得た。今はユネスコの「世界文化遺産」への登録も目指している。

ただ、2年前の県の調査では、野焼きを今後「10年以上は維持できる」と答えた牧野組合はわずか26・5%だった。ボランティアの存在感が高まる一方だが、20年時点の平均年齢は63・6歳で、04年に比べ10歳ほど高齢化していた。

担い手の確保に向け、グリーンストックや地元自治体などは野焼き文化の体験活動に力を入れている。企業の若手研修を積極的に受け入れ、地元在住の外国人向けの見学会も開いた。草原を舞台にしたスポーツ大会では、地元観光団体などでつくる実行委員会が参加選手のボランティア登録を仲介する仕組みを設けた。

草原の価値を伝え、維持への協力を呼びかける取り組みを今後はさらに増やす必要がある。

1. 新聞記事や本などのコピー、インターネット記事やデータをプリントアウトしたものなどを貼付し、気になる箇所にはマーカーを引こう
2. 記事のキーワード、興味を持ったことと理由、疑問に思ったこと、調べたこと等も記入しよう



あとでチェックしやすいように、文庫リストの番号とスクラップブックの番号が合致するようにしておこう！！



(1) キーワードを抜き出す

⇒ **キーワード**とは、①重要な語句、②内容を説明するのに必要な語句、③意味が分からない語句

- 【作業】 自ら収集した資料から
- ① キーワードをできる限り抜き出し、
 - ② 各キーワードに関連する疑問、課題、考察、必要となるデータなどを
どんどん書き出そう。(文字以外、図・イラストなどの形式もOK！)

※意味の分からない語句は、辞書などで調べよう

【考察】 上の【作業】から、探究につながりそうな“テーマ（研究テーマ）”があれば書いてみよう

(2) キーワードの整理 (イメージマップで関係性を図解化 … 初期の段階)

- 【例】 ①重要なキーワードを中心に据えて、その周りに、関連するキーワードをできるだけたくさん書いてみよう
 ②出てきた疑問や知らない・分からないことは、キーワードの周りに書いて で囲もう

《記入例》 **ケータイ (携帯端末)** を重要なキーワードとしたとき



⇒ 連想する言葉が全く思いつかない時、

- 重要なキーワードを、
- ①ほかの言葉で言い換えると何になる?
 - ②それがモノならば、それで何をする?
 - ③それは (私にとって) どんなもの? どういう価値 (意味) がある?

文献リスト 研究テーマ:

No	著者・編集者等	出版年	表題、タイトル	出版・新聞社等	巻数	見た日
例	熊日新聞 〇〇〇〇記者	2024	多様な担い手確保したい ～阿蘇草原の野焼き～	熊日新聞 総合面・社説	3月31日 朝刊	3/31
	内容の概要、気付いたこと 阿蘇の草原は、堆肥や飼料に使う野草の供給源で、野焼きを行うことで草原は維持されてきた。畜産農家の減少と高齢化により約20年前からボランティアが野焼きを支えているが、その拡大が不可欠になっている。					
1						
	内容の概要、気付いたこと					
2						
	内容の概要、気付いたこと					
3						
	内容の概要、気付いたこと					
4						
	内容の概要、気付いたこと					
5						
	内容の概要、気付いたこと					

(1) キーワードの抽出（文献リストに記入した資料から、キーワードを抜き出す）

⇒ **キーワード**： ①重要な語句、②内容を説明するのに必要な語句、③意味が分からない語句

【作業】 これまでに収集した文献やデータなどから、関心をもったテーマに関するキーワードを抜き出そう

p.41 のように、重要なキーワード1～2語を中心に据えて、周りにつながりのあるキーワードを記入してもよい。
（疑問や分からないことなども記入してよい。自由にできるだけ多くの語句を書き出そう）

《キーワードの意味・定義》 ※前頁のキーワードから、特に気になったものをまとめよう。

キーワード キーワードの言い換え -----	文献リストNo. 出典元
キーワードの意味・定義	
キーワードに関連する語句、語彙	

キーワード キーワードの言い換え -----	文献リストNo. 出典元
キーワードの意味・定義	
キーワードに関連する語句、語彙	

キーワード キーワードの言い換え -----	文献リストNo. 出典元
キーワードの意味・定義	
キーワードに関連する語句、語彙	

キーワード キーワードの言い換え -----	文献リストNo. 出典元
キーワードの意味・定義	
キーワードに関連する語句、語彙	

(2) キーワードの抽出・グループ化（班員個々の、事前の取り組み） ※ p.43 のつづき

【作業】 p.43 で記入したキーワードを、グルーピングしよう。

- ① キーワードを関連ある項目毎に集め、小さいグループを作り、見出しを付ける（関連する項目名）
- ② その小グループを中・大グループにし、さらに見出しを付け、どのようなグループなのか言語化する
- ③ グループ間の関係（相互・対立・原因・結果、等）が分かるように、線でつないだり、丸で囲む
- ④ 説明のために新たなキーワードカードが必要な時は作成する（関係性が分からないときは“？”とする）

※キーワードが記載されている文献、資料等の一覧

(4) フレインストーミングでキーワードを整理する

付箋にキーワードを書き込み、キーワードカードをグルーピングする

- 作業後、できあがった「キーワードマッピング」を記入しよう

(5) キーワードマッピングの内容を文章に表す

図解化したものを文章で説明してみよう。（得られた情報を理解しているか確認しよう）

(6) 研究テーマの案 (1) （グループで話し合っ、研究テーマを絞り込もう）

（仮）研究テーマ：
選んだ理由： （仮）リサーチクエッション（何を明らかにしたいのかを示す「問い」）： 例）〇〇～〇〇 という状況があるなかで、□□～□□ であるのは、なぜか？

研究テーマの案 (2) （グループで話し合っ、研究テーマを絞り込もう）

（仮）研究テーマ：
選んだ理由： （仮）リサーチクエッション（何を明らかにしたいのかを示す「問い」）： 例）〇〇～〇〇 という状況があるなかで、□□～□□ であるのは、なぜか？

(7) 先行研究・先行事例の検証

研究テーマに関連する先行研究・事例で、特に関連性の高いものを取り上げ、下記の事項についてまとめよ

文献リスト：

【研究・事例のタイトル】

【著者・研究団体・出典、など】

【リサーチクエスション・目的、など】

【仮説・検証事項、など】

【研究手法】

【学んだこと】

【疑問点、不足事項】

【感想、その他特記事項、など】

(1) リサーチクエスション（探究の問い）を導こう

（方向性）漠然とした研究テーマから掘り下げていく

※ 班編成は、研究テーマの興味・関心がほぼ同じ、又は方向性が近いメンバーで構成

（例えば） 子どもたちの貧困 という大枠のテーマで班員が集まった... とします

⇒ 「子どもたちの貧困」だけでは、あまりにも漠然としている ⇒ 小さい「問い」で掘り下げる

小さい「問い」：「どこの？」子どもたち、子どもたちとは「何歳から何歳？」＝「誰？」
「いつの？」子どもたち、貧困といっても「どのような状態？」

⇒ 問いの答えを具体的に考える道筋を立てることが必要

（情報を収集する中で、これらの 小さい「問い」が絞られていくこともある）

⇒ 先行研究・先行事例のまとめから「問い」を立てることが求められる場合もある

1) どこの地域が対象？

世界全体の「子どもの貧困」、新興国の「子どもの貧困」、日本国内の「子どもの貧困」... から
〇〇地方、〇〇県、〇〇県の□□地域、自分の住む△△校区... の「子どもの貧困」まで様々
大きな地域を指すと、スローガンとしては良いが、研究テーマとしては不適切な場合が多い

（あらゆる地域に着目し、多くの事例をまとめることは、社会的にも学術的にも重要ではあるが、
時間と労力を考えると、研究テーマとしては検討が必要）

2) 対象者は？

「子ども」とは、何歳から何歳までのこと

⇒ 就学前の子どもたち と 高校生 では置かれている状況が違い、問題点が異なることがある
（性別、人種、宗教、国籍、等によって状況が変わるときは、これらの条件も考慮する必要）

3) いつの時代の話？

戦後間もないならば「戦争孤児」が対象、高度経済成長期、バブル崩壊後の低成長期、等
「現在の状況」が多いが、調べればすぐに答えが出せることも少なくない ⇒ 検討が必要。
（調べながら、独自の考察を行い、新たな答えを導き出す... という作業が求められる）

4) どのような状況を想定？

単に「貧困は子どもたちにどのような影響を与えるか？」では、影響を計る尺度がなく、曖昧な問い。
「どのような状況において影響を及ぼすか」を明確にする

⇒ 収集した情報（新聞記事、先行研究・事例、インターネットや統計資料のデータ、など）で、
具体的な状況が示されていることも少なくない。
（示されている状況をそのまま利用、又は対比して別の状況を調査し、テーマにするのも良い）

（例） 「子どもたちの貧困」に関する資料で、新聞に〇〇県の離島で高校進学の際に、
島内の高校の進学率が10年間で大幅に低下している事実が紹介、その背景に家庭環境（経済状況）があるのではないかという報告の記事を入手。

- 1) どの地域 ⇒ 自分の住んでいる〇〇県 ⇒ 〇〇県の離島である△△地域
（〇〇県内でも経済格差が大きいとされている）
- 2) 対象者は ⇒ 子ども ⇒ 進路選択に関わる年齢 ⇒ 中学3年生
- 3) いつの時代の話 ⇒ 最近2～3年の状況（データがあれば、過去からの変遷も示したい）
- 4) どのような状況を想定 ⇒ 義務教育が終わり、初めての進路選択を家族とともに検討する状況

（例）

研究テーマ： 〇〇県△△地域（離島）の高校進学先と家庭環境との関連について
選んだ理由： 令和2年××月××日付け□□新聞において、離島である△△地域の高校進学の際、島内にある2つの高校への進学率が10年前は7割を超えていたのが、去年は5割を下回ったとの記事が掲載された。その背景に家庭環境があるのではないかとの報告があり、具体的に検証しようと考えた。
リサーチクエスション（何を明らかにしたいのかを示す「問い」）： 例）〇〇～〇〇 という状況があるなかで、□□～□□ であるのは、なぜか？ 〇〇県にある離島の△△地域の子どもたちが高校進学への進路選択をするにあたって、総収入・両親の職業・家族構成などの家庭環境がどのような影響を与えるのか？
仮説（リサーチクエスションに対する「答え」の予想）： 家庭が会社員ではなく、事業を行っていたり、農家を営んでいる場合は、その事業や農家に関連する高校への進学が多くなるのではないか？ また、所得の多い世帯の子どもほど島の外の高校に進学するのではないか？
仮説の根拠（文献などから、可能であれば記入する）： ☆☆で2018年に行われた〇〇～〇〇調査によると、地方の親の事業を継ぐ割合が〇〇%と大都市圏の〇〇%に比べて高い。 また、◇◇で2019年に行われた〇〇～〇〇調査によると、所得の多い家庭の子どもほど、都市部の大学への進学が多い。したがって、高校進学でも同じ傾向がみられると思われる。

(2) 仮説を立てよう

「仮説」：リサーチクエスションの「答えの予想」

※ 仮説の精度を上げるために … 研究テーマに関する知識と理解を深める

⇒ ここで立てる「仮説」によって、研究手法（どのようにして答えが得られるか）が決まってくる

※ 「仮説」は必ずしも最終的な「答え」と一致する必要はない

⇒ 「仮説」を覆す予想外の「答え」が得られたときのほうが、大きな発見となることがある。

《仮説を立てる理由》

1) リサーチクエスションの再チェック

仮説が立てられないリサーチクエスションには問題がある場合が多い

⇒ リサーチクエスションに具体性が欠けている時、あるいは研究テーマについての知識・理解が不十分である場合、仮説をたてるのが難しくなる

2) 調査・研究の方向性を定める

仮説を立てることで、どのような調査・実験などがリサーチクエスションへの答えにたどり着くのにも有効か、方向性が見えてくる

⇒ 仮説を立てずにやみくもに調査・実験を行うと、まず何を行えば良いのか分からないうえに、改善や重視しなければならない要素も分からず、時間を無駄にしてしまう

《留意すべきこと》

1) 仮説にも可能な限り根拠を示す

根拠を示しながら仮説を立てることは、より精度の高い調査・実験方法の方向性を定める上で重要

2) その仮説は検証可能か？

検証が不可能な仮説が立ってしまうリサーチクエスションは、調査・実験が不可能になってしまう

⇒ 担当の先生に相談するなどして、リサーチクエスションを再検討しよう

3) 複数の仮説を立てる

可能であれば、複数の仮説を立てておこう。一つの仮説が外れた時はその理由を考えた上で、他の仮説を検証しよう。

また、調査・実験を行った中で新たな仮説が生まれたらそれを書き記し、検証しよう。

《気をつけるべき「問い」》

※ 研究テーマとして適当ではないもの ⇒ 時間と労力は限られている

- ・ どのように研究を進めたら良いのか、見当が付かないもの
- ・ 高校段階では理解が難しいもの
- ・ 研究に時間がかかるもの
- ・ 調べればすぐに答えが導けるもの、授業で習うもの
- ・ 研究を通じて、学術的・社会的に貢献できないと思われるもの
- ・ 関連する人々のプライバシーへの配慮が欠如したもの

1) すぐに答えが出てしまわないか？

- ・ 近年増加するお年寄りの熱中症を予防する方法とは？
⇒ 基本的な予防法は、こまめな睡眠と水分補給を促す、エアコンを使用する、等
(常識の範囲で解答できる、保健の授業で習うので研究の必要がない)

2) 現状を調べるだけで終わってしまわないか？

- ・ 熊本市の若者はどこに流出しているのか？
- ・ 殺処分ゼロの理由 ～熊本市動物愛護センターの取り組み～
⇒ 資料（データ）やインターネット等で調べれば分かる
(調べ学習で終わり、考察・アイデア等がない、新たな知見の創造・探究がみられない)

3) 見通しが立ち、実現可能か？

- ・ 森林伐採が進む〇〇町で植林を行うことにより、温暖化がどの程度緩和されるか？
⇒ 〇〇町の植林がどの程度温暖化に影響するのか調べることは困難
(扱うデータの解析が膨大・高度過ぎて解答を得ることが困難、など)

【チェックリスト】

- ☐ すぐに答えが出る「問い」ではないか？
- ☐ 必要な研究資源（装置、機材、人材、費用、試料、等）は十分か？
- ☐ 調査日数はどれくらいか？（だいたい良い）
- ☐ 理解できる内容か？
- ☐ 「問い」に対する答えを想定することができるか？
- ☐ 調べるべき資料は何か？

（３）現段階での『(仮)研究テーマ』と『(仮)リサーチクエスション』（下書き）

（仮）研究テーマ
選んだ理由、検討過程など
（仮）リサーチクエスション （何を明らかにしたいのかを示す「問い」） 例）〇〇～〇〇 という状況があるなかで、□□～□□ であるのは、なぜか？ 対象地域 （「問い」ではどこの地域を対象としているか？） 対象者 （「問い」ではどのような人を対象としているか？） 対象の時代 （「問い」はどの時代が対象か？） 想定する状況 （「問い」ではどのような状況を想定しているか？） 学問（学術）分野 （「問い」ではどの学問・学術分野からアプローチするか？）

3

日時：

【下書きへのチェック項目】

- ☐ 用いられている言葉の定義は明確か？
- ☐ 関連する制度や法律を理解しているか？（自然科学）関連する原理や数式を理解しているか
- ☐ 研究テーマの現状を示すデータを示すことができるか？
- ☐ 関連する先行研究・先行事例を理解しているか？
- ☐ リサーチエスジョンに取り組む意義を見い出せているか？（調べ学習で答えが出せないか？）
- ☐ 取り組み可能なリサーチエスジョンか？（「問い」が大きすぎないか、小さく絞り込む必要はないか？）

【協議内容、担当者からの指導・指摘など】

[illegible]

(4) リサーチクエスションの設定

研究テーマ
リサーチクエスション （何を明らかにしたいのかを示す「問い」） 例）〇〇～〇〇 という状況があるなかで、□□～□□ であるのは、なぜか？

《社会背景・検討過程など》

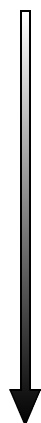
人文科学・社会科学系		自然科学系	
1. 対象地域・対象者		1. 理解が必要 原理・数式	
2. 対象の時代・時期			
3. 想定する状況		2. 必要な研究資源	
4. 重点学問・学術分野		（装置・試料・機材・費用）	
5. 先行研究・事例 （分かっていること・解決できていないこと）			
6. 研究手法 （調査・研究方法 実験方法、等）			
7. 見込まれる 学術・社会貢献 （明らかにしたいこと）			

(5) 仮説の設定と検証 (社会的な課題・文系課題version)

研究テーマ (前ページに記載のテーマ)
リサーチクエスト (何を明らかにしたいのかを示す「問い」：前頁に記載のリサーチクエストを記入)



仮説1	根拠
仮説2	根拠



《チェックリスト》 (研究テーマ発表会での評価項目)

- ☐ リサーチクエスト (探究の問い) の設定は適当か
 - ☐ 見通しが立ち、実現可能か
 - ☐ 現状を調べるだけで終わってしまわないか
 - ☐ すぐに答えが出てしまわないか
 - ☐ 関連する人々のプライバシーに配慮はあるか
 - ☐ 社会的「Needs」(必要性)に応えるものか、社会的・学術的な貢献はあるか
- ☐ 仮説は適当か、根拠が示されているか
- ☐ 研究手法は妥当か
 - ☐ コピペなど不正行為の恐れはないか
 - ☐ 先行研究への配慮はあるか

再設定した 研究テーマ

再設定した リサーチクエスト (仮説をふまえて再設定する場合)

再設定した仮説	根拠
---------	----

③ 研究計画書の作成 【研究計画書】 （発表シート：研究テーマ(研究構想)発表会）

（班長）

（記入者 組号・氏名）

※クラス・番号（2142）氏名を記入

研究テーマ：
1. 選んだ理由、検討過程など
2. 対象地域、対象者、時期（時代）、想定状況、重点学術分野、など
3. 先行研究・事例 （これまで分かっていること、解決できていないこと）
4. リサーチクエスション （何を明らかにしたいのかを示す「問い」） 例）〇〇～〇〇 という状況があるなかで、□□～□□ であるのは、なぜか？
5. 仮説 （リサーチクエスションに対する「答え」の予想）
6. 仮説の根拠 （文献などから、可能であれば記入）
7. 探究概要・必要な研究資源 （研究手法（調査方法、研究の方法）見通し、機材・装置・試料など）
8. 学術・社会への貢献 （この研究で見込まれる成果）

【研究テーマについて】

【リサーチクエスションについて】

【仮説・根拠について】

【探究概要、その他、指摘事項】

【夏休みの取り組み等の確認】

(1) ポスターの作成の手順

1) ポスターの構成

・ もれなく「目的(背景)・方法・結果・考察」から構成

⇒ 「目的・方法・結果」がない発表はないが、「背景」と「考察」が抜け落ちた発表を
しばしば見かける (1.目的 の中に、必ず “背景” を盛り込むこと、大項目としても良い)

例えば、児童虐待の発生件数のデータを調べ、地域間の件数をただ比較しただけならば、
「なぜ調査したのか、件数の比較なのか、対象地域を選択した理由、何を調べたかったのか」など
多くの疑問が湧いてくる。そのような事態を避けるために「背景」と「考察」は欠かせない

(字数：フォント12) 要旨 60字 × 5～6行 (300～350字程度)

本文 27字 × 45～48行 2段組 (2400～2600字程度)

トピックセンテンス (topic sentence) … 研究等の内容を一言で表した文 (文章)

右ページのポスター様式の各項目 1. 目的 (背景も不可欠) 2. 方法 3. 結果
4. 考察 (結論・新たな課題・展開など) 5. 感想 をそれぞれ短い文で表現しておく、
各項目毎に支持文 (理由や情報など) を追加する形で具体化できる。

2) (仮)タイトル (研究の顔 … 興味を引くタイトルを付けたい)

はじめは、仮のタイトルを付けておく ⇒ 研究のキーワードをまとめておくこと

(ポスターを作成する過程で、研究と向き合いながら最終的なタイトルを決める)

タイトルは、

1. 名詞で終わる
2. 何の研究を行ったのかが分かるものにする
3. どのような着眼点で研究を行ったのかが分かるものにする
4. 同じ分野の他のポスターとの違いを際立たせる
(興味を引くことにつながる … タイトルで見るかどうかを判断されることも)
5. 補足情報はサブタイトルにする

【参照】 Appendix (付録) にGS課題研究 (過去4ヵ年) の研究タイトルを掲載

《タイトルの型》

- ①テーマ・序論型 : 研究の主題や課題を伝えるオーソドックスなパターン
- ②方法型 : 研究手法が売りになるときに使用
- ③結果型 : 研究結果を伝えて興味を引くときに使用
- ④考察型 : 研究から得られた新たな節や解釈を伝える攻めのパターン

□□□□. . . . について (タイトル)

熊本県立宇土高等学校

2年〇組〇〇番 氏名 2年〇組〇〇番 氏名 2年〇組〇〇番 氏名 2年〇組〇〇番 氏名

要旨

(今回は日本語で記載) 5～6行で研究要旨(研究内容を簡潔に説明する文章)を記入する。

研究背景なども含めて、初見者が研究テーマと研究内容について理解できるように、必要な情報を整理して簡潔に記載する。

1. 目的 (背景)

※ 1. 背景 とし、2. 目的 (以降、番号
繰り下がり) としても良い

研究目的 (取り組んだリサーチクエスション) 及び
先行研究・事例を紹介し、研究の意義及び問いに
対する仮説、その根拠など説明

2. 方法

どのような方法で研究・調査・実験を行ったか、
スペースの許す限り具体的に記載する

3. 結果

研究によって得られた結果を示し説明する

4. 考察

研究によって得られた結果を示し、分析・考察する
本研究によって得られた結論及び、それに伴う今後
展望 (どのような変化が見込めるか、等) を記入する
(項目を追加して 5. 結論 を入れても良い)

5. 感想

本研究の取り組みや得られた結論についての感想
を記入する

6. 参考文献

参考にした文献や引用した文献のリスト

3) 表・グラフ・図・写真などのデータを効果的に挿入する

挿入するデータの選択、順序、レイアウト、説明文など考慮する

発表内容を限られた文字数で表現するのは簡単なことではない。慣れないうちはキーワードを挙げて、優先順位をつけて考えていくのがよい。並べ替えたり、似た言葉を入れ替えたりしたものをいくつか作って、どれが一番ふさわしいのかを班員と意見を交わしながら、じっくり検討しよう。

4) 自分で読み直し、訂正を行う（班員同士で読み合い、指導担当者に見てもらうこと）

おそらく何度も書き直しやデータのレイアウトの変更が必要となる

- 留意事項
1. 誤字脱字がないか、話し言葉は使われていないか
 2. 文と文とがつながっているか（急に内容が変わってはいないか）
 3. 初見の人にもわかりやすい説明になっているか
 4. 結果と考察が1セットになっているか、内容から結論が導かれているか

5) タイトルをもう一度見直す

発表の場や聴衆を想定して、真面目なタイトルから興味を掻き立てるようなキャッチーなタイトルまで、場にふさわしい雰囲気タイトルのタイトルを考える

⇒ 研究内容を一文でまとめきれないときは、「主題」とともに「副題」をおいても良い
視野の大きな主題と具体性に触れる副題の組み合わせ「大テーマと小テーマ型」など

《「主題」と「副題」を組み合わせるタイトルの主な型》

- | | |
|--------------|------------------------------|
| ①大テーマと小テーマ型 | 「方言の衰退 ～松橋方言の今～」 |
| ②テーマと方法型 | 「マルチリンガルへの道 ～外国語学習のすすめ～」 |
| ③テーマと結果型 | 「熊本方式を全国へ ～殺処分ゼロの理由～」 |
| ④主題と視野の大きい副題 | 「私たちが今できること ～バリアフリー社会をめざして～」 |

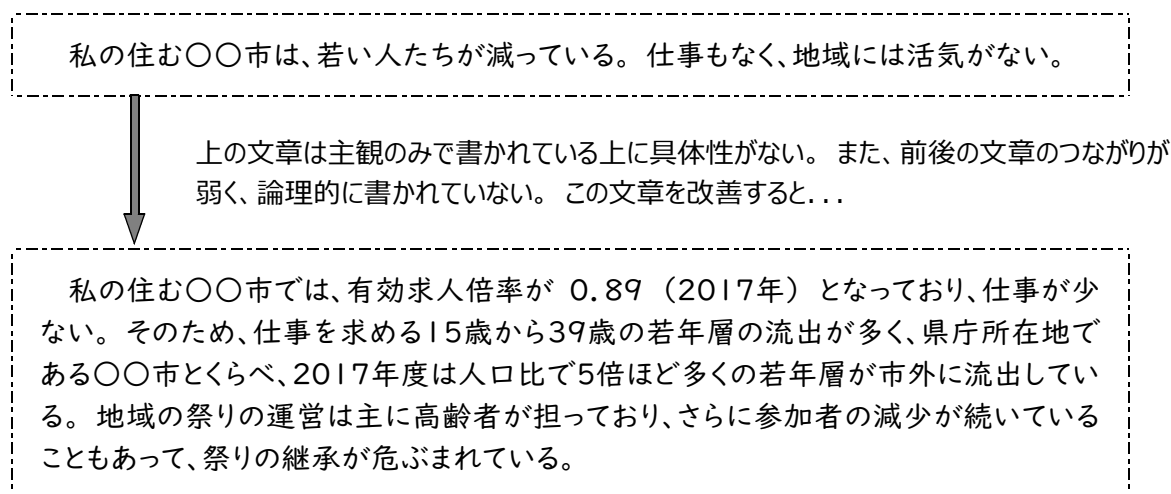
(2) 文章の作成

論文やポスターで求められる文章 ⇒ 論理的に筋の通った、無駄のないシンプルなもの
(作文とは違い、体験・感想を述べるものではない)

1) 主観的・感情的な表現は使わない

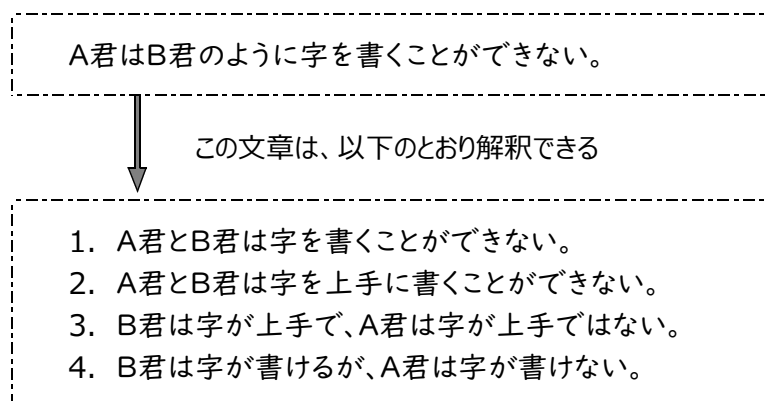
主観的な、「○○だと思う」「○○が大変だった」「○○がうれしかった」などの表現は極力避ける。
(自分自身の感覚は一個人のもの、同じ経験をしていても皆が同じ意見になるとは限らない)

2) 論理性と具体性



3) あいまいな表現は避ける

研究で書く文章の多くは第三者と共有する必要がある。ゆえに、第三者が読んで誤解を生む可能性のある表現は、極力避けなければならない。



これだけの解釈の可能性がある読む側は混乱してしまう。誰が読んでも意味が明確に分かる文章が求められる。

研究計画書（研究テーマ・リサーチクエスション等記入用紙）、ポスター、論文の他、アンケート用紙も含めて、第三者に見せる文章は作成後に指導担当の先生に読んでもらい、確認していただくこと。

4) 客観的な事実、主観的な意見 の区別を明確に

⇒ 事実は情報としての価値が高く、論文・ポスターを構成する重要な要素となる

「〇〇町民は、伝統を大事にします。」 ⇒ **意見**

「〇〇町は毎年欠かさず〇〇を行い、これは300年続く伝統行事である。」 ⇒ **事実**

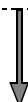
⇒ 客観的な事実から自分の意見を導く書き方を心がける

「〇〇町は毎年欠かさず〇〇を行い、これは300年続く伝統行事である（客観的事実）。このように〇〇町は代々、伝統重んじている町だといえる（客観的事実から導かれた意見）。」

5) 話し言葉は用いない

原文

近頃、女の人が一生のうちに産む子どもの数が減っている。40年くらい前は3.5人くらい産んでいたのに対して、今は1.4人くらいしか産んでいない。医療が進んだためにお年寄りは長く生きられるようになって嬉しいが、少子高齢化はどんどん進んでしまうと思う。



原文と訂正後の文章は同じ内容を示しているが、与える印象は異なる

訂正後

近年、合計特殊出生率は減少を続けている。第二次ベビーブームである1970年代には約3.5人だった同値は1.4人程度に落ち込んでいる。医療の発達により平均寿命は向上したが、このまま合計特殊出生率が回復しなければ、少子高齢化はさらに進行していくと考えられる。

《気をつけるべき表現 一覧》

気をつけるべき表現	論文・ポスターなどで用いる表現
～と思う（思います）	～だと考えられる（考えられます）
～かもしれない	～の可能性がある，～の可能性が考えられる
今までは	従来は，これまで
だいたい〇〇	約〇〇，およそ〇〇
たくさんの	多くの
とても，すごく	たいへん，非常に
だから，なので	したがって，ゆえに
でも，だけど	しかし
まだよくわかっていない	未解明である
よくなっている	改善されている
悪くなっている	悪化している
この研究，この論文	本研究，本論（本稿）
この実験，この調査，今までの研究	本実験，本調査，先行研究
前の節，次の節	前節，次節



Free writing area with 27 horizontal dashed lines for text entry.

(3) ポスターの発表

1) 発表のストーリー

- ・「序論（背景・目的）」⇒「材料（情報源・資料）と方法（研究手法）」⇒「結果」⇒「考察」の順にストーリーを論理的に組み立てる

- 〔留意事項〕
1. 背景から考察まで話の筋が通っているか（各項目の役割を理解する）
 2. 情報に過不足がないか
 3. 持っているデータや成果の面白さ・重要さが効果的に伝わるストーリーを検討する（やってきたことをやってきた順序で話すことがベストとは限らない）

2) 発表の構成の検討

- ※ 各項目で話す内容をリストアップする



（箇条書きのメモ 等）

おおまかなストーリー構成（流れ）を決定

- ・ 序論（導入＝スケールの大きな話題）

⇒ 多くの人に興味・関心を持たせる

関連する先行研究を紹介
具体的な研究背景について説明
未解決の課題や疑問などを提示

話題を 自分たちの研究目的へと収束

- ・ 材料と方法、結果（一つ一つ丁寧に説明）



（調査の意図について簡単に説明）

- ・ 考察（まとめ＝徐々に説明のスケールを拡大）

⇒ 序論をさかのぼるように研究を昇華させる

得られた結果から考えられること、序論で挙げた課題や疑問がどのように解決されたか、自分たちの研究はどんな意義があったのか ⇒ 研究結果と成果を正しく理解してもらう



<https://student.tsutawarudesign.com/>

（話題のスケールは「砂時計型」で展開）

3) 研究の価値を伝える

1. 結果をまとめ、研究によって生まれた新たな解釈・明らかになった事実についてはアピールする
2. 序論で挙げた課題や問題点、疑問がどのように解決されたのか説明する
3. 関連する分野も含めて、自分たちの研究の意義や地域・社会にどのように寄与するのかを述べる
4. 未解決の課題が残ったり、新たな研究展開が期待できるときは、今後の展開について触れて締めくくる

(4) 中間発表会（ポスター発表）の評価

1) 評価の方法・基準 （各発表会場毎に、生徒による相互評価 + 先生方の評価を行う）

【評価基準】 （5観点・10項目：各5段階評価（50点満点）+ 感想）

- | | |
|------------------|----------------------|
| ① タイトル（表題）について … | a. 興味や関心を引いたか？ |
| | b. 研究内容・着眼点が伝わったか？ |
| ② 調査・研究について … | a. 独自の問い・考察が行われていたか？ |
| | b. 結論が導かれていたか？ |
| ③ ポスターの構成について … | a. 資料活用など工夫されていたか？ |
| | b. 分かりやすい内容であったか？ |
| ④ 発言について … | a. 声量が適切であったか？ |
| | b. 自分の言葉で分かりやすかったか？ |
| ⑤ 発表内容について … | a. 学術貢献や社会貢献につながったか？ |
| | b. 興味・関心が深まったか？ |

【発表後の質問 及び 対応】

2) ポスター発表を振り返って （個人としての意見・反省）

（成果）

.....

.....

.....

.....

（課題・反省）

.....

.....

.....

.....

※評価票のコメントを受けて、班で話し合った内容を箇条書きで記入する

1) 成果（高く評価できること）

2) 反省（改善すべきこと）

3) 課題（新たに見つかった課題や指摘事項、他からの提案、など）

4) パワーポイントによるプレゼン資料作成に活かせること、配慮すべきこと

（新たな課題、取り組むべきこと、他からの提案、などを受けて）

(1) プレゼンテーションとは何か？ ... 誰かに、何かを伝える（与える）こと

1) 何を伝えたいかを明確にする

取り組んできた研究を（主にリサーチクエスションの意義とその答えの重要性を中心に）振り返って、何が重要で何を一番伝えたいか考えよう。

2) 誰に伝えたいかを明確にする

聴衆がどういう人々かによって ⇒ 同じ内容でも、プレゼンの方法は大きく変わる

(小・中学生向け or 高校生向け or 保護者向け or その分野の専門家 ... 工夫が求められる)

《聴衆の特性の理解》 ⇒ 可能な限り客観的に分析して、理解できる言葉・構成にする

- 聴衆が...
1. 何を知っているか？ ... 当たり前と思っている知識がそうではないことも
 2. 何に興味があるか？ ... 社会貢献又は学術貢献、どちらを求める人々か
 3. 何を基準に評価するか？
 4. (外国の人々に対して) 何語を理解するか？
 5. 聴衆に対して、何か話してはいけないことはないか？

(2) プレゼンテーションの基本構造 ... あくまでも“基本構造” ⇒ 取捨選択は可能

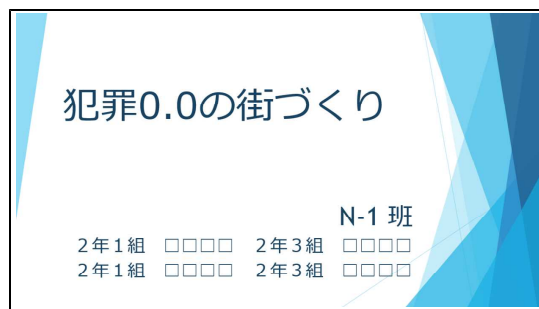
1) 表紙

①発表タイトル ... 大きく分かりやすく見せる

②所属班、クラス・名前

③所属先

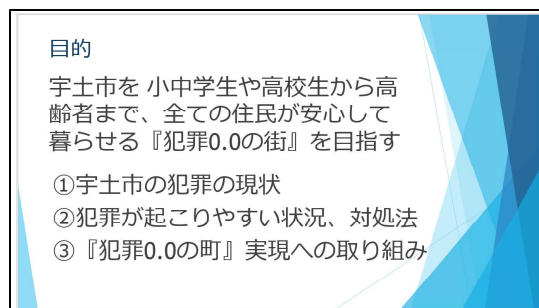
(所属先のロゴ等があれば掲載してよい)



2) アウトライン（目次） ⇒ 省略可能

3) 背景・意義（問題提起・探究の「問い」）

- ・プレゼンの導入部分
- ・「この研究は必要だ」「...面白そう」と思わせたい



- (Point)
1. 研究の内容を理解するために必要な背景の説明
 2. 過去の取組内容と、未解決・未解明の内容
 3. 研究の新規性・独自性と、自分の研究が必要である意義
 4. リサーチクエスションの答えに挑んだ方法（簡潔に。研究手法の項目へのつなぎ）

(2) プレゼンテーションの基本構造 つづき

4) 研究手法（調査方法・実験）

- ・どのような研究手法を用いて、リサーチクエスションの答えに挑んだのか、具体的に示す
- ・模式図や表・グラフなどを有効に用いて、端的に述べる
- ・重要箇所だが、時間を割き過ぎないようにしたい（結果・考察の時間が短くなる）

5) 結果・考察

- ・結果を示す際に、図や表・グラフで使われている言葉の定義や引用先、参考元を示す
- ・示された結果から言えること、得られた新たな問いと答え（考察）は、結果の後に示す

6) 結論・展望（まとめと今後の展望）

- ・実験・調査結果から得られた研究結論を述べる（一般的にはリサーチクエスションの答え）
- ・この研究によって生じた問いに対して答えの出なかったものが、今後、社会や学術分野でどのように発展していくのかを示す

7) 謝辞、引用文献・参考文献

- ・協力者への感謝を述べる

熊本県市町村別の犯罪発生率ランキング

順位	市町村	人口100人当たりの犯罪発生率
1位	菊陽町	1.609%
2位	嘉島町	1.521%
3位	熊本市	1.199%
⋮	⋮	⋮
6位	宇土市	1.076%

犯罪0の町：玉東町、水上村、五木村
⇒どのようなとりくみを行っているのか？

結果③ 宇土市の犯罪の現状は？

- ▶ 宇土市の犯罪は熊本県全体のうち2%
⇒ **熊本県下では比較的少ない**
- ▶ 性犯罪件数は年間1〜2件と比較的少ない

しかし...

- ▶ 犯罪としては扱われない程度の声掛けやわいせつ事案は過去3年間で**50件発生**。ターゲットに多いのは登下校中の小中学生や女子高生。

これで宇土市は安全な街といえるのか・・・？

私たちにできること

- ▶ 近隣の小中学校にマップを配布
- ▶ マップ作成や危険個所の確認を委員会や生徒会の活動にする

高校生が『守られる側』から『守る側』へ！

社会貢献活動 ➡ 犯罪減少 + 地域の強い結びつき

➡ 人口増加 ➡ **地域活性化**

まとめ **犯罪抑制の大きな鍵**

- 1 一人ひとりが防犯意識を高く持ち、犯罪予備軍の芽を摘む。
- 2 二重ロックなど、中高生でも取り組める防犯対策を行っていく。

参考文献 ▶ <http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/kurashi/higai/koramu2/koramu8.html>
▶ <https://www.police-pref.fukuoka.jp/seisan/seisan/46.html>
▶ https://www.police-pref.osaka.jp/05houhan/seihan_kodomo/women_safeguard.html
▶ <https://news.livedoor.com/article/detail/11970596/>
▶ <https://article.auone.jp/detail/>

ご清聴ありがとうございました

(3) 見やすいスライドにするために

1) 文字は少なく、なるべく図・表で示す

主張内容を簡潔に1文で示す
文章をなるべくビジュアル化する

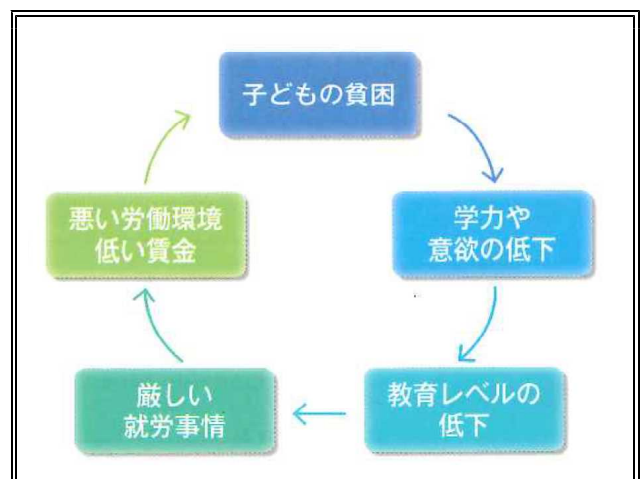
2) 大きな文字を使う（基本28〜30ポイント）

フォントサイズは2〜3種類に留めよう

3) 色使いはシンプルに（基本的な色は統一）

意味ごとの色分け … 重要事項：赤色、言葉の定義・説明：青、など

色は多用しない、蛍光色はスライドにしたときに消えることがある ⇒ 事前にスクリーンに映して確認する

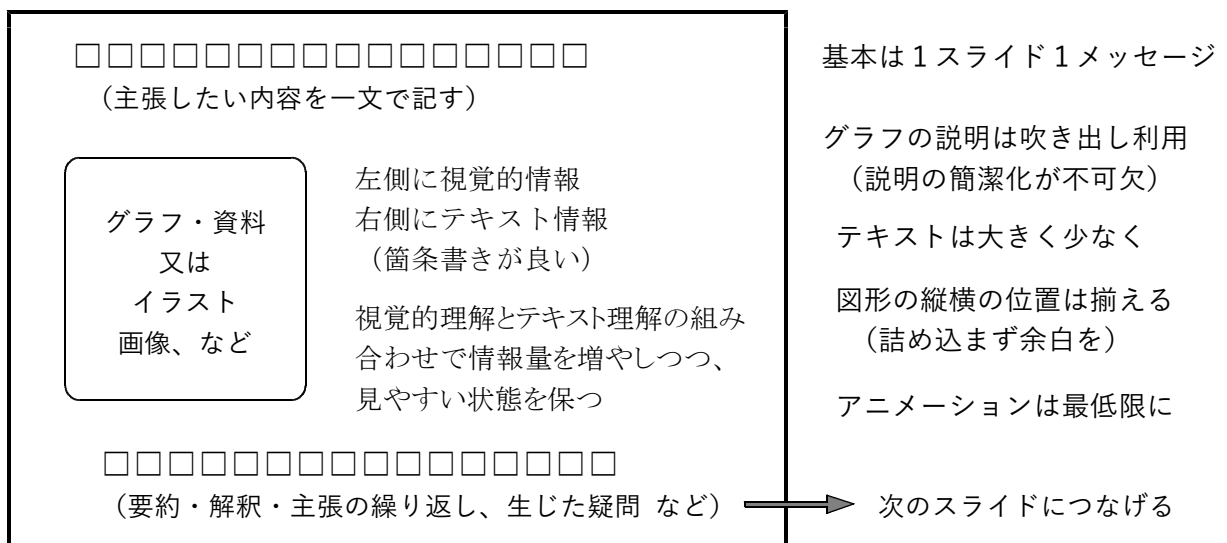


(3) 見やすいスライドにするために (つづき)

4) 1枚のスライドの流れは3つ

- ①主張したい内容を簡潔に1文で示す（原則：1スライド1メッセージ）
- ②主張内容に一致するように情報を入れ込む
- ③生じた疑問点などを次のスライドに繋げる形で挙げる

5) グラフ・資料やイラスト、画像などを加えると見やすくなる（背景は白色が良い）



(4) 発表の準備：「要点メモ」の作成 と 練習

1) 要点をまとめたメモを作る（1枚毎に話したい内容の順番を箇条書きで整理）

- ①スライド1枚ごとに1枚の「要点メモ」を作る
- ②箇条書きでシンプルにまとめる
- ③スライドに「含めきれない情報」を入れる

※「要点メモ」作成原稿として p.82・83 の
プレゼンシートをコピーして利用してよい

2) 練習と改善を繰り返す ⇒ スライドを見た瞬間に「何を話せば良いか」が浮かぶ ... を目指す

- ①まず、スライドを見ながら（原稿無しで）発表練習 ⇒ 「ここは何だっけ？」となるポイントが出る
- ②「要点メモ」で確認 ⇒ それでも“発表が詰まる”ならば、スライド・要点メモの加筆訂正をする
- ③でも、原稿がないと話せない人は ... 「要点メモ」に“番号”を振る（箇条書きの項目順に）

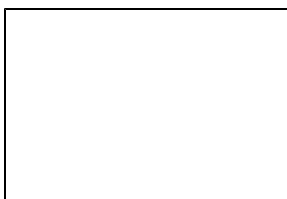
⇒ その場合「話し言葉で原稿を作る」のは我慢する ... “箇条書きの要点”を見て発表

- (理由)
1. 修正に時間が掛かる
 2. 棒読みになり重要なところがわかりにくくなる
 3. 原稿を読んでいることが“明らかに” わかってしまう

(5) プレゼンの話し方 (⇒ 練習のポイント)

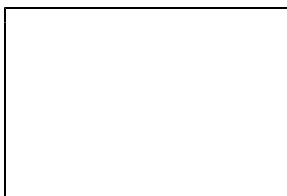
- 1) 大きな声でゆっくりと ⇒ 練習は必ず「声に出して」行う ... 些細な違和感にも気付く
 - ① 話す内容がストーリーとして まとまっているかを確認 ... 「場面は変わって」「話題は変わりますが」等といったフレーズができるだけ使わない
 - ② 「つなぎ言葉」不要 & 「えー」を飲み込む
⇒ スライド転換時の「結果です」「結論です」は不要 + 「間」を「えー」で繋ぐ癖を克服する
 - ③ 緊張していると思っている以上に早口になる ... 録画をして確認しよう
- 2) 「間(ま)」と「ジェスチャー」を効果的に ⇒ プレゼンは「メリハリ」が大事
 - ① 「資料をご覧ください」「皆さんどのように考えますか？」後の“間”は、聞き手をプレゼンに引き込む
⇒ 聞き手と自分との立場の違いを考慮して“上から目線”にならないように注意
 - ② 「問題が2つあります」の時、手でピースのような格好で“2つ”を表すと、聞き手により印象づける
⇒ (留意) ポイントで効果的に行う... 始終ジェスチャーを交えると、聞き手は集中できない
- 3) “略語”は意味も含めて繰り返し説明
 - ① “略語”は1回では覚えられない... 略語が出る度に思考停止に陥る恐れ ⇒ 繰り返し説明
⇒ WHO (世界保健機関) などは、きっちりスペルアウトまで！
最初に「World Health Organization の頭文字をとって“WHO”です」と説明するとすんなり理解できる ... それでも“WHO (世界保健機関)”と繰り返す！
- 4) 複雑な内容は“解釈”で認知負荷を下げる (正しい解釈か？は別として...)
 - ① “解釈”は「どういうこと？」をズバット言うこと... 結果だけを載せたスライドは辛くなることも！
⇒ 「犯罪ゼロの町にするため、私たちは『守られる側』から『守る側』へ変わる必要があります」を
「犯罪ゼロの町にするため、本校では生活委員が『〇〇高校防犯隊』として監視意識を高め、二重ロックなどの防犯対策を行っていくべき...」と意味づけすると理解しやすい
- 5) 聞き手の中の“味方”を見つけ、情熱を持って語りかける
 - ① 聞き手の中に、うなずきながら聞いてくれる“味方”がいる... 緊張している間はその人に語りかける
⇒ いつまでもその人にだけ話しかけるのではなく、周りの人にもしっかり顔を向けるように心掛ける
 - ② “情熱”を持って語りかけることで、聞き手は話に引き込まれる
- 6) 質疑応答 ... 難しい質問には無理に答えない
 - ① 質疑応答はプレゼンの内容やプレゼンターへの信頼度を高めるために重要なパート。
⇒ 詳細なデータの整理など、練習を通じて事前に想定問答などの対策ができれば、行っておきたい
 - ② 「鋭い視点からのご質問ありがとうございます。本質的な質問ですので慎重に回答したいため、少々お時間をいただけますか」や「新たな課題として、今後の研究対象にさせていただきたいと思います」等

1ページ



項目： _____

2ページ



項目： _____

3ページ



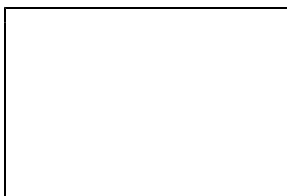
項目： _____

4ページ



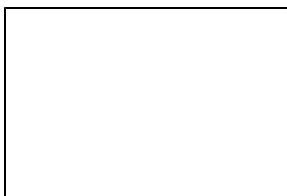
項目： _____

5ページ



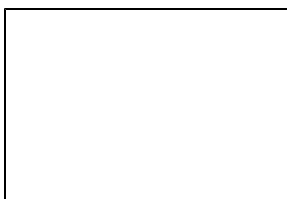
項目： _____

6ページ



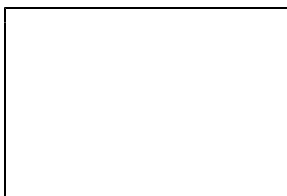
項目： _____

7ページ



項目： _____

8ページ



項目： _____

9ページ



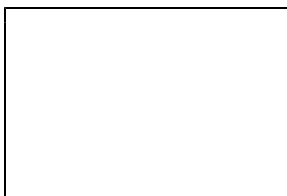
項目： _____

10ページ



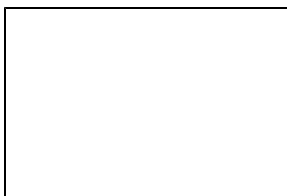
項目： _____

11ページ



項目： _____

12ページ



項目： _____

(6) 最終発表会（パワーポイントによる発表）の評価

1) 評価の方法・基準 （各発表会場毎に、生徒による相互評価 + 先生方の評価を行う）

【評価基準】 （5観点・10項目：各5段階評価（50点満点）+ 感想）

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| ① タイトル（表題）について … | a. 興味や関心を引いたか？ |
| | b. 研究内容・着眼点が伝わったか？ |
| ② 調査・研究について … | a. 独自の問い・考察が行われていたか？ |
| | b. 結論が導かれていたか？ |
| ③ プレゼン資料について …
（パワポ・スライドについて） | a. 文字の大きさ、資料の配置は適切だったか？ |
| | b. スライドの構成や表現に工夫があったか？ |
| ④ 発言について … | a. 声量が適切であったか？ |
| | b. 自分の言葉で分かりやすかったか？ |
| ⑤ 発表内容について … | a. 学術貢献や社会貢献につながったか？ |
| | b. 興味・関心が深まったか？ |

【発表後の質問 及び 対応】

2) パワーポイントによる発表を振り返って （個人としての意見・反省）

（成果）

（課題・反省）

(7) スーパープレゼンテーション（研究成果発表会）発表班 選考会

- 1) 評価の方法・基準 （最終発表会と同じ ⇒ 前ページ参照）
- 2) 発表を振り返って（話し手としての成果・課題 or 聞き手としての意見・感想 … 自由記載欄）

【印象に残った班の記録（5班以内で）】 ⇒ 優れていた点、学ぶべき点、今後に生かせる事項、等

（発表テーマ・班）

（発表テーマ・班）

（発表テーマ・班）

（発表テーマ・班）

（発表テーマ・班）

※評価票のコメントを受けて、班で話し合った内容を箇条書きで記入する

1) 成果（高く評価できること）

2) 反省（改善すべきこと）

3) 課題（新たに見つけた課題や指摘事項、他からの提案、など）

4) 将来の目標（進学など）、社会に出てからの自分の在り方にどのように活かせるか

5) プレゼン資料作成・発表の取り組みを通じて感じたこと（班としての取り組み/個人の取り組み）

6) 先生からのアドバイス、提案など

//

【課題研究を通じて、興味関心が深まったこと、新たな発見など】

【課題研究で思い通りに行かなかったこと、困難だったこと、そこから得られたもの】

【課題研究を経験する前と後とでは、どのような変化があったか】

【課題研究を通じて得られた経験や知見を、今後どのように活かしていきたいか】

【これから課題研究に取り組む後輩たちに伝えたいこと】

[illegible]

発表テーマ
Title

発表者 氏名 発表者 氏名 発表者 氏名 発表者 氏名
Name, Name, and Name

Abstract (In English, within 4 lines)

oo
oo
oo
oooooooooooooooooooo.

1. 目的

oo
oo
oooooooooooooooooooo

2. 方法

oo
oo
oo
oo
oo
oooooooooooooooooooo

グラフ・図表等
Web や書籍等の転用は
認められません。自身が
作成した資料のみ掲載
可

3. 結果

oo
oo
oo
oo

4. 考察

oo
oo
oo
oooooooooooooooooooooooooooooooooooo

5. 結論

oo
oo
oooooooooooooooooooo

6. 参考文献

oo

7. キーワード

oooo oooooo oooooo oooooo oooooo

《3年1学期のGS課題研究について》

取り組み内容を選択 ⇒ ①課題研究継続 ②集団討論・小論文講座 のいずれかを選択

①課題研究継続について

内容：原則、2年時に取り組んだ課題研究の継続（関連するテーマの変更も認める）

班員：同一テーマ2人以上、4人まで

（原則として単独研究は認めないが、意欲や進路志望、進路開拓の必要性などを検討し、学年の先生方で協議の上、認めることもあるので、一人での研究である旨を記入の上、希望すること）

募集：3班～8班、最大で30人程（希望者が多数の時は、検討する）

発表：7月下旬に実施予定の「SSH課題研究成果発表会」で原則、発表を行う

power point ステージ発表：2班、ポスターは全班掲示、ポスターセッションでの発表

②集団討論・小論文講座

内容：テーマ別（7テーマ選択制）に、集団討論及び小論文に取り組む

集団討論：原則1班5～6人で編成、テーマ毎に課題文を配付（事前配付する）

課題文から、班別協議の上「討論の柱」を設定し、討論する

《選択テーマ一覧》（以下の7テーマから進路希望に応じて1テーマ選択、テーマは変更することがある）

a) 文化・文学・歴史・心理

（生活文化、伝統文化、歴史的遺産保護、文化振興、活字離れ、若者言葉、心理、等）

b) 人権・労働・貧困

（マイノリティ（LGBT、先住民、外国人、被差別部落、他）、子どもへの虐待・体罰、男女平等、長時間労働、過労死、非正規雇用、世代間格差、貧困・教育格差、外国人労働、等）

c) 人口・都市・地域社会（地域産業）

（少子高齢化、人口の一極（都市）集中、移民・難民問題、都市防災・地域防災、過疎化（限界集落）、後継者不足、コミュニティ維持、地域産業活性化、観光振興、交通、等）

d) 教育

（待機児童、いじめ・暴力、教師の多忙化・負担軽減、教育の機会均等、コロナ禍遠隔授業、等）

e) 国際・環境

（地域紛争、テロ問題、経済格差・貧困、貿易摩擦、資源エネルギー、温暖化対策、等）

f) 政治・経済・ビジネス

（政治不信・汚職・公文書改ざん、所得格差、産業空洞化、エネルギー確保、サプライチェーン、等）

g) 医療・福祉

（高齢者介護、生活習慣病、ドラッグ問題、へき地医療、安楽死、母子・障がい者福祉、等）

集団討論 大学入試における討論テーマ（宇土高の先輩が受験したもの）

【熊本大学 GLC（グローバル・リーダー・コース）】

「緊急災害時における対策マニュアルを地域住民と連携し、大学生が発案する。」（2020年、文）

「周囲の環境を設定し、予想される災害が起きた際に、地域住民がとるべき行動マニュアルを作成する。」（2020年、理）

「仮想の立地条件の大学を考え、その周辺のさまざまな年齢層・職業の住民のための自然災害防災マニュアルを作成する。」（2020年、工）

「若者のスマホ依存の弊害と対策について議論せよ。」（2019年、文）

「GLCの特色を活かして、留学生や地域の親睦を深められる学園祭を企画する。11月に開催するとして、4～10月の準備過程を示せ。」（2019年、理・工）

※熊本大学総合型選抜・グローバルリーダーコース入試は、コロナ禍対応のため令和3年（2021年）度入試からペーパーインタビュー問題に変更 以下は、事前に熊本大学が公開した問題例

問：現在、勉強やそれ以外の趣味などで指導者や教科書などの学びの枠を超えて、あるいはそれらの学び以外に、自ら進んで努力していることはありますか。それはどのようなことですか。具体的に教えてください。もし該当する事柄がなければ、これからやってみたいと思っていることや過去に行ったことでも構いません。複数思いつく人はそのなかからどれか1つを選んで教えてください。どんな些細なことでもかまいません。下記の①～⑥の質問に留意して解答してください。

- ①いつ頃、どのようなことか。
- ②自ら進んで努力しようと考えた理由は何か。
- ③具体的に行っている努力はどのようなことか。それをおこなうことでどのようなことを期待しているか
- ④現在も努力を続けているか。継続の理由は何か。努力を止めている場合は、その理由を述べる。
- ⑤すでに何か結果・成果を得ているならば記述する。最終的な目標はどのようなものか（より具体的に記述する）。
- ⑥その努力を通して得たことは何か。今後、質問と同じような状況になったらどのように行動するか。

※ 熊本大学総合型選抜・グローバルリーダーコース入試

令和5年（2023年）度～令和3年（2021年）度入試の「ペーパーインタビュー問題」は、Appendix「小論文に取り組む」のページ（p.113）に掲載しています

【国公立大学】

「日本の食糧自給率が低下している原因について、その要因を考えなさい。また、その要因から、日本の食料自給率を高めるために、テクノロジーを使った解決策を話し合いなさい。」

(5人 30分) (2024年、九州工業大・工・建設社会工)

「担任が全教科を教えるのと専科教員が教えるのは、どちらが良いと思うか」

(2024年、鹿児島大・教育・初等教育)

「地域創生学群に新設すべき実習について、『ひきこもり』を解決するための実習をグループ(7人)で提案しなさい (40分) (2023年、北九州市立大・地域創生)

「コロナウイルスの感染者の推移のグラフの分析」各自考察30分、討論20分、自分の意見のまとめ10分 (2023年、熊本大・医・医)

「現在の日本社会における多様性の実現を阻む要因として、どのようなものが挙げられるか」 (2022年、北九州市立大・地域創生)

「子どもたちがSNSを利用することに対して、気にかける点は何か」

(2022年、琉球大・教育・小学校)

「道徳教育において、子どもたちにどのような学びを与える必要があるか」

(2021年、鹿児島大・教育・初等教育)

「障がい者が社会に参加するときに生じる障壁は何か。また、その際に障がい者と障がいをもたない人が一緒に生活するためにどのようにすべきか」 (2020年、福岡県立大・人間社会)

「まちづくりとは何か、『まち』という言葉を使わずに説明せよ。また、『まち』と『むら』の相違点と共通点を議論せよ。」 (2020年、北九州市立大・地域創生)

「『文化』とは何か、『文化』という言葉を使わずに説明せよ。また、『文化』が生活の上でプラスにはたらくことと、マイナスにはたらくことをまとめよ。」 (2019年、同上)

「人口が減少している中で、都市への人口集中を推し進めることを、地域創生の視点から批判的に議論せよ。」 (2017年、同上)

「『健康を維持するために必要なこと』というテーマで、アイデアを出しなさい。その際に軸を2つ作り、アイデアを分類せよ。」 (2019年、九州工業大・情報工)

「子どもに読書を習慣づけるために、どのようにしたらよいか。」 (2018年、大分大・教育)

【私立大学、看護専門学校】

「少子高齢化社会で若者が生き生きと暮らしていくためには、どのような取り組みをすれば良いか」 (2024年、熊本保健科学大・理学療法)

「コロナ禍における地域活性化をするためには、どのようにすればよいか」

(2021年、熊本学園大・経済・リーガルエコノミクス)

「『人間力』とは何か。また、これを大学4年間でどのようなことをすれば、高めることができるか」 (2020年、熊本保健科学大・看護)

「自動運転と法について、自動運転中に発生した事故について（事故の詳細を記した文章が提示され）、その責任問題と解決策について議論せよ。」（2019年、法政大・法）

「『もったいない精神』を、子どもにどのように伝えるか。」（2016年、関西学院大・教育）

「生活しやすい社会とは、どのような社会か。」（2021年、上天草看護専・看護）

「新型コロナウイルス感染症の世界中での蔓延は、医療及び医療者に大きな影響を与えました。一連の経緯を見て、これから医療に携わる者としてどのようなことを考えましたか。」

（2021年、東邦大・医・看護医療/医）

(1) 集団討論の一般的な流れ

- ① 試験官が、テーマ、時間、ルール等を指示する
- ② 自己紹介、簡単な挨拶を行う
（氏名はAさん、Bさん …）
- ③ 役割（司会、記録、タイムキーパー）を決める
- ④ タイムスケジュール、発言のルールなど確認
（最初の発言のやり方、など）
- ⑤ それぞれの意見を出し合う、議論(討論)を行う
（ディスカッション・ワークを行う）
- ⑥ グループとしての意見をまとめ、発表する



(2) 集団討論で心がけるべきこと

- ① 聞く力をアピール
必要なのは、相手が何が言いたいかを理解する力と、質問する力
- ② 言い負かそうとしない
人の意見のいいところを認める
違う意見にも折り合いを付ける力が必要
- ③ 明るい声と表情を意識
班の雰囲気が悪い＝協調性がない
明るく前向きな雰囲気が、良い結論を生む
- ④ 発言が少ない人を気遣う
個人としてのスキルは見られていない
集団のパフォーマンスを高めるため、
どのような働きをするのかが見られている
- ⑤ 適度に軌道修正をする
議論の流れを見守り軌道修正を行う
討論に夢中で、まとめられなかったは避ける

※イメージすると... 5つの“必要”

1. 時間を守る必要（時間制限あり）
2. 自分の意見を発言する必要
3. 自分の意見の根拠を述べる必要
4. 他人の意見をしっかり聞く必要
5. 班の意見をまとめる必要

■ 討論のポイント

1. 与えられたテーマに対して
... 個人で考えをまとめる
2. グループ内で... 各人の意見を共有
3. どのような結論がふさわしいか、
... 班の中で、意見をまとめる

⇒ 相手の意見は否定せずに...

「なぜそう思うの...？」

私は〇〇の理由でこう思う」と

根拠を添えて発言すると効果的！

(2) 集団討論で心がけるべきこと つづき

■ 集団討論の誤解（やってはいけないこと）

1. 相手を言い負かせれば勝ち ✕
...「独善的で、協調性がない」とみられる
2. 話を盛り上げれば受かりやすい ✕
... 討論が深まっていないことが多い
3. おとなしいタイプは落ちやすい ✕
... そのようなことはない
能弁である必要はない！

⇒ 議論は、意見を戦わせることではない...
協調性を保ち、話し合い、討論する場

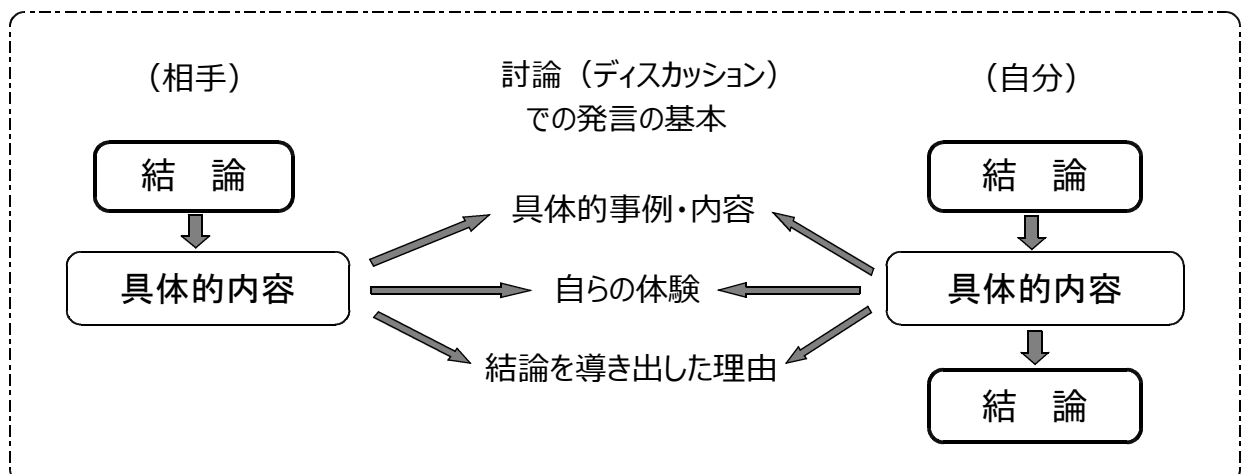
■ 集団討論の鉄則（討論展開のコツ）

- ① 『素朴な疑問』は議題に（質問）する
議論が戻り、新たなアイデアとなることも
- ② 議論の引き戻し
議論が“脱線”したら、即引き戻そう
高評価につながることも
- ③ 時間の管理
必要なら、時間を気にするコメントを出す
議論を区切るタイミングに発言する

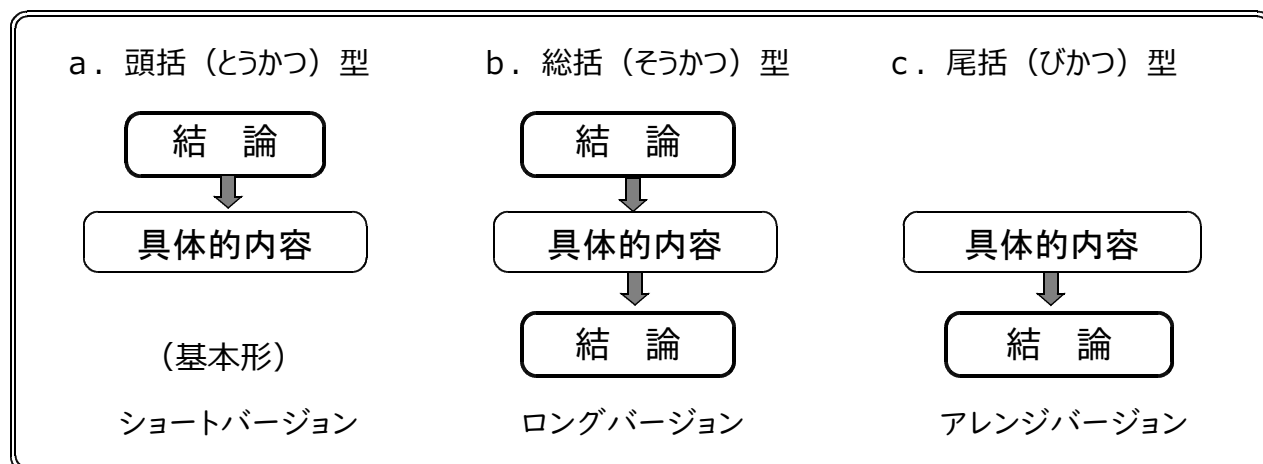
⇒ 無理をして「司会」にならなくて良い...
司会選出に難航したら... 一言
「司会なしで、議論を進めましょう！」

(3) 発言の仕方

- ① 大前提... 他の参加者、採点者の 貴重な時間を借用している
⇒ なるべく短く、言いたいことは簡潔に伝える（その能力もみられている）
- ② 説得力のある論理・理由・発言は... 多くの人の価値観に沿ったものであるべき
⇒ 実際に「皆に共感を持たれる発言」になることが多い
- ③ 発言の仕方の基本 ...
 1. 相手の発言を踏まえ（意見を十分に尊重した上で）
 2. （自らの意見の）結論を述べ、具体的内容（理由）に触れ、
 3. （簡潔に）結論で閉める



④ 発言の型（3つのパターン）



■集団討論でのNGワード

① 若者言葉、くだけ過ぎた言葉は使わない

言いたいことはわかるけど、...
... と思うんです。だから、
ボクは、〇〇〇〇や、... とかは、
反対だったりします。

② 無駄の多い文章の構成は避け、
短く端的に言い切る

言いたいことは分かりますが、
.... でも、.... でしたし、
そもそも.... であるのは、
.... であるからであり、
〇〇さんの考え方は、
.... ことから考えてもおかしいし、....

（何を言いたいのか分からない、終わらない）

■大学（AO、推薦）入試で問われる要素

- ① 志望理由 ② 実績
- ③ 基礎学力 … 話の理解力、言葉の運用力
社会・文化の知識

... 加えて、集団討論では

④ コミュニケーション能力

（4）日頃から心がけて欲しいこと

① 日常的にニュース、新聞をチェックする

② 自分の意見を持つ癖をつける

時事問題も知って終わりではなく、自分は
どう思うか、賛成・反対、意見を書き出そう

③ 日常会話でも、自分の意見を言い、
人の意見をしっかり聞く意識をする

《参考・大卒就職試験での評価の観点》

① 積極的な姿勢

進んで発言ができているか
自ら行動を起こす力があるか、

② 協調性・コミュニケーション力

周りが見えているか、表情をみているか
他の意見を聞き、取り入れる姿勢の有無
初めての相手と会話ができていくか

③ 論理性

物事を組み立て、考える力が備えている
具体的な根拠を示すことができ、
理路整然と要点を説明できるか

④ 発想力

固定観念にとらわれない自由な発想、
オリジナルの視点、独自の観点があるか

《討論の進め方》

- ① 班員は、Aさん、Bさん ... Fさん と呼ぶ（記録も原則 Aさん、Bさん ... で）
- ② 司会者、記録者、発表者を事前に選出する（兼務可、記録・発表は兼務が良い）
- ③ 課題文（事前配布）を読み、検討する時間を5分程設定
- ④ 最初に1人ずつ順に発言。課題（討論の柱となるもの）を出し合う
（全員の発言後）何について討論するのか、課題（討論の柱）を定める
- ⑤ 課題の背景、解決の方向性など出し合い、班としての結論を導く
（課題解決のための取り組みの方向性などをまとめる）
- ⑥ 班の発表者による討論の発表（班の討論の内容、課題と結論を報告する）

※ 2回目以降、同じ題材・課題文を使用して討論を継続する場合は、上の④などを省くなど、討論の進捗や内容に合わせて、随時変更しても良い。

《経過時間の目安》 6 限目（14:50～15:40：50分）

14:50（5分）	14:55（5分）	15:00（30分）	15:30（5分）	15:35（5分）	15:40
着席・資料 配付・説明	資料黙読 ・検討	討論	発表 (2～3班)	講評	

《課題文のメモ その1》

課題文表題：_____ 出典：_____

課題（討論の柱・案1）_____

（討論の柱・案2）_____

キーワード：_____

背景など：_____

解決の方向性（討論・案1）_____

解決の方向性（討論・案2）_____

課題文 自由メモ欄 ※事前に課題文を読み、集団討論に備えて必要な情報や必要事項をメモしよう

課題文表題：_____ 出典：_____

課題（討論の柱）

キーワード:

背景など:

解決の方向性（討論・案１）

解決の方向性（討論・案２）

《自由メモ欄》 ※事前に課題文を読み、集団討論に備えて必要な情報や必要事項をメモしよう

[illegible]

(班:) 3 年 組 号 氏名 :

(討論テーマ)

(討論の柱)

1. 班(集団)としての評価						
評価項目 (右の5～1の段階に○を付ける)					(強) ←そう思った→ (弱)	合計点
① テーマ設定 : 適当なテーマを設定することができ、討論の柱(課題)は討論が深まるものであったか?					5 4 3 2 1	点
② 意見共有 : 各人の意見を共有し意見をまとめ、テーマに対してふさわしい結論を導くことができたか?					5 4 3 2 1	
③ 時間設定 : 討議の中で適度な軌道修正が行われ、制限時間内に結論にたどり着くことができたか?					5 4 3 2 1	
④ 協調性 : 班員は互いに配慮し、発言は偏りがなく平等に行われ、明るく前向きな雰囲気であったか?					5 4 3 2 1	

【成果】(班全体で評価できること)

【反省】(班として改善すべきところ)

【課題】(討論を通じて新たに見つかった課題、解決できなかった事項、など)

2. 個人としての自己評価						
評価項目 (右の5～1の段階に○を付ける)					(強) ←そう思った→ (弱)	合計点
① テーマ設定 : 適当なテーマを設定することができ、討論の柱(課題)は討論が深まるものであったか?					5 4 3 2 1	点
② 意見共有 : 相手の発言を踏まえ、自分の意見をまとめた上でその根拠を伝えることができたか?					5 4 3 2 1	
③ 時間設定 : 適度な軌道修正を行い、制限時間内に全体の意見をまとめ結論を導くことができたか?					5 4 3 2 1	
④ 協調性・積極性 : 班員の発言に偏りがないう配慮しつつ、自らは積極性を失わずに討論ができたか?					5 4 3 2 1	

【成果】(自らの討論参加について、評価できること)

【反省】(討論を通じて、個人として改善すべきところ)

【課題】(個人として新たに見つかった課題、解決できなかった事項、など)

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Appendix

アンケート調査の手順	<i>p.96 ~</i>
小論文に取り組む	<i>p.98 ~</i>
<i>SDGs 169 target</i>	<i>p.108 ~</i>
過年度 研究テーマ一覧	<i>p.117 ~</i>
地域資料一覧	<i>p.126 ~</i>
宇土市のまちづくり	<i>p.127 ~</i>
インタビュー等 記録欄	<i>p.128 ~</i>
お礼状（例）	<i>p.131 ~</i>
自由記録（メモ）欄	<i>p.132 ~</i>

《アンケート調査の手順》

第1節 調査方法

(アンケート調査の順序) 計画 ⇒ 準備と実施 ⇒ 集計と分析(解析) ⇒ 報告と活用

※特に 計画の立案 は重要 … 良いデータの収集に不可欠(= 調査結果を活用できない)
⇒ どんな統計処理・分析も良い結果は得られない

1. 計画 (計画立案の際に、明確にすべきこと)

1) 調査目的 (何のために調査するのか? 結果をどのように活用していくのか?)

アンケート調査 … 仮説検証型 と 現状把握型 の2つのタイプに分類

・ 仮説検証型 → どんな仮説を検証しようとしているのかを明確にする

(目的) 1. 調査を実施するものが何らかの仮説を設定

2. その仮説が本当に成立するかをデータで確認する

(仮説の設定) グループインタビューを行うとよい

⇒ 調査対象者から少人数を選び、意見交換の中から、仮説を発見する

・ 現状把握型 → アンケート結果をどのように活用するのかを明確にする

(目的) 1. 調査をすることにより、どんな状況で何が起きているのかを把握

2. その結果を意志決定に活用する

2) 調査項目 (何を知りたいのか? 何を調べるのか? 質問文はこの調査項目を基に考える)

3) 調査対象 (誰に質問するのか? ⇒ 母集団: 調査の対象となる集団)

(例) ダイエットに対して日本の女子大生がどのように考えているかを調べようとする

⇒ 母集団 … 日本中の女子大生

(アンケート調査) 全数調査 … 母集団の全数を調査

標本調査 … 母集団の一部を抜き取って調査

4) 調査規模 (何人に質問するのか?)

※ 標本調査ならば、母集団から選び出す人数を決定 ⇒ 要求精度、回収率、予算を考慮

・ 要求精度 … 標本調査は一部のデータから母集団を推定 = 標本と母集団の調査結果に誤差
この誤差を最大でどの程度まで許せるかというのが要求精度

(これは統計学に無関係に調査担当者が任意に決定)

※ 要求精度が決まれば、統計学を利用した計算によって何人選べばよいか自動的に決定

・ 回収率 … 過去のアンケートを参考に予想 → 通常は20~70%の間

※ 要求精度に基づいた統計計算によって調査人数を50人と選び出しても、
回収率を50%と予想したら、100人必要になる。

5) 調査時期 (いつ実施するのか?)

実施する時期によって回答は大きく異なる … 質問内容に応じたタイミングで実施

例：就職意識のアンケートを4月に行う場合と、12月に行う場合

6) 調査方法 (どのように調査・データ収集をするのか? ⇒ さまざまな方法がある)

- ・ 集合調査法 … 対象者をある会場に集めて、その場で質問に答えてもらう方法
⇒ 一度に多数の調査票回収が可能
(会場確保や集合時間と場所の連絡といった事前準備に人手が必要)

2. 集計と分析 (どのように集計し、どんな統計処理を使って分析するのか?)

(原則) 収集したデータをどのように集計し、どんな統計処理を使うかは、事前に計画

〈単純集計〉 各選択肢に何人が選んでいるかを質問毎に集計

〈クロス集計〉 2つの質問を組み合わせる集計 (データチェックにも使用)
2つの質問間にどんな関係があるかを分析することができる

単純集計はすべての質問について行うが、クロス集計は関わりがある質問を組み合わせる実施

⇒ どの質問とどの質問を組み合わせるクロス集計するか、マトリックス図で整理すると良い

第2節 調査票の作成

⇒ 質問文や回答項目が回答者にとって分かりやすいものである必要

1) 質問文 … 質問文は次のチェックポイントに気を付けて作成する

- ・ 失礼な語句を使っていないか? ・ 難しい表現はないか?
- ・ あいまいな表現はないか? → きちんと朝食をとりますか、とりませんか。
- ・ まぎらわしい表現になっていないか? → 健康診断は病気予防に役立たないと、
思いますか、思いませんか。
- ・ 1つの質問に2つ以上の論点を含んでいないか? → 当ホテルの宿泊施設やフロントの
対応は良いですか、悪いですか。
- ・ 特定の価値観を含んだ言葉はないか? (誘導質問に陥っていないか?)
→ 報道機関に対する政府の言論統制は、必要ですか、不要ですか。
- ・ 質問文の順番に問題はないか? → 簡単に答えられる質問から難しい質問へ、
似たような話題の質問は連続するように並べる

2) 回答項目 … 3つの形式 (自由回答、選択回答、順位回答)

- ・ 自由回答 … 数量での回答と、語句や文章での回答がある 処理は時間が必要
- ・ 選択回答 … 単一回答と複数回答の2種類ある。
 - (単一回答) 回答項目 (選択肢) の中から1つだけ選ぶ
2つの中から1つを選ぶ二項選択と、3つ以上の中から一つ選ぶ多項選択がある
 - (複数選択) 回答項目 (選択肢) の中から2つ以上選ぶ
無制限複数回答 (いくつでも選べる) と 制限付き複数回答 (選択する数に制限)

引用：内田 治 著：「すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・解析」より

《小論文 表記のルール》

（1）正しい表記で書く（大原則です。評価に影響します）

1) 原稿用紙のルールを守って書く

- ① 段落の始まりは1字下げる
- ② 「…」 「？」 「！」などの記号は用いない
- ③ 行の最初に「、」「。」「々」などが来ないようにする
※ 行をまたがないで「日々」はよいが、
またいだ時に最初の「々」は× → 「日」にする

2) 指定字数は守る

- ① 字数が指定されたときは、9割以上はマスを記入する
- ② 加筆・修正（削除・訂正・書き加え）のルールを守る
 - ・ 削除する時、その文字に＝を引く
 - ・ 訂正する時、＝で消した右側（横書きの時は、上側）に書く
 - ・ 書き加える時、{（縦書きは左向き、横書きは下向き）や<（横書きは下向き）でどこに挿入するかを示し、右側（横書きの時は、上側）に書く

加筆・修正があると、当然字数が変わってくる。この場合、段落の終わりの「空いたマス目」の数で調節できる範囲に訂正をとどめたい。（行を変えて新しい段落が始まった時、前の段落で空いているマス目も指定字数に含まれる）

小論文では、できる限り下書きした上で記入し、削除・加筆・修正は最低限にすること（要約など指定字数が少ない場合、字数計算は厳密なので、加筆・訂正は避ける）

3) 誤字・誤用に注意

- ① 同音異字の使い間違いに注意（結構、多い！）
〔例〕 × 大学生対照の調査 ○ 大学生対象の調査
× 一環した ○ 一貫した
- ② 同音の文字間違い（これも多い！）
〔例〕 × 感違い ○ 勘違い
× 価値感 ○ 価値観
- ③ 送り仮名の間違いにも注意
〔例〕 × 生活のリズムを損こなう ○ 生活のリズムを損なう
× 抱かえて ○ 抱えて

4) 文法の間違いに注意

- ① 主語と述語は対応させる
〔例〕 × 私の目標は、人に親切にしよう。
○ 私の目標は、人に親切にすることだ。

4) 文法の間違い（つづき）

- ② 修飾語を用いるときは、何に対する修飾語なのかが分かるように書く
〔例〕 私が好きだった数学の専門書は...
⇒ 数学自体が好きなのか、その専門書が好きなのか、明らかではない！。
- ③ 接続語の使い間違いに注意する
〔例〕 × A君は学校へ行き、また、B君は行かなかった。
○ A君は学校へ行ったが、B君は行かなかった。

（２）読みやすい字で書く（読んでもらって、評価をいただき、合否が決まります）

1) 丁寧な字で書く

- ① 略字や続け字は用いない
- ② 習った漢字はなるべく使って書く
⇒ 希望する進路などに関わる語句を漢字で書けないと「本当は興味が無いのでは」と思われる
〔例〕 × 私は理学子ょうほうしになりたい。
○ 私は理学療法士になりたい。

2) 一段落や一文の長さを意識する

- ① 段落は、意見・理由（・具体例）・意見のまとめなど、内容のまとまりで分ける。
（400字の意見論述であれば、2～4段落程度に分けることを意識する）
- ② 一文は長くても60字程度（1行20マスならば3行）に収める

3) 話し言葉ではなく、書き言葉で書く

- ① 「でも」「けど」「とか」など、話し言葉の接続表現を使わない
〔例〕 × でも～ → ○ しかし～
× ～けど → ○ ～であるが
× ～だし → ○ ～である。また～
× ～とか → ○ ～など
- ② 人の呼び方や者の名前を、話し言葉で書かない
〔例〕 × うちのおばあちゃんが → ○ 私の祖母が
× スマホ → ○ スマートフォン
- ③ 「～してる」「ら抜き言葉」など、話し言葉の省略表現を使わない
〔例〕 × 話してる → ○ 話している
× 食べれる → ○ 食べられる
× 書いとく → ○ 書いておく

《小論文 出題例》【熊本大学 グローバル・リーダー・コース ペーパーインタビュー問題】

熊本大学総合型選抜・グローバルリーダーコース入試 （2024年）

問：（設定）大学で外国人留学生を含めたグループでイベントを企画・運営することになりました。あなたはどのようなイベントにしますか。

（2024年、理・工）

- ① そのイベントをするにあたって、あなたが工夫することは何ですか。また、あなたの考えをどのようにグループ内に説明して納得させるか、自身の成功した体験をふまえて述べよ。
- ② そのイベントを企画・運営する上で発生する問題等を1つ挙げ、グループ全体でどのように解決するか、体験をふまえて述べよ。

熊本大学総合型選抜・グローバルリーダーコース入試 （2023年）

問：あなたが組織、グループでの活動について、経験をもとに、次の点に注意して書きなさい。

（2023年、理・工）

- ① いつごろ、どのようなことを、何人で行ったか
- ② グループの運営において大切なことは何か。その活動であなたはどのような役割をしたか（あなたがグループ活動で心がけている事も含めて）
- ③ 活動の中で経験したことがのない課題はあったか。その活動の中で起こった問題、それに対してどのように対応したか
- ④ この経験を大学でどのように活かしたいか

熊本大学総合型選抜・グローバルリーダーコース入試 （2022年）

問：あなたがグループの中で、リーダーシップをとった経験について、次のいくつかの点に注意して書きなさい。ただし、原則として中学3年以降の経験について書くこと。なければ、それ以前の経験も可とする。（2022年、理・工）

- ① どのようなグループであったか。その内容と、グループ運営に必要なことをもとに、どのような努力をしたか。
- ② その中でどのような役割をしたのか。また、それに対する周囲の反応はどうだったか。
- ③ 説明や説得した経験で、何を心がけたのか。また、それに対する周囲の反応はどうだったか。
- ④ 課題解決のために、何をしたのか。また、その取り組みを将来どのように活かすことができるか

《小論文 出題例》

熊本大学総合型選抜・グローバルリーダーコース入試（2021年）

問：あなたが将来、住もうとしているA市では、国際化を目指しています。「外国人が住みたい町」にするために、あなたがすべき役割をいくつかの点に注意して書きなさい。

（2021年、理・工）

- ① 国際化が進むにつれ、生じる問題の具体例を1つ挙げよ。
- ② その問題をどのような機関と協力して解決していくか、あなたの仲間と協力した経験を含めて述べよ。
- ③ A市の人たちに、どのように発信することで解決への理解を得られるのか、あなたが誰かに説明して、納得してもらった経験をふまえて述べよ。
- ④ ②、③をふまえて、①をどのように解決していくか、あなたの考えを述べよ。

【国公立大学】

熊本大・文・文（2024年）

「①筆者の考える「母語消滅のサイン」とは、どのような状態か。（100字）

②母語消滅に対する筆者の主張を簡潔にまとめた上で、あなたの考えを述べよ（400字）

出典：山口仲美『日本語が消滅する』

③本文の内容を200字以内で日本語にまとめなさい。

④本文の内容をふまえた上で、文学賞によって文学者や文学作品の価値がきまることについて、あなたの考えを述べよ（400字）（全1100字 90分）

出典：Kim Willsher “Albert Camus will always be outsider”

宮崎大・教育・中学校主免（2024年）

「読書は時間の無駄だ」と発言する児童・生徒に対して、どのように読書の意義を説明し、動機付けを行うか」（600～700字 70分）

出典：ベネッセコーポレーション「学力テストの偏差値グラフ『読書と学力の関係』」

熊本県立大・環境共生・居住環境（2024年）

「①近年、身近な居住空間に関する環境問題から地球規模の環境問題に至るまで、個々の建物やそれらの集合体としての都市に関わるさまざまな問題について議論がなされてきている。これらの問題に対処しつつ、建物や都市を建設し、かつ、維持発展させていく上で、どのようなことを考慮していくべきであろうか。異なる2つの問題を取り上げ、それらの特徴および考えられる対策について、500字前後で述べなさい。

②日常観光にどのようなことが想定できるのか、自分のまちを思い浮かべながら、あなたの考えを500字前後で述べなさい。（500字×2 120分）

出典：西村幸夫 学芸出版社「『観光まちづくり』まち自慢からはじまる地域マネジメント」

熊本県立大・環境共生・食健康環境（2024年）

（課題分をふまえて）社員食堂の管理栄養士だとして、社員の野菜不足を改善するために、どのような取り組みをするか。（500字 120分）

※英文の課題文が出題 和訳2題、説明2題

出典：H,Ensaiff A Nudge in the right direction the roltof food choice architecture in changing population's diets. 2021

横浜国立大・都市科学・都市社会共生（2024年）

「距離を介した想像力の問題」について、あなたの考えを述べなさい（400字 60分）

出典：片山大右「小山田圭吾の『いじめはいかにしてつくられたか』」集英社新書2023

熊本大・法・法（2023年）

「アメリカの人工妊娠中絶の合憲について反対しなさい」（1800字 120分）

出典：宮津多美子「人種・ジェンダーからみるアメリカ史」

熊本大・文・総合人間（2023年）

「視覚に適度に依存」している現代社会が抱える課題について、あなたの考えを述べよ（800字 課題文要約500字を含め 90分）

熊本大・教育・小学校（2023年 口頭試問）

「小学5年生の4月中旬、歩き回ったり暴力を振るったりする子がいる。担任としてどのように対処するか。また、発達障害かせある子どもに対してはどう対応していきたいか」

【私立大学、看護専門学校】

九州看護福祉大・看護（2024年）

「文部科学省は2024年度より、小学5年生から中学3年生の英語でデジタル教科書を使用する方針を明らかにしました。この事例をはじめ、国内の出版市場では、電子書籍の需要の増加と紙の書籍の減少が報告されています。このように学習や読書の方法が変化する中で、紙の書籍と電子書籍をどのように使い分けていくことが良いか、双方の長所と短所を比較して、あなたの考えを720字以上800以内で述べなさい」（800字、90分）

出典：出版科学研修所 2023

九州看護福祉大・看護（2024年）

「あなたの心に残っている『胸に染みわたる言葉』は何ですか。そして、その言葉に、どのような影響を受けましたか。720字以上800以内で述べなさい。※書籍やインターネットなどのメディアの内容からの言葉や、あなたがポジティブな影響を受けた言葉だけではなく、ネガティブな影響を受けた言葉を挙げていただいたも構いません。」（800字、90分）

出典：朝日新聞 天声人語 2023.1.22

九州ルーテル学院大・人文・心理臨床（2024年）

「障害のある人々と共に生きるには、どうしたらいいか。あなたの考えを具体的な例を挙げながら800字以内で述べなさい。」（800字 70分）

出典：熊本日日新聞 2023.6.16

熊本学園大・経済・全学科 （2024年）

- ①本文「人口減を前提に社会を作り直そう」要約（200字）
- ②人口減少問題について、課題文の内容をふまえて、あなたの考えを述べなさい（400字 計70分） 出典：日本経済新聞 社説「人口減を前提に社会を作り直そう」 2023.4.27

熊本学園大・商・全学科 （2024年）

本文を読み、キャッシュレス化もしくは金融のデジタル化が日本で普及することについて、そのメリットとデメリットを踏まえつつ、あなたの考えを400字以上500字以内で論じなさい。
（500字 計70分） 出典：日本経済新聞 2023.10.27 岩下直行「現金・銀行預金への信認不変 デジタル金融の実相（上）」

熊本学園大・社会福祉・子ども家庭福祉 （2024年）

本文中に出てくる「掃除のおじさん」の地域における役割について、考えることを400字以上600字以内で述べなさい。（本文要約 200字を含め 計800字 計70分）
出典：藤原辰史「分解の哲学」 清土社 2019

九州ルーテル学院大・人文・臨床心理 （2023年）

「日常生活のやりとりで「すみません」「申し訳ありません」といった謝罪をよく耳にしますが、もっと積極的な言葉で相手に伝えることで、自他ともにより肯定的に生活できるのではないのでしょうか。文章を参考にして、具体例を示しながら、あなたの考えを720字以上800字以内で述べなさい。」（800字 70分）
出典：（論の芽）『すみません』よりも『ありがとう』にしませんか 2022.6.3 朝日新聞

九州ルーテル学院大・人文・人文 （2023年）

「次の文章を読んで、筆者のいう「現代思想」を学ぶことの意義について、身近な例を挙げながら、あなたの意見を720字以上800字以内で述べなさい。」（800字 70分）
出典：『現代思想入門』 千葉雅也

熊本学園大・社会福祉・ライフウェルネス （2023年）

「社会福祉学部では「人間の幸福の実現」や「幸福に暮らせる社会づくり」を目指しています。そして近年、多様性の尊重が社会福祉の領域において重視されています。多様性の例として、性別・年齢・人種などが上げられています。そこで多様性に関する身近な出来事やニュースなどを取り上げ、それについて考えたことを社会福祉に関連付けて述べてください。」
（600字、60分）

同志社大・法・法律 （2023年）

「配付された新聞記事を読み、国会議員をくじ引きで選ぶとすると、メリットとデメリットについてあなたの考えを自由に書きなさい」（1300字、60分）
出典：参議院議員はくじ引きで「多様性のある国会の切り札」政治学者の提案 朝日新聞

熊本医療センター附属看護専門 （2024年・2023年）

「円滑な人間関係を構築するために必要だと思うことを、自分の体験やエピソードを踏まえて800字以内で書きなさい」（60分）（2024年）
「あなたがこれまでの人生の中で、自らを成長させるためにどのようなことに取り組んできたか。取り組みと成果を具体例をあげて800字以内で書きなさい」（60分）（2023年）

《小論文・集団討論のテーマ・キーワード・出題例》

【人文科学系統】

テーマ	出題例	
学び	キーワード	■情報化社会での学び ■実体験と学び ■学びの本質
	高度情報化社会での「じっくり学ぶ大切さ」	
	学びの経験の例と、それが「できるようになる」過程について	
	子どもに有能感を育むために必要な教育とは	
	学ぶ意欲が阻害されることの弊害とは	
個人と社会	キーワード	■青少年の携帯電話（スマートフォン）利用 ■環境問題 ■インターネット社会 ■ワークライフバランス
	青少年の携帯やスマートフォンサイトの利用をどこま規制すべきか	
	環境問題解決のためにできることは？	
	インターネット社会の課題とは？	
	ワークライフバランスを実現するには？	

【社会学系統】

テーマ	出題例	
個人と社会	キーワード	■社会（共同体）の中の個人 ■公（おおやけ）と私 ■地域作り ■コミュニティ ■ボランティア ■ユニバーサルデザイン ■食料自給率 ■格差社会
	個人と社会のあるべきかかわり方とは	
	これからの「公」はだれが担うべきか、どうあるべきか	
	「支え合う社会」とは	
	ボランティアの意味と意義	
	食料自給率を上げるためにできることは？	
労働	キーワード	■働く意義 ■ワーキングプア ■少子化 ■派遣労働者 ■格差社会
	人はなぜ働くのか	
	ワーキングプアの問題について	
	少子化対策をどのように考えるか	
	長時間労働が課題となっている日本の現状	

【法学系統】

テーマ	出題例	
個人と社会	キーワード	■社会（共同体）の中の個人 ■公（おおやけ）と私 ■民主主義 ■裁判員制度 ■自由と責任
	個人と社会のあるべきかかわり方とは	
	これからの「公」はだれが担うべきか、どうあるべきか	
	裁判員制度の是非	
	健全な政党のあり方とは？	
労働	キーワード	■働く意義 ■ワーキングプア ■少子化 ■派遣労働者 ■格差社会
	人はなぜ働くのか	
	ワーキングプアの問題について	
	少子化対策をどのように考えるか	
	長時間労働が課題となっている日本の現状	

【経済・経営・商学系統】

テーマ	出題例	
労働	キーワード	■働く意義 ■AIと雇用 ■雇用と経済 ■フリーター ■シェアリングエコノミー ■格差社会
	人はなぜ働くのか	
	AIなどの科学技術が雇用・労働に及ぼす影響について	
	フリーター対策をどのように考えるか	
	古物・空間・乗り物・お金など、シェアリングエコノミー型サービスの是非について	
	女性の育児と仕事の両立を支援する施策について	
	男性の育児参加を支えるために、企業何をするべきか	
	働き過ぎは人や社会にどのような影響を及ぼすか	

【語学系統】

テーマ	出題例	
コミュニケーション	キーワード	■国際化 ■異文化理解 ■民族紛争 ■寛容さ ■コミュニケーションと言葉
	「国際化」と「他民族（多文化）共生」の実現のために必要なこと	
	異なる政治や文明、社会などを理解するために求められる「寛容さ」とは？	
	「多様な文化を理解し、楽しめるのが人間」という意見についてどう考えるか	
	「うざい」など、コミュニケーションを阻害する言葉についての考察	

【教員養成系・教育学系統】

テーマ	出題例	
学ぶこと	キーワード	■教育者の視点 ■子どもの発達 ■学びの本質 ■学習意欲の向上 ■学校教育のあり方
	「教える教師」と「教えない教師」、どちらが望ましいか	
	考える力をつけさせるための教育は？	
	「知る」「わかる」「さとり」の区別について考えを述べよ	
	「学力がある」とはどういうことか	
	大人の学びで大切なこととは	
	高度情報化社会での「じっくり学ぶ大切さ」	
	学びの経験の例と、それが「できるようになる」過程について	
	子どもに有能感を育むために必要な教育とは	
	SNSの学びへの活用と可能性は？	
	SNSがもたらす学習の弊害と克服について	
	学ぶ意欲が阻害されることの弊害とは	
労働	キーワード	■働く意義 ■育児休業 ■ワークライフバランス ■女性の社会進出と男性の子育て参加 ■雇用システムの転換 ■家事労働の教育的意義
	あなたにとって「働く」とは	
	ワークライフバランスの実現のために必要なこと	
	女性の育児と仕事の両立を支援する施策について	
	男性の育児参加を支えるために、企業何をするべきか	
	家事労働の教育的意義について	

《小論文・集団討論のテーマ・キーワード・出題例》

【農・水産学系統】

テーマ	出題例	
科学・技術と人間	キーワード	■地球温暖化 ■エネルギー問題 ■科学者としての姿勢 ■バイオテクノロジー
	地球温暖化やエネルギー問題解決のために農（水産）学が貢献できることとは	
	科学者に必要な姿勢とは	
	バイオ燃料電池を使う利点とは何か	
	人口増加や食糧危機など、地球規模の問題解決にバイオテクノロジーはどのように役立つか？	

【看護・保健衛生学系統】

テーマ	出題例	
コミュニケーション	キーワード	■共感力 ■患者との向き合い方 ■チーム医療 ■医療・福祉の現場
	共感力の低下の例とあなたの考え	
	絶望の淵にいる患者に対して、どのように対応するか	
	チームで物事を成し遂げるためには、何が重要か？	
	人との関係づくりにおいて必要なコミュニケーションとは？	

【医・歯・薬学系統】

テーマ	出題例	
コミュニケーション	キーワード	■共感力 ■患者との向き合い方 ■チーム医療 ■インフォームドコンセント ■医師と人間性
	ホスピスケアを実践する際に必要なこと	
	医師がコミュニケーション力を磨くことの大切さについて	
	がん告知における問題点について	
	患者と医師の間にある溝を埋めるために医師に求められること	
	人間性のある医師とは？	
科学・技術と人間	キーワード	■科学・技術の発達の功罪 ■生命科学の発達 ■倫理観 ■臓器移植法 ■遺伝子技術
	ゲノム情報の利用のプラスとマイナスについて	
	発展途上国で手料関連のバイオテクノロジーを発展させるには？	
	日本の科学・技術の振興について	
	代理懐胎、冷凍保存した配偶子・胚の使用についての倫理的、法的、社会的問題点とあなたの考え	

【生活科学系統】

テーマ	出題例			
学ぶこと	キーワード	■保育者の視点	■子どもの発達	■親子関係
		■生涯学習		
		「子どもに関心を持って見守る」ことの大切さとは？		
		子どもの発達と「喜怒哀楽」の環状を大人はどう捉えるか		
		生涯学び続けられる環境とは		
		「学力がある」とはどういうことか		

【理・工学、総合科学系統】

テーマ	出題例			
科学・技術と人間	キーワード	■科学・技術の発達の功罪	■イノベーション	
		■倫理観	■サイエンス・リテラシー	
		科学・技術が人間の社会にもたらした恩恵と負の遺産について。		
		科学・技術が人間の社会にもたらした負の遺産をなくすために、理学（工学）をどう役立てたいか。		
		社会の発展のために、どのような技術を発展させていくべきか		
		科学者に求められる感性（センス）とは		
		人々はどの程度、サイエンス・リテラシーを身につけるべきか		

【小論文テーマ 事前調査】 志望校の過去の出題テーマとキーワードなどを調べよう
（出題例やキーワードから、課題研究テーマを関連させても良い）

【系統： 】

テーマ	出題年・日程	出題例（課題文・著者・出典など）

【キーワード】

SDGs（持続可能な開発目標）とは

～ Sustainable Development Goals ～

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。

持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っている。

SDGs 17の目標と169のターゲット

1. 貧困をなくそう / NO POVERTY



目標1

あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

- 1.1 2030年までに、現在1日 1.25ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる。
- 1.2 2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、すべての年齢の男性、女性、子どもの割合を半減させる。
- 1.3 各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。
- 1.4 2030年までに、貧困層及び脆弱層をはじめ、すべての男性及び女性が、基礎的サービスへのアクセス、土地及びその他の形態の財産に対する所有権と管理権限、相続財産、天然資源、適切な新技術、マイクロファイナンスを含む金融サービスに加え、経済的資源についても平等な権利を持つことができるように確保する。
- 1.5 2030年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々の強靱性（レジリエンス）を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する。
- 1.a あらゆる次元での貧困を終わらせるための計画や政策を実施するべく、後発開発途上国をはじめとする開発途上国に対して適切かつ予測可能な手段を講じるため、開発協力の強化などを通じて、さまざまな供給源からの相当量の資源の動員を確保する。
- 1.b 貧困撲滅のための行動への投資拡大を支援するため、国、地域及び国際レベルで、貧困層やジェンダーに配慮した開発戦略に基づいた適正な政策的枠組みを構築する。

2. 飢餓をゼロに / ZERO HUNGER



目標2

飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

- 2.1 2030年までに、飢餓を撲滅し、すべての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。
- 2.2 5歳未満の子どもの発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど、2030年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対処を行う。
- 2.3 2030年までに、土地、その他の生産資源や、投入財、知識、金融サービス、市場及び高付加価値化や非農業雇用の機会への確実かつ平等なアクセスの確保などを通じて、女性、先住民、家族農家、牧畜民及び漁業者をはじめとする小規模食料生産者の農業生産性及び所得を倍増させる。
- 2.4 2030年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、強靱（レジリエント）な農業を実践する。
- 2.5 2020年までに、国、地域及び国際レベルで適正に管理及び多様化された種子・植物バンクなども通じて、種子、栽培植物、飼育・家畜化された動物及びこれらの近縁野生種の遺伝的多様性を維持し、国際的合意に基づき、遺伝資源及びこれに関連する伝統的な知識へのアクセス及びその利用から生じる利益の公正かつ衡平な配分を促進する。
- 2.a 開発途上国、特に後発開発途上国における農業生産能力向上のために、国際協力の強化などを通じて、農村インフラ、農業研究・普及サービス、技術開発及び植物・家畜の遺伝・バンクへの投資の拡大を図る。
- 2.b ドーハ開発ラウンドの決議に従い、すべての形態の農産物輸出補助金及び同等の効果を持つすべての輸出措置の並行的撤廃などを通じて、世界の農産物市場における貿易制限や歪みを是正及び防止する。
- 2.c 食料価格の極端な変動に歯止めをかけるため、食料市場及びデリバティブ市場の適正な機能を確保するための措置を講じ、食料備蓄などの市場情報への適時のアクセスを容易にする。

3. すべての人に健康と福祉を / GOOD HEALTH AND WELL-BEING



目標3

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

- 3.1 2030年までに、世界の妊産婦の死亡率を出生10万人当たり70人未満に削減する。
- 3.2 すべての国が新生児死亡率を少なくとも出生1,000件中12件以下まで減らし、5歳以下死亡率を少なくとも出生1,000件中25件以下まで減らすことを目指し、2030年までに、新生児及び5歳未満児の予防可能な死亡を根絶する。
- 3.3 2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。
- 3.4 2030年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。
- 3.5 薬物乱用やアルコールの有害な摂取を含む、物質乱用の防止・治療を強化する。
- 3.6 2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。
- 3.7 2030年までに、家族計画、情報・教育及び性と生殖に関する健康の国家戦略・計画への組み入れを含む、性と生殖に関する保健サービスをすべての人々が利用できるようにする。
- 3.8 すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)を達成する。
- 3.9 2030年までに、有害化学物質、ならびに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。
- 3.a すべての国々において、たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約の実施を適宜強化する。
- 3.b 主に開発途上国に影響を及ぼす感染性及び非感染性疾患のワクチン及び医薬品の研究開発を支援する。また、知的所有権の貿易関連の側面に関する協定(TRIPS 協定) 及び公衆の健康に関するドーハ宣言に従い、安価な必須医薬品及びワクチンへのアクセスを提供する。同宣言は公衆衛生保護及び、特にすべての人々への医薬品のアクセス提供にかかわる「知的所有権の貿易関連の側面に関する協定(TRIPS 協定)」の柔軟性に関する規定を最大限に行使する開発途上国の権利を確約したもの

である。

- 3.c 開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国において保健財政及び保健人材の採用、能力開発・訓練及び定着を大幅に拡大させる。
- 3.d すべての国々、特に開発途上国の国家・世界規模な健康危険因子の早期警告、危険因子緩和及び危険因子管理のための能力を強化する。

4. 質の高い教育をみんなに / QUALITY EDUCATION



目標4

すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

- 4.1 2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。
- 4.2 2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。
- 4.3 2030年までに、すべての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。
- 4.4 2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
- 4.5 2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。
- 4.6 2030年までに、すべての若者及び大多数(男女ともに)の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする。
- 4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
- 4.a 子ども、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、

包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。

- 4.b 2020年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、ならびにアフリカ諸国を対象とした、職業訓練、情報通信技術(ICT)、技術・工学・科学プログラムなど、先進国及びその他の開発途上国における高等教育の奨学金の件数を全世界で大幅に増加させる。
- 4.c 2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。

5. ジェンダー平等を実現しよう / GENDER EQUALITY



ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

- 5.1 あらゆる場所におけるすべての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。
- 5.2 人身売買や性的、その他の種類の搾取など、すべての女性及び女児に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する。
- 5.3 未成年者の結婚、早期結婚、強制結婚及び女性器切除など、あらゆる有害な慣行を撤廃する。
- 5.4 公共のサービス、インフラ及び社会保障政策の提供、ならびに各国の状況に応じた世帯・家族内における責任分担を通じて、無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価する。
- 5.5 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。
- 5.6 国際人口・開発会議(ICPD)の行動計画及び北京行動綱領、ならびにこれらの検証会議の成果文書に従い、性と生殖に関する健康及び権利への普遍的アクセスを確保する。
- 5.a 女性に対し、経済的資源に対する同等の権利、ならびに各国法に従い、オーナーシップ及び土地その他の財産、金融サービス、相続財産、天然資源に対するアクセスを与えるための改革に着手する。
- 5.b 女性の能力強化促進のため、ICTをはじめとする実現技術の活用を強化する。
- 5.c ジェンダー平等の促進、ならびにすべての女性及び女子のあらゆるレベルでの能力強化のための適正な政策及び拘束力のある法規を導入・強化する。

6. 安全な水とトイレを世界中に / CLEAN WATER AND SANITATION



目標6

すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

- 6.1 2030年までに、すべての人々の、安全で安価な飲料水の普遍的かつ衡平なアクセスを達成する。
- 6.2 2030年までに、すべての人々の、適切かつ平等な下水施設・衛生施設へのアクセスを達成し、野外での排泄をなくす。女性及び女児、ならびに脆弱な立場にある人々のニーズに特に注意を払う。
- 6.3 2030年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。
- 6.4 2030年までに、全セクターにおいて水利用の効率を大幅に改善し、淡水の持続可能な採取及び供給を確保し水不足に対処するとともに、水不足に悩む人々の数を大幅に減少させる。
- 6.5 2030年までに、国境を越えた適切な協力を含む、あらゆるレベルでの統合水資源管理を実施する。
- 6.6 2020年までに、山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。
- 6.a 2030年までに、集水、海水淡水化、水の効率的利用、排水処理、リサイクル・再利用技術を含む開発途上国における水と衛生分野での活動と計画を対象とした国際協力と能力構築支援を拡大する。
- 6.b 水と衛生の管理向上における地域コミュニティの参加を支援・強化する。

7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに / AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY



目標7

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

- 7.1 2030年までに、安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する。

- 7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
- 7.3 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。
- 7.a 2030年までに、再生可能エネルギー、エネルギー効率及び先進的かつ環境負荷の低い化石燃料技術などのクリーンエネルギーの研究及び技術へのアクセスを促進するための国際協力を強化し、エネルギー関連インフラとクリーンエネルギー技術への投資を促進する。
- 7.b 2030年までに、各々の支援プログラムに沿って開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、内陸開発途上国のすべての人々に現代的で持続可能なエネルギーサービスを提供できるよう、インフラ拡大と技術向上を行う。

8. 働きがいも経済成長も

/ DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH



目標8

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する

- 8.1 各国の状況に応じて、一人当たり経済成長率を持続させる。特に後発開発途上国は少なくとも年率7%の成長率を保つ。
- 8.2 高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。
- 8.3 生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性及びイノベーションを支援する開発重視型の政策を促進するとともに、金融サービスへのアクセス改善などを通じて中小零細企業の設立や成長を奨励する。
- 8.4 2030年までに、世界の消費と生産における資源効率を漸進的に改善させ、先進国主導の下、持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組みに従い、経済成長と環境悪化の分断を図る。
- 8.5 2030年までに、若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一労働同一賃金を達成する。
- 8.6 2020年までに、就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。
- 8.7 強制労働を根絶し、現代の奴隷制、人身売買を終らせるための緊急かつ効果的な措置の実施、最悪な形態の児童労働の禁止及び撲滅を確保する。2025年までに児童兵士の募集と使用を含むあらゆる形態の児童労働を撲滅する。
- 8.8 移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、すべての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。
- 8.9 2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。
- 8.10 国内の金融機関の能力を強化し、すべての人々の銀行取引、保険及び金融サービスへのアクセスを促進・拡大する。
- 8.a 後発開発途上国への貿易関連技術支援のための拡大統合フレームワーク(EIF)などを通じた支援を含む、開発途上国、特に後発開発途上国に対する貿易のための援助を拡大する。
- 8.b 2020年までに、若年雇用のための世界的戦略及び国際労働機関(ILO)の仕事に関する世界協定の実施を展開・運用化する。

9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

/ INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE



目標9

強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

- 9.1 すべての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱(レジリエント)なインフラを開発する。
- 9.2 包摂的かつ持続可能な産業化を促進し、2030年までに各国の状況に応じて雇用及びGDPに占める産業セクターの割合を大幅に増加させる。後発開発途上国については同割合を倍増させる。
- 9.3 特に開発途上国における小規模の製造業その他の企業の、安価な資金貸付などの金融サービスやバリューチェーン及び市場への統合へのアクセスを拡大する。
- 9.4 2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。すべての国々は各国の能力に応じた取組を行う。
- 9.5 2030年までにイノベーションを促進させることや10

0万人当たりの研究開発従事者数を大幅に増加させ、また官民研究開発の支出を拡大させるなど、開発途上国をはじめとするすべての国々の産業セクターにおける科学研究を促進し、技術能力を向上させる。

- 9.a アフリカ諸国、後発開発途上国、内陸開発途上国及び小島嶼開発途上国への金融・テクノロジー・技術の支援強化を通じて、開発途上国における持続可能かつ強靱（レジリエント）なインフラ開発を促進する。
- 9.b 産業の多様化や商品への付加価値創造などに資する政策環境の確保などを通じて、開発途上国の国内における技術開発、研究及びイノベーションを支援する。
- 9.c 後発開発途上国において情報通信技術へのアクセスを大幅に向上させ、2020年までに普遍的かつ安価なインターネット・アクセスを提供できるよう図る。

10. 人や国の不平等をなくそう / REDUCED INEQUALITIES



目標10

各国内及び各国間の不平等を是正する

- 10.1 2030年までに、各国の所得下位40%の所得成長率について、国内平均を上回る数値を漸進的に達成し、持続させる。
- 10.2 2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。
- 10.3 差別的な法律、政策及び慣行の撤廃、ならびに適切な関連法規、政策、行動の促進などを通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正する。
- 10.4 税制、賃金、社会保障政策をはじめとする政策を導入し、平等の拡大を漸進的に達成する。
- 10.5 世界金融市場と金融機関に対する規制とモニタリングを改善し、こうした規制の実施を強化する。
- 10.6 地球規模の国際経済・金融制度の意思決定における開発途上国の参加や発言力を拡大させることにより、より効果的で信用力があり、説明責任のある正当な制度を実現する。
- 10.7 計画に基づき良く管理された移民政策の実施などを通じて、秩序のとれた、安全で規則的かつ責

任ある移住や流動性を促進する。

- 10.a 世界貿易機関（WTO）協定に従い、開発途上国、特に後発開発途上国に対する特別かつ異なる待遇の原則を実施する。
- 10.b 各国の国家計画やプログラムに従って、後発開発途上国、アフリカ諸国、小島嶼開発途上国及び内陸開発途上国を始めとする、ニーズが最も大きい国々への、政府開発援助（ODA）及び海外直接投資を含む資金の流入を促進する。
- 10.c 2030年までに、移住労働者による送金コストを3%未満に引き下げ、コストが5%を越える送金経路を撤廃する。

11. 住み続けられるまちづくりを / SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES



目標11

包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

- 11.1 2030年までに、すべての人々の、適切、安全かつ安価な住宅及び基本的サービスへのアクセスを確保し、スラムを改善する。
- 11.2 2030年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子ども、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、すべての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。
- 11.3 2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。
- 11.4 世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。
- 11.5 2030年までに、貧困層及び脆弱な立場にある人々の保護に焦点をあてながら、水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。
- 11.6 2030年までに、大気質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。
- 11.7 2030年までに、女性、子ども、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供す

る。

- 11.a 各国・地域規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、都市周辺部及び農村部間の良好なつながりを支援する。
- 11.b 2020年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靭さ(レジリエンス)を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組2015-2030に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。
- 11.c 財政的及び技術的な支援などを通じて、後発開発途上国における現地の資材を用いた、持続可能かつ強靭(レジリエント)な建造物の整備を支援する。

12. つくる責任 つかう責任

/ RESPONSIBLE PRODUCTION AND CONSUMPTION



目標12

持続可能な生産消費形態を確保する

- 12.1 開発途上国の開発状況や能力を勘案しつつ、持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組み(10YFP)を実施し、先進国主導の下、すべての国々が対策を講じる。
- 12.2 2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。
- 12.3 2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。
- 12.4 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質やすべての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。
- 12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
- 12.6 特に大企業や多国籍企業などの企業に対し、持続可能な取り組みを導入し、持続可能性に関する情報を定期報告に盛り込むよう奨励する。
- 12.7 国内の政策や優先事項に従って持続可能な公共調達の慣行を促進する。

12.8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。

- 12.a 開発途上国に対し、より持続可能な消費・生産形態の促進のための科学的・技術的能力の強化を支援する。
- 12.b 雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業に対して持続可能な開発がもたらす影響を測定する手法を開発・導入する。
- 12.c 開発途上国の特別なニーズや状況を十分考慮し、貧困層やコミュニティを保護する形で開発に関する悪影響を最小限に留めつつ、税制改正や、有害な補助金が存在する場合はその環境への影響を考慮してその段階的廃止などを通じ、各国の状況に応じて、市場のひずみを除去することで、浪費的な消費を奨励する、化石燃料に対する非効率な補助金を合理化する。

13. 気候変動に具体的な対策を

/ CLIMATE ACTION



目標13

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

* 国連気候変動枠組条約（UNFCCC）が、気候変動への世界的対応について交渉を行う基本的な国際的、政府間対話の場であると認識している。

- 13.1 すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靭性(レジリエンス)及び適応の能力を強化する。
- 13.2 気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。
- 13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。
- 13.a 重要な緩和行動の実施とその実施における透明性確保に関する開発途上国のニーズに対応するため、2020年までにあらゆる供給源から年間1,000億ドルを共同で動員するという、UNFCCCの先進締約国によるコミットメントを実施するとともに、可能な限り速やかに資本を投入して緑の気候基金を本格始動させる。
- 13.b 後発開発途上国及び小島嶼開発途上国において、女性や青年、地方及び社会的に疎外されたコミュニティに焦点を当てることを含め、気候変動関

連の効果的な計画策定と管理のための能力を向上するメカニズムを推進する。

14. 海の豊かさを守ろう / LIFE BELOW WATER



目標14

持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

- 14.1 2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。
- 14.2 2020年までに、海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため、強靱性(レジリエンス)の強化などによる持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。
- 14.3 あらゆるレベルでの科学的協力の促進などを通じて、海洋酸性化の影響を最小限化し、対処する。
- 14.4 水産資源を、実現可能な最短期間で少なくとも各資源の生物学的特性によって定められる最大持続生産量のレベルまで回復させるため、2020年までに、漁獲を効果的に規制し、過剰漁業や違法・無報告・無規制(IUU)漁業及び破壊的な漁業慣行を終了し、科学的な管理計画を実施する。
- 14.5 2020年までに、国内法及び国際法に則り、最大限入手可能な科学情報に基づいて、少なくとも沿岸域及び海域の10パーセントを保全する。
- 1.6 開発途上国及び後開発途上国に対する適切かつ効果的な、特別かつ異なる待遇が、世界貿易機関(WTO)漁業補助金交渉の不可分の要素であるべきことを認識した上で、2020年までに、過剰漁獲能力や過剰漁獲につながる漁業補助金を禁止し、違法・無報告・無規制(IUU)漁業につながる補助金を撤廃し、同様の新たな補助金の導入を抑制する²。

注釈2 現在進行中の世界貿易機関(WTO)交渉およびWTOドーハ開発アジェンダ、ならびに香港閣僚宣言のマネットを考慮。

- 14.7 2030年までに、漁業、水産養殖及び観光の持続可能な管理などを通じ、小島嶼開発途上国及び後開発途上国の海洋資源の持続的な利用による経済的便益を増大させる。
- 14.a 海洋の健全性の改善と、開発途上国、特に小島

嶼開発途上国および後開発途上国の開発における海洋生物多様性の寄与向上のために、海洋技術の移転に関するユネスコ政府間海洋学委員会の基準・ガイドラインを勘案しつつ、科学的知識の増進、研究能力の向上、及び海洋技術の移転を行う。

- 14.b 小規模・沿岸零細漁業者に対し、海洋資源及び市場へのアクセスを提供する。
- 14.c 「我々の求める未来」のパラ158において想起されたとおり、海洋及び海洋資源の保全及び持続可能な利用のための法的枠組みを規定する海洋法に関する国際連合条約(UNCLOS)に反映されている国際法を実施することにより、海洋及び海洋資源の保全及び持続可能な利用を強化する。

15. 陸の豊かさを守ろう / LIFE ON LAND



目標15

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

- 15.1 2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。
- 15.2 2020年までに、あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少を阻止し、劣化した森林を回復し、世界全体で新規植林及び再植林を大幅に増加させる。
- 15.3 2030年までに、砂漠化に対処し、砂漠化、干ばつ及び洪水の影響を受けた土地などの劣化した土地と土壌を回復し、土地劣化に荷担しない世界の達成に尽力する。
- 15.4 2030年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実に行う。
- 15.5 自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を阻止し、2020年までに絶滅危惧種を保護し、また絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる。
- 15.6 国際合意に基づき、遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分を推進するとともに、遺伝資源への適切なアクセスを推進する。
- 15.7 保護の対象となっている動植物種の密猟及び違法取引を撲滅するための緊急対策を講じるとともに、違法な野生生物製品の需要と供給の両面に

対処する。

- 15.8 2020年までに、外来種の侵入を防止するとともに、これらの種による陸域・海洋生態系への影響を大幅に減少させるための対策を導入し、さらに優先種の駆除または根絶を行う。
- 15.9 2020年までに、生態系と生物多様性の価値を、国や地方の計画策定、開発プロセス及び貧困削減のための戦略及び会計に組み込む。
- 15.a 生物多様性と生態系の保全と持続的な利用のために、あらゆる資金源からの資金の動員及び大幅な増額を行う。
- 15.b 保全や再植林を含む持続可能な森林経営を推進するため、あらゆるレベルのあらゆる供給源から、持続可能な森林経営のための資金の調達と開発途上国への十分なインセンティブ付与のための相当量の資源を動員する。
- 15.c 持続的な生計機会を追求するために地域コミュニティの能力向上を図る等、保護種の密猟及び違法な取引に対処するための努力に対する世界的な支援を強化する。

16. 平和と公正をすべての人に / PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS



目標16

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

- 16.1 あらゆる場所において、すべての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。
- 16.2 子どもに対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅する。
- 16.3 国家及び国際的なレベルでの法の支配を促進し、すべての人々に司法への平等なアクセスを提供する。
- 16.4 2030年までに、違法な資金及び武器の取引を大幅に減少させ、奪われた財産の回復及び返還を強化し、あらゆる形態の組織犯罪を根絶する。
- 16.5 あらゆる形態の汚職や贈賄を大幅に減少させる。
- 16.6 あらゆるレベルにおいて、有効で説明責任のある透明性の高い公共機関を発展させる。
- 16.7 あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を確保する。
- 16.8 グローバル・ガバナンス機関への開発途上国の参加を拡大・強化する。

- 16.9 2030年までに、すべての人々に出生登録を含む法的な身分証明を提供する。
- 16.10 国内法規及び国際協定に従い、情報への公共アクセスを確保し、基本的自由を保障する。
- 16.a 特に開発途上国において、暴力の防止とテロリズム・犯罪の撲滅に関するあらゆるレベルでの能力構築のため、国際協力などを通じて関連国家機関を強化する。
- 16.b 持続可能な開発のための非差別的な法規及び政策を推進し、実施する。

17. パートナリーシップで目標を達成しよう / PARTNERSHIPS FOR THE GOALS



目標17

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

資金

- 17.1 課税及び徴税能力の向上のため、開発途上国への国際的な支援なども通じて、国内資源の動員を強化する。
- 17.2 先進国は、開発途上国に対するODAをGNI比0.7%に、後発開発途上国に対するODAをGNI比0.15~0.20%にするという目標を達成すると多くの国によるコミットメントを含むODAに係るコミットメントを完全実施する。ODA供与国が、少なくともGNI比0.20%のODAを後発開発途上国に供与するという目標の設定を検討することを奨励する。
- 17.3 複数の財源から、開発途上国のための追加的資金源を動員する。
- 17.4 必要に応じた負債による資金調達、債務救済及び債務再編の促進を目的とした協調的な政策により、開発途上国の長期的な債務の持続可能性の実現を支援し、重債務貧困国(HIPC)の対外債務への対応により債務リスクを軽減する。
- 17.5 後発開発途上国のための投資促進枠組みを導入及び実施する。

技術【軍科協、国地環境、国地総:全般】

- 17.6 科学技術イノベーション(STI)及びこれらへのアクセスに関する南北協力、南南協力及び地域的・国際的な三角協力を向上させる。また、国連レベルをはじめとする既存のメカニズム間の調整改善や、全世界的な技術促進メカニズムなどを通じて、相互に合意した条件において知識共有を進める。
- 17.7 開発途上国に対し、譲許的・特惠的条件などの

相互に合意した有利な条件の下で、環境に配慮した技術の開発、移転、普及及び拡散を促進する。

- ・17.8 2017年までに、後発開発途上国のための技術バンク及び科学技術イノベーション能力構築メカニズムを完全運用させ、情報通信技術（ICT）をはじめとする実現技術の利用を強化する。

能力構築【国協企、国協総】

- ・17.9 すべての持続可能な開発目標を実施するための国家計画を支援するべく、南北協力、南南協力及び三角協力などを通じて、開発途上国における効果的かつ的をのぼった能力構築の実施に対する国際的な支援を強化する。

貿易【経国貿】

- ・17.10 ドーハ・ラウンド（DDA）交渉の結果を含めたWTOの下での普遍的でルールに基づいた、差別的でない、公平な多角的貿易体制を促進する。
- ・17.11 開発途上国による輸出を大幅に増加させ、特に2020年までに世界の輸出に占める後発開発途上国のシェアを倍増させる。
- ・17.12 後発開発途上国からの輸入に対する特惠的な原産地規則が透明で簡略的かつ市場アクセスの円滑化に寄与するものとなるようにすることを含む世界貿易機関（WTO）の決定に矛盾しない形で、すべての後発開発途上国に対し、永続的な無税・無枠の市場アクセスを適時実施する。

体制面【国地総】

政策・制度的整合性

- ・17.13 政策協調や政策の首尾一貫性などを通じて、世界的なマクロ経済の安定を促進する。
- ・17.14 持続可能な開発のための政策の一貫性を強化する。
- ・17.15 貧困撲滅と持続可能な開発のための政策の確立・実施にあたっては、各国の政策空間及びリーダーシップを尊重する。

マルチステークホルダー・パートナーシップ

- ・17.16 すべての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。
- ・17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

データ、モニタリング、説明責任

- ・17.18 2020年までに、後発開発途上国及び小島嶼開

発途上国を含む開発途上国に対する能力構築支援を強化し、所得、性別、年齢、人種、民族、居住資格、障害、地理的位置及びその他各国事情に関連する特性別の質が高く、タイムリーかつ信頼性のある非集計型データの入手可能性を向上させる。

- ・17.19 2030年までに、持続可能な開発の進捗状況を測るGDP以外の尺度を開発する既存の取組を更に前進させ、開発途上国における統計に関する能力構築を支援する。



“我々は、貧困を終わらせることに成功する最初の世代になり得る。同様に、地球を救う機会を持つ最後の世代になるかもしれない。”

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」より抜粋

GS課題研究テーマ一覧（1）

- ※ 発表：各年度で研究成果発表会又は外部の各種発表会で代表として発表した班のテーマ
- ※ ポスターは全て、スライド（パワポ）は○の発表がGoogle Classroom で見ることができます

【a 文化・芸術・哲学・倫理・スポーツ】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	島津の家紋はキリスト教と関係があるか		
	日本人はオリンピックで金メダルをとれるか？ ～江戸期の飛脚の身体能力～		
平成31(2019)年度	宇土と細川家について		
	速く走るには？～長距離編～		
令和2(2020)年度	日本人の国民性		
令和3(2021)年度	潜伏キリシタン信仰の歩み ～270年の時を越えて～		○
	桶狭間の戦いについて	○	○
	アイヌ文化の振興と継承		
	コロナ禍におけるスポーツの役割		
	熊本をスポーツで活性化 ～熊本の新たなスポーツツーリズム～		
令和4(2022)年度	B29の墜落について村人は何を感じたのか		
	多様性の考え方の違い		
	外国と日本の演劇教育に対する考えの違い		
	衣服のリサイクル		
	オリンピックにおける人種差別		
	スポーツのルールの歴史について		
令和5(2023)年度	MISSION：九州における隠れキリシタンの真相を暴け！ ～竹田における密輸の真実を突き止めろ～	○	
	熊本方言の相違性		

【b. 人権】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	L G B Tはなぜ社会的に認められないのか		
	地域ぐるみの支援（児童虐待）		
	児童虐待の現状改善にむけて		
	虐待の心理（児童虐待）		
	日本の虐待の傾向と現状		
平成31(2019)年度	同性婚の合法化		
	虐待のない社会をつくるために		
	職場における男女平等		
	L G B Tと教育		
令和2(2020)年度	よりよいパスポートにするには		○
	黒人差別の実態		
令和3(2021)年度	LGBTQ+ ～多様性を尊重する社会をつくる～		
	児童虐待に対する施設の対応と現状		
令和4(2022)年度	熊本市のパートナーシップ制度について		
	性のあり方と多様性 ～若者から性の形を捉え直す～		
令和5(2023)年度	いじめる側の心理		

GS課題研究テーマ一覧（2）

【c. 貧困・食糧不足】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	発展途上国の貧困の現状とそれに対する支援について		
	私たちが考えた支援（世界の貧困の現状）		
	アフリカの現状とより良くするための改善策		
	孤食化（日本の「目に見えない貧困」の背景）		
平成31(2019)年度	貧困率の増加の原因と取り組み		
	日本の貧困の現状と解決策の提案		
令和2(2020)年度	音楽教育で貧困国を救う		
	「RUTF」はアフリカの飢餓を救えるのか		
令和3(2021)年度	子どもの貧困		
	フードバンクを取り巻く三つの課題		○
令和4(2022)年度	（該当なし）		
令和5(2023)年度	（該当なし）		

【d. 地域社会】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	これまでとこれからの少子高齢化対策		
	災害の意識改革		
	三角町の活性化		
平成31(2019)年度	方言の衰退 ～松橋方言の今～		
	大矢野の発展のために		
	宇土の防災都市計画		
	地元が輝くために ～宇土市への提案～	○	
令和2(2020)年度	上天草市の人口減少		
	今ある公園を防災公園として活用するには		○
	網田町を活性化		
令和3(2021)年度	熊本地震を生かして私たちに出来る今後の対策・対応		
	熊本の特徴を使って観光客を惹きつける		
令和4(2022)年度	へき地医療		
	こども園の現状と改善策		
令和5(2023)年度	災害に屈しない街を創るために		
	天草大革命 ーいざ秘境へー		

【e. 教育】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	認可保育園と無認可保育園		
	日本と世界の保育事情		
	「昔」と「今」のいじめの違いとそれに対する対応		
	日本を変える教育法		
平成31(2019)年度	認可と認可外の違いと無償化		
	待機児童の現状と減らすための対策	○	
	今のいじめに対する対応策 ～未来ある子供たちを守るために～		
	いじめの様々な形態と環境との因果関係		
	小・中学生のコミュニケーション能力の低下について		
	外国人児童生徒についての教育		

GS課題研究テーマ一覧（3）

【e. 教育】

年度	テーマ	発表	スライド
令和2(2020)年度	保育士の保育業務の負担軽減		○
	幼児と電子機器		○
	世界の教育格差から考える身近な教育格差		
令和3(2021)年度	子供が習い事をする必要性		○
	コロナ禍前とコロナ禍における10代におけるスマホによる影響		
	コロナ禍でのICT活用による教育格差		
令和3(2021)年度	いじめ問題 ～いじめの定義について～		
	「不登校」に対する考え方 ～日本と外国の違い～		○
令和4(2022)年度	スマホ脳が教育に与える影響	○	○
	スマホと学力の関係		
	ICT教育におけるデメリットの改善		
	今の教育環境の現状を改善するためには		
令和5(2023)年度	保育士の業務を軽減するために		
	スマホ脳が人に与える影響について		
	地域と行う学校づくり～宇土高校生と地域のつながりを強くするために～		
	学校職員を人気職にするには		

【f. 医療・衛生・福祉】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	社会保障サービスの格差について		
	私たち高校生から見た、バリアフリーの現状について		
	死から大切な人を守るには		
平成31(2019)年度	介護の現状と若者の意識		
	私たち高校生にもできるボランティアとは何か		
	バリアフリー ～今私たちができること～		
	受動喫煙による二次被害を防ぐために		○
	生活習慣の見直し～将来のために今できること～		
令和2(2020)年度	介護者問題		
	元気な高齢者を増加させる取り組み		
	ピクトグラムについて		
	うつ病と自殺		
令和3(2021)年度	救急車の正しい使い方		
	バリアフリーの重要性と必要な場所の探求		
	高齢者の在宅医療 ～現在状況～		
	うつ ～原因と対策～		
	糖尿病とその先の危険性		
令和4(2022)年度	日本のホスピスケアと現代医療の関係性について		
	世界各国と日本の社会保障の違い		
	宇土高校をUD化！！～誰でも使える学校へ～		
	せん妄との付き合い方		
	日本と世界の肥満政策の違いと対策		
	未成年の飲酒・喫煙について		
令和5(2023)年度	十代の医療に対する意識と地元医療の活性化		

GS課題研究テーマ一覧（4）

【g. 政治】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	国民と政治の距離は！？		○
	税率と政策		
平成31(2019)年度	安倍政権長期化のなぜ？		○
	日本の歳出について		
令和2(2020)年度	尖閣諸島から考える領土問題		
令和3(2021)年度	今後の日本の財政を安定させるためには		○
	情報氾濫社会を生きるマスメディア ～未成年者の実名報道の在り方～		
令和4(2022)年度	(該当なし)		
令和5(2023)年度	(該当なし)		

【h. 農林水産業・食料】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	熊本県の農業の現状と課題について		○
平成31(2019)年度	有明海苔の育ちやすい環境		
	食料自給率37%は悪いのか？		○
令和2(2020)年度	美味しいお弁当を作る～健康増進の方法～		○
	熊本版フードアクション		
令和3(2021)年度	最先端の仕事 ～農業とAI～		
令和4(2022)年度	食品ロスをなくすために		
令和5(2023)年度	デコボンの皮からリモネンへ		
	SUMIYOSHIの海苔を世界へ	○	
	農業を活性化するための提案		
	野菜の苦手克服を目指して		

【i. 人口】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	今の日本がすべきこと ～日本の少子化の現状と対策～		
平成31(2019)年度	宇土市の子育て支援策とその認知度	○	○
令和2(2020)年度	(該当なし)		
令和3(2021)年度	(該当なし)		
令和4(2022)年度	(該当なし)		
令和5(2023)年度	(該当なし)		

【k. 労働】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	長時間労働の対策		
	過労死の原因と対策		
平成31(2019)年度	労働における課題と対策		
	過労死について		
令和2(2020)年度	労働環境に関して		○
	社内保育所は有効か		○
令和3(2021)年度	働き方改革における社会の変化		
令和4(2022)年度	(該当なし)		
令和5(2023)年度	今、私たちが求める働き方とは		
	宇土高校労働改革案		

GS課題研究テーマ一覧（5）

【L. 経済・ビジネス】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	宇城市の観光発展 ～三角町のインスタ映え～	○	
平成31(2019)年度	天草に観光客を呼び込むには		
	ONE PIECEで熊本を活性化	○	○
令和2(2020)年度	熊本の観光客を増やすには		
	熊本県のコロナ感染症発生後の経済		
	「BEACH」を救う起死回生のメソッド	○	○
	コロナに負けない観光改善策		○
令和3(2021)年度	コロナ禍の飲食業界で生き残るためには		
	コロナ禍での企業の所得の変化と経済状況		
	SNSを用いた効果的なマーケティング手法 ～利潤を最大化する最強マーケティング～	○	○
令和4(2022)年度	所得格差の現状		
令和5(2023)年度	(該当なし)		

【m. 国際関係】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	過去のテロから考える未来		
	シェア「北」する ～日露 Win-Win 計画～		
	平等な貿易を求めて		
平成31(2019)年度	どこからテロなのか		
	竹島と北方領土の問題と日本がとるべき行動		○
	発展途上国における就職と貧困について		
令和2(2020)年度	アフリカのテロ		○
	シェラレオネに必要な支援		
	私たちにできる国際貢献		
	見えない領土問題	○	○
令和3(2021)年度	宗教戦争の2つの原因		
	世界の水問題について		
	SDGsについて		
	多文化共生社会の実現	○	○
	ロシアのウクライナ侵攻		○
令和4(2022)年度	中国脅威論と日本の安全保障 ～国民の国防意識と日本の取るべき行動とは～	○	○
令和5(2023)年度	竹島の領土問題について		

【n. 安全保障】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	犯罪 0.0 の町づくり	○	○
	日本の平和につながる自衛隊拡大		
平成31(2019)年度	インターネット上で起こりうる問題行為を防ぐ		
令和2(2020)年度	集団的自衛権と自衛隊		○
	ネットトラブルを防ぐためにはどう行動すべきなのだろうか？		
令和3(2021)年度	自衛隊の国際貢献		
令和4(2022)年度	(該当なし)		
令和5(2023)年度	(該当なし)		

GS課題研究テーマ一覧（6）

【p. 環境・生態系】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	熊本方式を全国へ ～熊本県が殺処分ゼロの理由～		
	外来生物問題の解決が進まないわけ		
平成31(2019)年度	夏のじめじめした空気の原因		
	殺処分ゼロに向けての熊本の取り組み		○
	法律改正によるクリハラリスの個体数の変化		
令和2(2020)年度	ポイ捨てについて		
	熊本県の保護犬・保護猫を減らすために		
	宇土高校周辺の外来植物とその対策について		○
	地球温暖化と海面上昇について		
	外来生物問題を解決するためには		
令和3(2021)年度	プラごみ削減計画 ～スーパーから過剰包装を減らす～		○
	国と熱帯雨林の関係性		
	なぜ今になって外来生物が問題になっているのか？		
	鯉やブラックバスが環境に及ぼす影響		
	日本の殺処分について		
	犬猫の殺処분을減らすために		
令和4(2022)年度	水をきれいにして命を救おう！		
	身近な家電と地球温暖化		
	外来種が与える影響とその解決策		
	宇土高校に外来生物は生息しているのか？		
	犬猫の殺処分の現状 ～殺処分数をゼロにするためには～		
	コロナウイルスの影響による犬・猫の殺処分の変化と飼育放棄を減らすためには		
	動物と共生するためにできること		
令和5(2023)年度	ペットボトルが及ぼす有明海への影響		
	立岡池をきれいにしたい		
	動物の蘇生方法		
	住吉海苔		
	外来種による水田への影響		
	アメリカザリガニの効率よい減らし方		
	遊休農地の活用		
	海洋ゴミを減らすには ～未来の子どもたちへ～		
	マイクロプラスチックが生態系に与える影響		

【r. ライフサイエンス】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	乳酸菌は飛ぶのか	○	
平成31(2019)年度	がん患者とサポート		
令和2(2020)年度	地衣類と環境		○
令和3(2021)年度	がん患者と治療方法		○
令和4(2022)年度	食品ロスの割合と日本人が賞味期限に抱く印象		
	子宮頸がんの現状とワクチン ～健康な未来のために～		
	油脂コーティングを用いた乳酸菌の生存率の向上について		
	ウトウトタイムで目をつぶるだけでもストレス値は軽減されるのか		

GS課題研究テーマ一覧（7）

【r. ライフサイエンス】

年度	テーマ	発表	スライド
令和5(2023)年度	うつ病と対策		
	うつ病は脳の病気		
	菌の抑制		
	シャンプーの脱色成分について		

【s. 情報】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	A R技術活用による利便性の向上の研究		
	オンラインによる支援物資の整理と効率化の研究		
	I C T教育の現状と今後について		
平成31(2019)年度	社会に役立つアプリケーションの開発		
令和2(2020)年度	ペルチェを使った実験		
	日本のSNSの現状と誹謗中傷への対策		
	できるだけ安く実用的なパソコンを作る		
令和3(2021)年度	災害時のフェイクニュースを防ぐアプリ考える		○
	SNS内の情報流出と情報管理		
	フェイクニュースについて ～デマや不確かな情報に惑わされないために～		
	教育のためにARシステムを創造する		○
令和4(2022)年度	情報社会におけるメディアとの接しかた ～騙されないためには～		
	バーチャル空間での再現と活用		
令和5(2023)年度	教育でのARアプリの制作		

【t. 物質・材料・エネルギー・原子力】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	圧力に伴う空気の移動に関する研究		
	太陽光パネルでiPhoneをどのくらい充電できるのか		
平成31(2019)年度	(該当なし)		
令和2(2020)年度	(該当なし)		
令和3(2021)年度	ヘドロ電池でカーボンニュートラル		
	学校敷地内の放射線観察		
令和4(2022)年度	微生物発電の作用と実用化に向けて		
令和5(2023)年度	脆いガラス		

【u. 地球・宇宙関係】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	(該当なし)		
平成31(2019)年度	宇宙で育つ植物		
令和2(2020)年度	(該当なし)		
令和3(2021)年度	地震の揺れ方は振動数にどう左右されるのか？		
令和4(2022)年度	テオ・ヤンセン機構を用いた新しい発電方法 ～ストランドビースト～		
令和5(2023)年度	人工知能による気象予測		

GS課題研究テーマ一覧（8）

【w. 安全・安心の科学技術】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	身近なものの自動化による影響		
平成31(2019)年度	電気使用量で生存確認		
	昆虫型水中ドローンの提案・開発		
令和2(2020)年度	充電器の秘密について		
令和3(2021)年度	(該当なし)		
令和4(2022)年度	未来の運送業を支えるドローン技術		
令和5(2023)年度	(該当なし)		

【y. 宇土地域研究】

年度	テーマ	発表	スライド
平成30(2018)年度	犯罪0.0の街づくり	○	○
平成31(2019)年度	宇土と細川家		
	方言の衰退		
	宇土市の子育て支援策とその認知度	○	○
	宇土の防災都市計画		
	地元が輝くために		
令和2(2020)年度	ポイ捨てについて		
	宇土高校周辺の外来植物とその対策について		
	今ある公園を防災公園として活用するには		
	コロナに負けない観光改善策		
	網田町を活性化		
令和3(2021)年度	宇土市の関係人口創出	○	○
	「GS-地域貢献プロジェクト」活動報告		○
令和4(2022)年度	高校生から宇土市への提案 ～SNSを活用した魅力化発信～	○	○
	関係人口創出と三角線の活性化		
	島原大変肥後迷惑		
	宇土市に企業支援案を提案しよう。		
	宇土の水質の現状 ～宇土の水路の汚れの原因を紐解く～		
	泥がドロン大作戦	○	○
	外国から来る人の生活課題		
令和4(2022)年度	宇土市の魅力		
	世界のいきなり団子		
	宇土から世界へ羽ばたこう～宇土を発信するために～		
	宇土雨乞い大太鼓の魅力		
	多文化共生のまちづくり		
	アライグマの被害とその対策		

※ GSが始まった時期は多くが調べ学習で終わっていて、研究とは言えないポスターも少なくありませんが、これから取り組む課題研究の参考にしてください。
ポスターやパワーポイントを見て、先輩の研究の継続研究を行っても構いません。

GS課題研究テーマ一覧（9）

【学際：ペーパーブリッジ班】

年度	テーマ	発表	スライド
令和5(2023)年度	ペーパーブリッジを一定の負荷で座屈させる構造とは？		

【学際：ヘドロ班】

年度	テーマ	発表	スライド
令和5(2023)年度	ため池ヘドロ電池を作る！		
	ヘドロの可能性～産業廃棄物を使えるものに～		
	五色山～有明海をつなぐスラッジペーパー		

【学際：睡眠班】

年度	テーマ	発表	スライド
令和5(2023)年度	スポーツ選手を対象とした睡眠とヘルスケアに関するデジタル技術の活用について		

【学際：防災班】

年度	テーマ	発表	スライド
令和5(2023)年度	みんなにとってわかりやすいハザードマップとは？ ～防災意識の向上を目指して～		
	非常食の実態調査と宇土高校へのローリングストックの提案		
	液状化による被害を減らす ～液状化の発生する条件～		

地域資料

三輪節生さん提供 朝日新聞記事・地域調査資料（福岡市在住・元朝日新聞記者）

（宇土高校 昭和40年（1965年）卒業 東京外国語大学ロシア語学科卒）

※ chrome book から Google Classroom で見るができます

課題研究のポスターやプレゼンテーションで利用する時は、参考・引用のルールを参照すること

【朝日新聞記事 資料】

系統	記事名	掲載年月日
自然・風土	ツルとの共生（鹿児島県出水市）	2006.12.10
生活文化	わらこづみ	2010.2.11
歴史・伝統	オレンジの道 1～4	2007.5.28～6.25
	ヤマイモ掘り名人（鹿児島県菱刈町）	2006.1.28
	飴づくり（福岡県柳川市）	2010.12.21
	筑後の匠・線香	2011.10.18
環境	循環のまちづくり記事（福岡県大木町、水俣市）	2010.12.17
	水車発電	2011.7.25
	水車揚水	2012.5.11
	絶滅危惧種人工繁殖（久留米市）	2013.3.8
産業	カツオ節（鹿児島県指宿市・枕崎市）	2006.5.22
	伝統野菜	2008.9.21
	コハダ記事	2010.11.6
観光	広がるグリーンツーリズム	2004.1.11
	グリーンツーリズム記事	2011.6.3

【地域資料、など】

系統	テーマ
自然・風土	オレンジと干しガキ（日本語版、英語版）、宇土の干潟（日本語版、英語版） 有明海 河口や干潟の生き物 有明海の野鳥
	アユ（鮎） カモメ コウノトリとトキ シギやチドリ ツルの飛来地 デコボンとネーブルミカンの仲間 ハマグリ ミサゴ 二枚貝のカキ クロツラヘラサギ（日本語版、英語、韓国語、ロシア語）
環境・生態系	諫早湾干拓
生活文化	オレンジと干しガキ（日本語版、英語版） 宇土のごちそう（日本語版、英語版） 忘れられゆく宇城地方のごちそう（日本語版、英語版） 干しガキ 竹の利用 石工の知恵 消えたごちそう ウナギ
三角線の旅 （風土記）	三角線の旅・表紙 表紙2（科学の心と目をはぐくむ） 宇土駅 豊作への願い 緑川駅 桃の節句 粟嶋神社（英語版有り） 住吉駅 アサリ ノリ ムツゴロウ 住吉駅 網田駅 クロツラヘラサギ 網田駅 天草陶石 焼き物 見どころへの行き方How to get the place
生き方、学び	私の青春時代

【第6次宇土市総合計画の重点戦略】～みんなでつくる住みよい“輝くふるさと”「UTO」プロジェクト～

U ～美しい自然と農・漁の恵みを活かし、活力と賑わいを生むふるさとづくり

- 自然と歴史を活かした交流の拡大
- 農水産物の高付加価値化・消費拡大

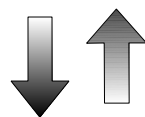
T ～都市と自然が共生する、住みたい、住み続けたいふるさとづくり

- 定住・移住を拡大する土地の有効利用
- 「選ばれる」住み良いまちへのPR活動の拡大

O ～思いやりあふれる子育て安心ふるさとづくり

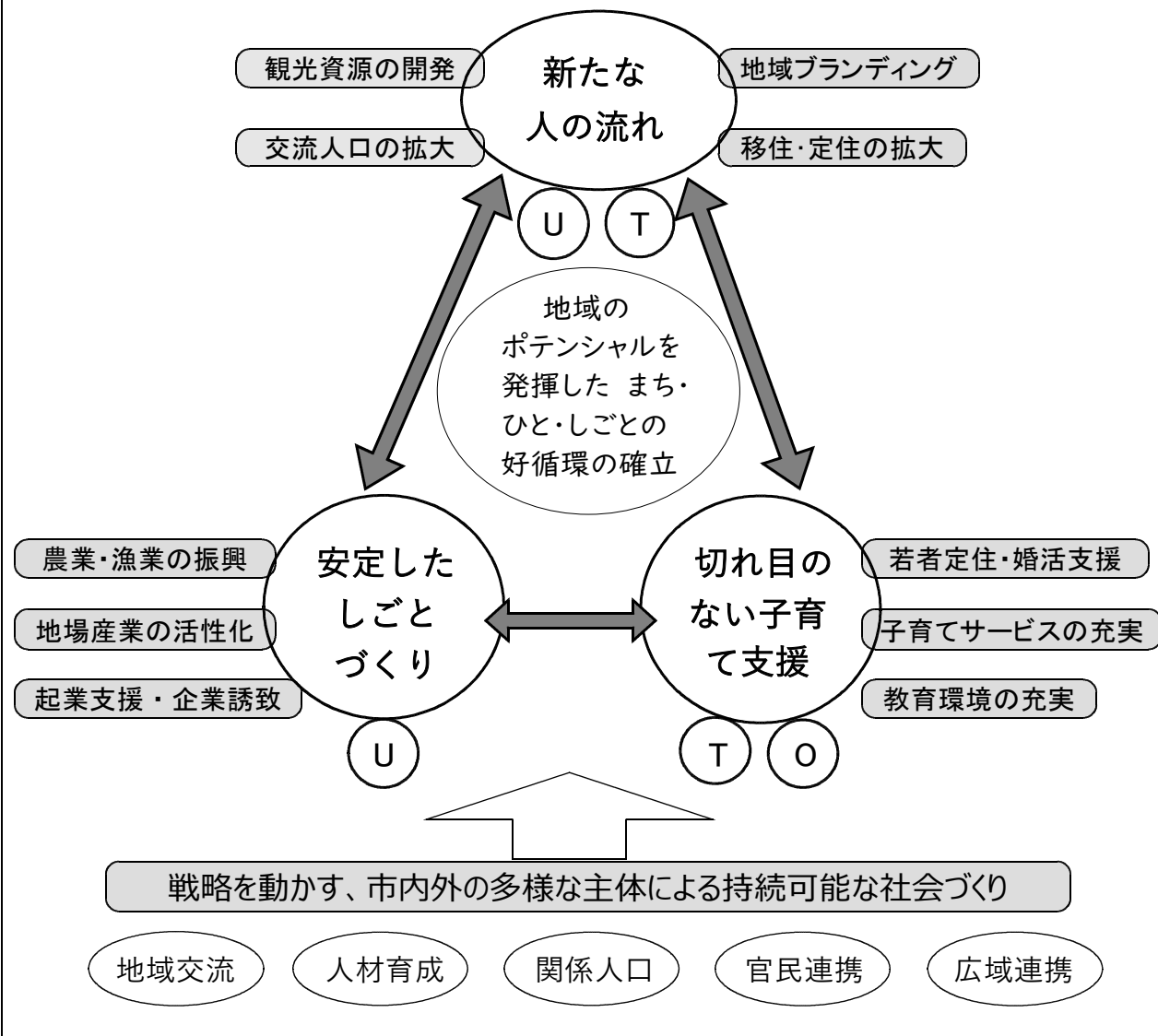
- 安心して産み育てられる子育て環境の充実
- 地域・学校・家庭が連携した子どもの育成環境の充実

重点戦略の取組を深化させるための具体的戦略



総合戦略の取組が重点戦略の促進に繋がる

【第2期宇土市まち・ひと・しごと創生総合戦略】



団体、企業・組織：	日時：
対応していただいた方（役職等）：	電話番号・住所：
目的： ----- -----	
質問事項（箇条書き）： ----- ----- ----- -----	

メモ欄：

団体、企業・組織：	日時：
対応していただいた方（役職等）：	電話番号・住所：
目的： ----- -----	
質問事項（箇条書き）： ----- ----- ----- -----	

メモ欄：

団体、企業・組織：	日時：
対応していただいた方（役職等）：	電話番号・住所：
目的： ----- -----	
質問事項（箇条書き）： ----- ----- ----- -----	

メモ欄：

皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、このたびの課題研究調査では、たいへん御世話になりました。おかげ

さまで、宇土市の災害時の避難にまつわる対応や、職員の皆様のご苦勞を
学ぶことができました。このたびの調査を元に宇土市で暮らす私たちも

災害に対する意識をより一層高めて行きたいと思いをしました。

御多用の中、説明に関する資料も準備していただき、丁寧に御対応
いただいた○○様にはたいへん感謝しております。職員の皆様にも
くれぐれもよろしくお伝えください。

まずは書中をもちましてお礼を申し上げます。

令和○年○月○日

熊本県立宇土高等学校二年

○○○○○○○○
○○○○○○○○

宇土市○○部○○○○課

主事 ○○○○様

自由記録欄

記入日時：

This image shows a full page of primary-ruled paper. At the very top, there is a decorative border consisting of a series of slanted parallel lines. Below this border, the page is filled with horizontal ruling lines. Each ruling unit consists of three lines: a solid top line, a dashed middle line, and a solid bottom line. These units are repeated down the entire length of the page, providing a guide for letter height and placement. The paper is otherwise blank, with no text or other markings.

自由記録欄

記入日時：

[illegible]

自由記録欄

記入日時：

[illegible]

自由記録欄

記入日時：

[illegible]

参考文献・引用文献

OECD Future of Education and Skills 2030 / The OECD Learning Compaece 2030

<http://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/>

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」(平成 30 年告示)

国際連合広報センター 経済社会開発 / 持続可能な開発 / 2030 アジェンダ

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

ベネッセ教育総合研究所 VIEW21 2015 年 4 月号 探究学習の現状と課題、課題解決の視点

ベネッセ教育総合研究所 VIEW21 2016 年 10 月号 問題解決的な「探究学習」が、これからの時代を生きる力を育む

ベネッセ教育総合研究所 VIEW21 2018 年 8 月号 「問い」を機転に考える探究学習

ベネッセ 2018 年 表現サポート『高校生の論点』『表現トレーニング』

ベネッセ教育総合研究所 VIEW21 2019 年 1 月特別編集 資質・能力を育む指導の P D C A サイクルの確立

ベネッセ教育総合研究所 VIEW21 2019 年 8 月号 Society5.0 ー高校教育のこれからー

ベネッセ教育総合研究所 VIEW21 2019 年 10 月号 探究学習 ーその時、教師は

ベネッセ教育総合研究所 VIEW21 2020 年 4 月号 「あり方・生き方」を考える

ベネッセ教育総合研究所 VIEW21 2020 年 10 月号 「主体的・対話的で深い学び」を問う

ベネッセ VIEW next 高校版 2022 年 2 月号 新課程レポート「総合的な学習の時間」に向けた準備

日本図書館協会図書館利用教育委員会 図書館利用教育ハンドブック学校図書館(高等学校)版
作業部会 2011 年 『問いを作るスパイラル ～考えることから探究学習をはじめよう』 社団法人 日本図書館協会

酒井聡樹 2013 年 『これから研究を始める高校生と指導教員のために：研究の進め方・論文の書き方・口頭とポスター発表の仕方』 共立出版

内田 治 2013 年 『すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・分析 第6版』

岡本尚也 2018 年 『課題研究メソッド』 新興出版啓林館

神原洋子 (株)トモノカイ 2019 年 『一生使える探究のコツ』 (株)トモノカイ

稲井達也 2019 年 『高等学校「探究的な学習」実践カリキュラム・マネジメント ー導入のための実践事例 2 3 ー』 学事出版

前田謙利 2019 年 『プレゼン資料のデザイン図鑑』 ダイヤモンド社

オフィス伝わる 2017 年 「伝わるデザイン 高校生のための研究発表手引き」

宇土市公式ウェブサイト 第2期宇土市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (R2年度～R6年度)

<https://www.city.uto.lg.jp/article/view/1138/312.html>

<https://student.tsutawarudesign.com/>

<https://www.kawai-juku.ac.jp/exam-info/kinki/inochinomori/information/ctg03/010/>

<https://job.rikunabi.com/contents/interview/4556/>

<https://office-hack.com/powerpoint/presentation-tips/>

<https://www.ganbarusite-daido.jp/report/strengthen/bp400027/>

熊本県立宇土中学校・宇土高等学校研究開発部編 (2021) 平成 30 年度指定スーパーサイエンス
ハイスクール LOGIC・ガイドブック 第2版

熊本県立宇土中学校・宇土高等学校研究開発部編 (2022) 平成 30 年度指定スーパーサイエンス
ハイスクール研究開発実施報告書

熊本日日新聞 2024 年 3 月 31 日 朝刊 社説「阿蘇草原の野焼き ～多様な担い手を確保したい～」

あとがき *****

「便利さや快適さが、人の力を失わせ人をダメにする。困難や失敗が人を育て、その人に自分自身を認める心が宿る」ある病院の先生の講演会で話された言葉が、ずっと残っています。

人々が、生活の便利さや快適さを求めることは決して悪いことではなく、社会が求め進む方向であると思います。一方で、今日の社会を顧みると、子どもや働き盛りの引きこもり、高齢者の独居が社会問題化しているように、人と社会のつながりが難しくなっている場面も少なくありません。若い人たちだけでなく、全ての世代の人たちにとっても、自分と他人とが強くつながり、今を生き抜いていく力を培うことは、現代の多様化し複雑化した社会では簡単なことでないのかも知れません。

『OECD Learning Compass 2030』で子どもたちに身につけさせる資質・能力の1つに「対立やジレンマに対処する力」があります。学校は学問を身につける場であるとともに、対人関係を訓練し、そのスキルを身につける場でもあるのです。「人と人とのより強くつながり合わなければ、よりよい未来社会を築くことができない」のであるのならば、君たちが取り組む探究活動では、同じ思いを持つ者同士がどこまでも意見を斗(たたか)わせなければなりません。それが本来の「学び」のあり方であり、将来を生き抜く力につながるのだと感じられます。

はじめに紹介した先生は、続けてこのように話されています。人は「苦しい」とか「悲しい」とか「辛い」とか、思い通りにいかないことに出会って心が育っていく。「困った」「しまった」「どうして」「いやだ...」という失敗を経験して、自己肯定感(自分を認める心)が培われていく...

日々の生活の中で、自分の心と身体、他人・社会との関係、そして学習や探究活動は多くの困難をまねき、面倒くさく思い通りに行かないことだらけでしょう。それでもそれは現代の「通過儀礼」。君たちの真の課題は、社会に出るまでにこれらの困難に向き合う力、対処し行動する力、未来社会を切り拓いていく力を身につけていくことなのだと思覚して欲しいと思います。その先に、生きることの楽しさや人と出会い愛することの喜びがあって、きっと人は、社会は、そして人類は解放されていくのだと、そう信じています。

さあ、一步踏み出しましょう。決められたゴールは変えることはできないのです。

GS本 *Global Science Course Workbook*

令和6年(2024年)5月発行

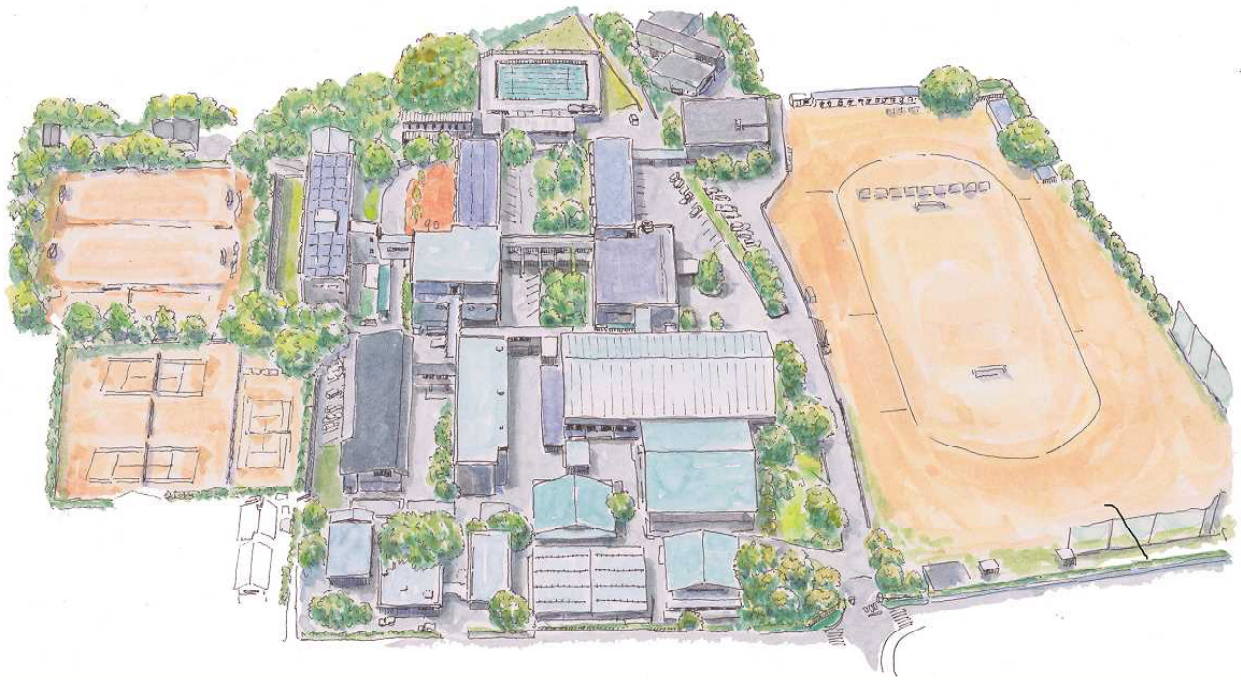
熊本県立宇土中学校・宇土高等学校 研究開発部

〒869-0454 熊本県宇土市古城町63

TEL 0964-22-0043 FAX 0964-22-4753

印刷・製本 株式会社協和印刷

本書は、熊本県立宇土中学校・高等学校の教育活動で使用するものです。
無断で転載または使用することはできません。本書は非売品です。



*Learn about yourself,
deepen the understanding of yourself
and open the way to the future*

GS-book

Global Science Course Workbook

*Kumamoto Prefectural Uto Junior and Senior High School
Super Science High School
Global Leaders Project*

2 年 組 号 ⇒ 3 年 組 号
班 : 氏名 :